

下高井戸調節池工事及び 搬出入路設置工事 説明会

日時：平成30年3月18日（日）
平成30年3月20日（火）

東京都第三建設事務所
松井建設株式会社
大成・徳倉建設共同企業体

案内図

利根川流域



○河川延長 24.6km 下流端：台東区柳橋一丁目
上流端：三鷹市井の頭三丁目

 河 川
 神田川の流域界
 区 ・ 市 境

過去の代表的な水害

■ 神田川流域における主な水害

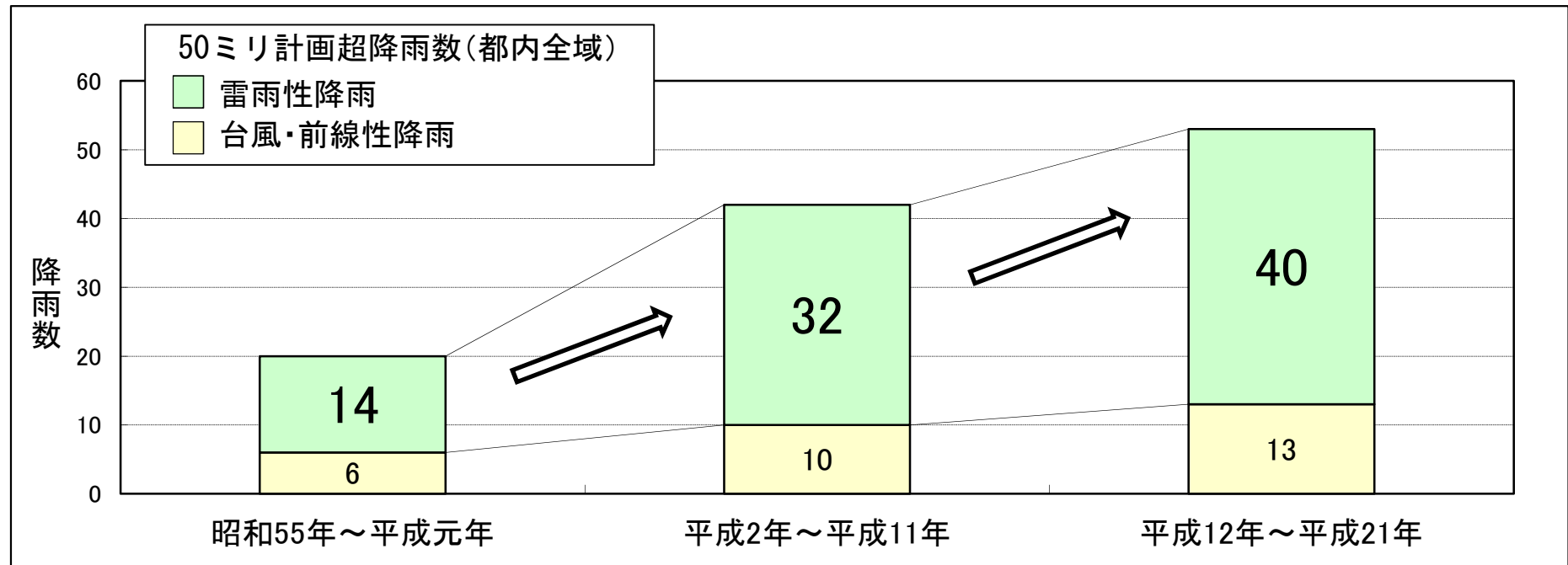
	昭和56年7月 集中豪雨	平成5年 台風11号	平成17年9月 集中豪雨
状況写真	 (神田川 新宿区神高橋付近)	 (神田川 中野区弥生町付近)	 (妙正寺川 北原橋: 中野区提供)
発生年月日	昭和56年7月22日	平成5年8月27日	平成17年9月4日
観測所	東京	弥生町	下井草
1時間最大雨量(mm/h)	77.0	47.0	112.0
24時間雨量(mm)	81.0	195.0	251.0
浸水面積(ha)	188.7	117.1	125.9
床上・床下浸水家屋(棟)	5,697	4,706	3,591



近年の降雨状況の変化

■ 降雨の発生要因の変化

時間50ミリを超える雷雨性降雨が増加傾向



出展:「東京都内の中小河川における今後の整備のあり方について最終報告書」(平成24年11月)より

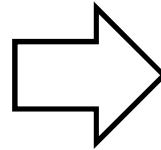
新たな整備方針における整備の考え方

■新たな整備方針

「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」(平成24年11月)
「東京都豪雨対策基本方針(改定)」(平成26年6月)

■目標整備水準の引き上げ

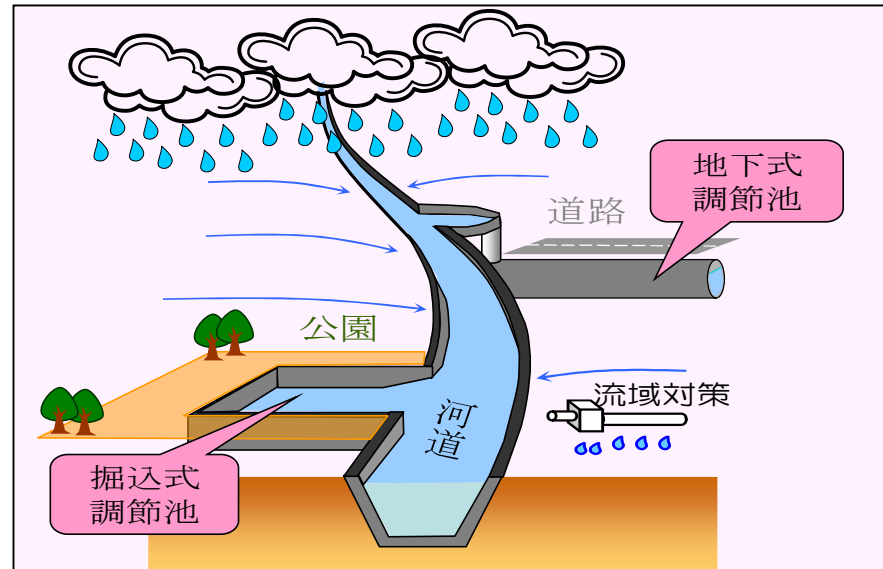
これまでは
時間最大50ミリの降雨に対応



区部河川は、
時間最大75ミリの降雨に対応

■整備の考え方

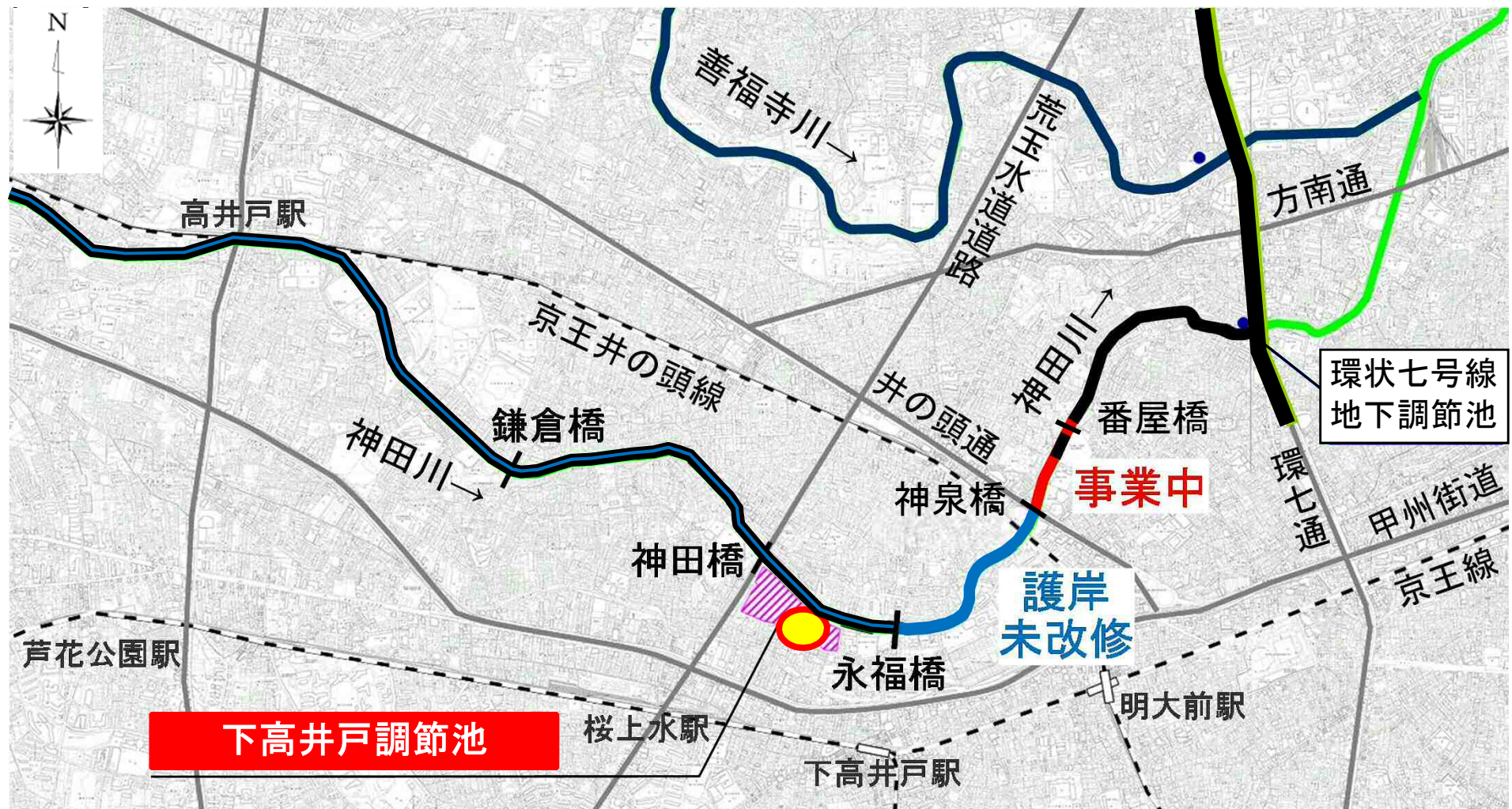
時間50ミリ降雨までは河道で対応。これを超える降雨は新たな調節池及び流域対策※により対応



※流域対策
流域内に降った雨水を貯留、浸透させて、河川への流出を抑制する対策。例) 雨水貯留施設や透水性舗装や浸透ますなど

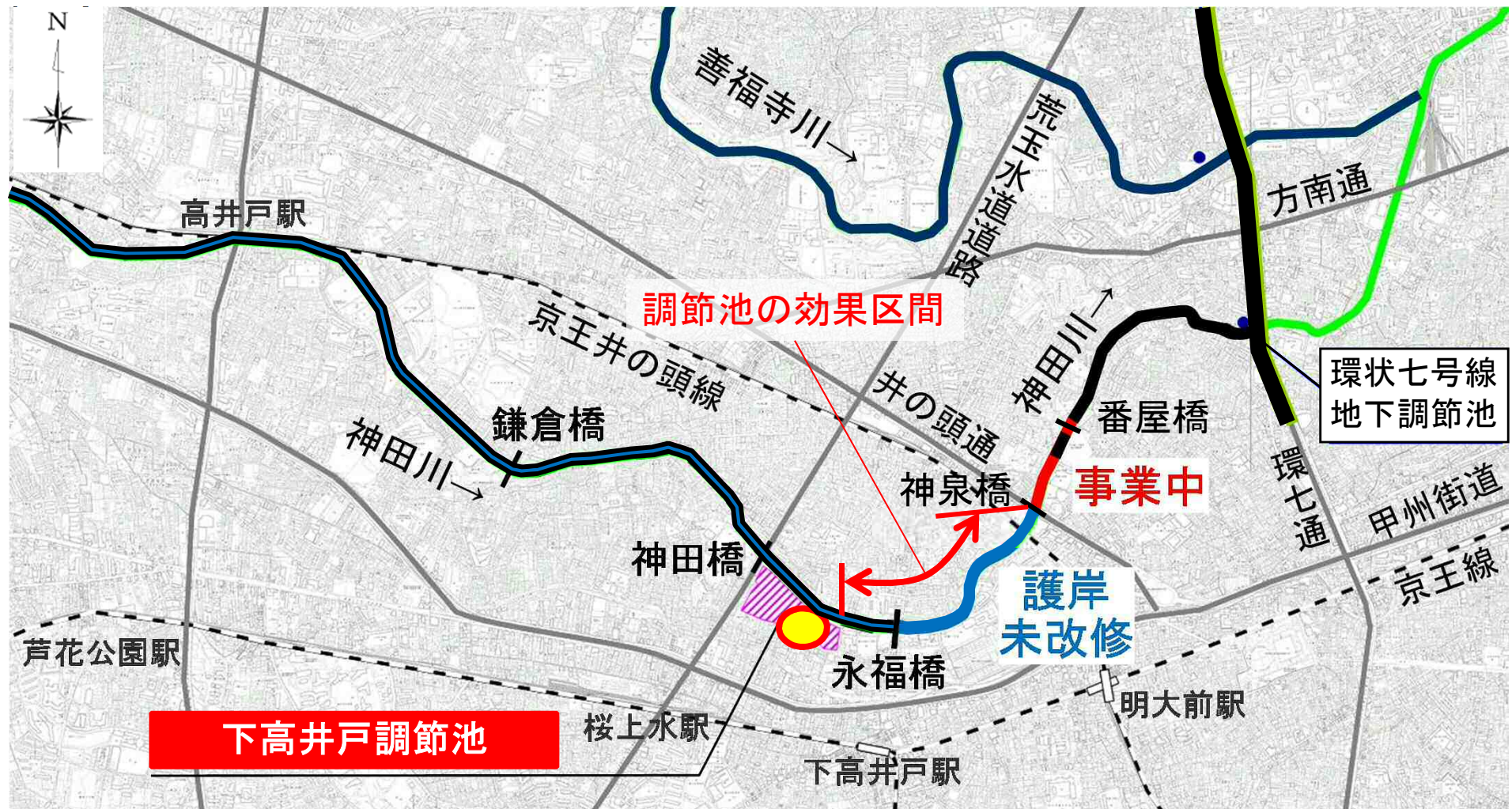
調節池は、道路下や公園等の公共空間を活用し効率的に整備

神田川の改修状況



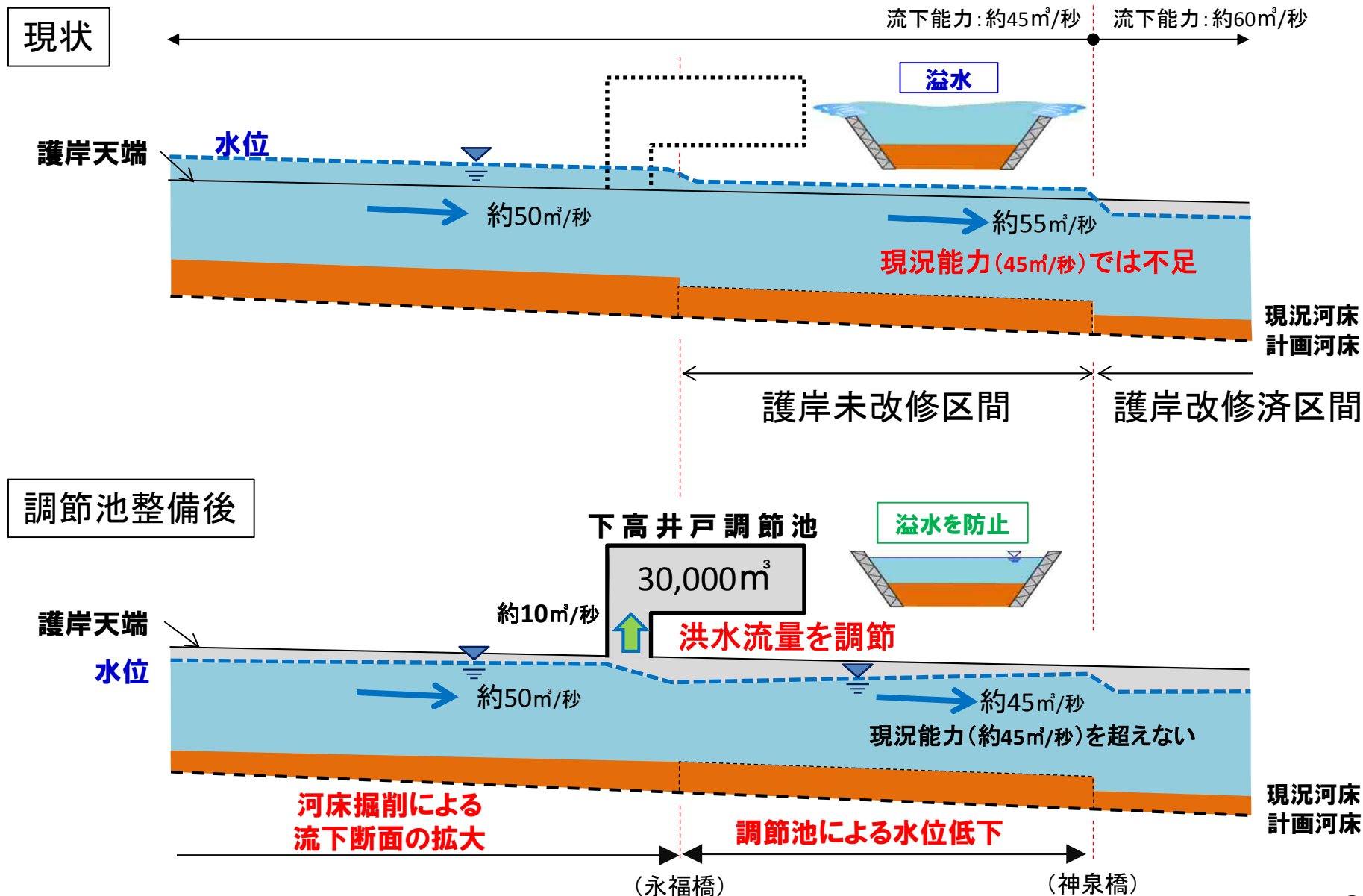
- ・環七地下調節池より上流に向かって、時間50ミリ降雨に対応する護岸改修を実施
- ・現在は番屋橋～神泉橋付近で事業中
- ・永福橋までの護岸改修には、今後、約15年から20年を要する。

下高井戸調節池の整備効果



- ・調節池下流において、時間50ミリ降雨に対して早期に対応(約6年で効果発現)
- ・調節池整備後はさらに上流に向け河床掘削を実施。
- ・河道整備の完了後は時間75ミリ降雨対応の施設として効果を発揮する。

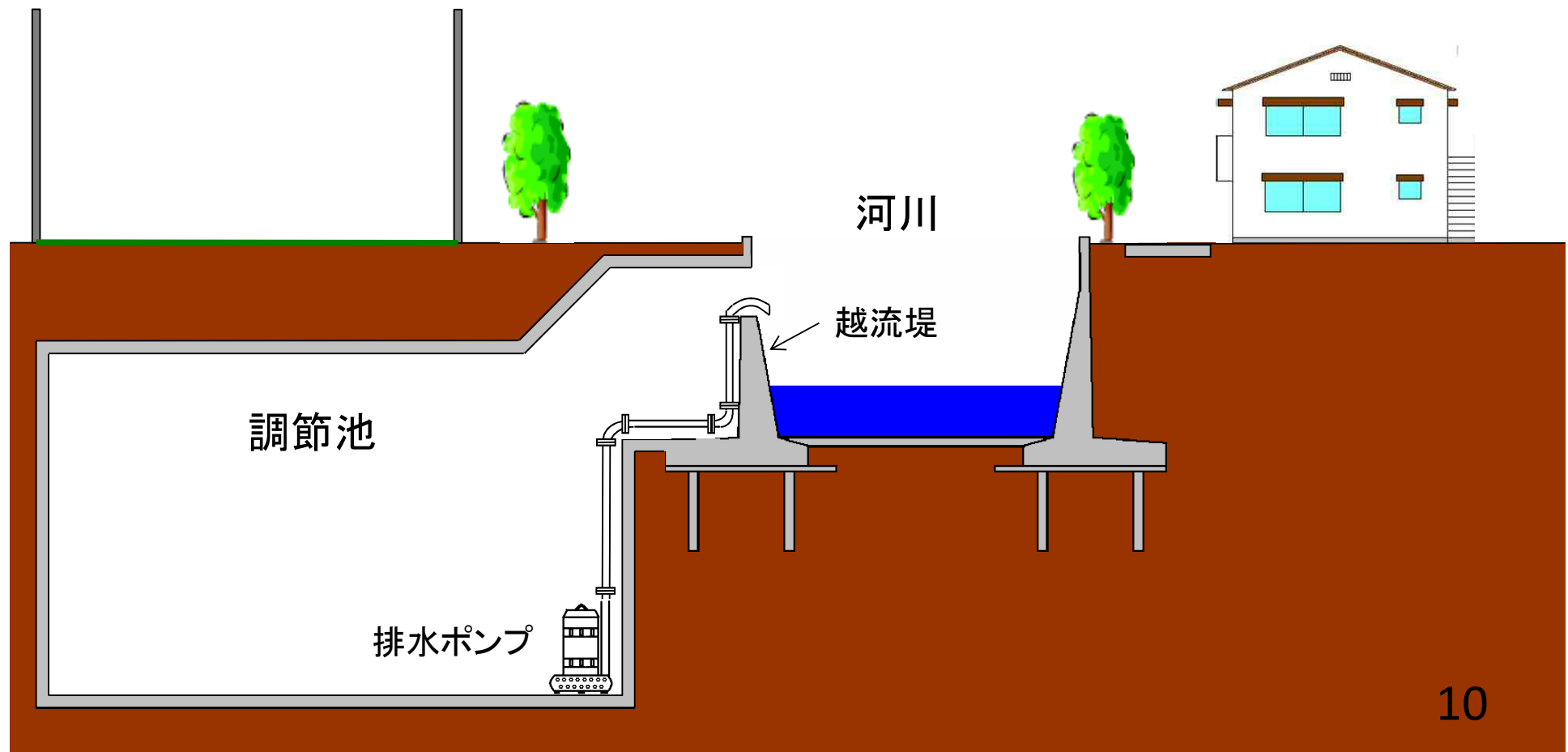
下高井戸調節池の効果イメージ（水位縦断）



下高井戸調節池の整備により早期に50ミリ降雨に対する治水安全度向上が可能

調節池の機能イメージ

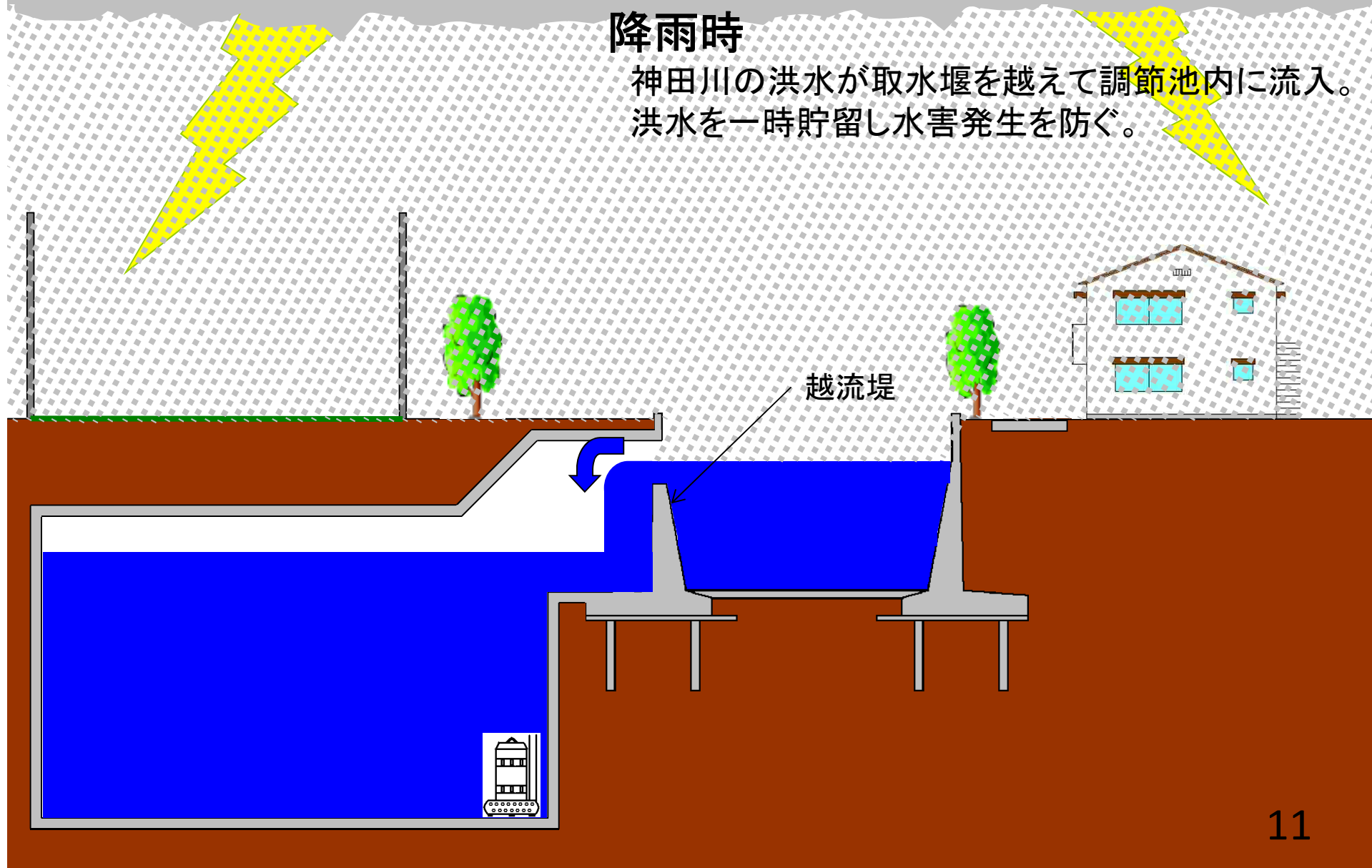
平常時



調節池の機能イメージ

降雨時

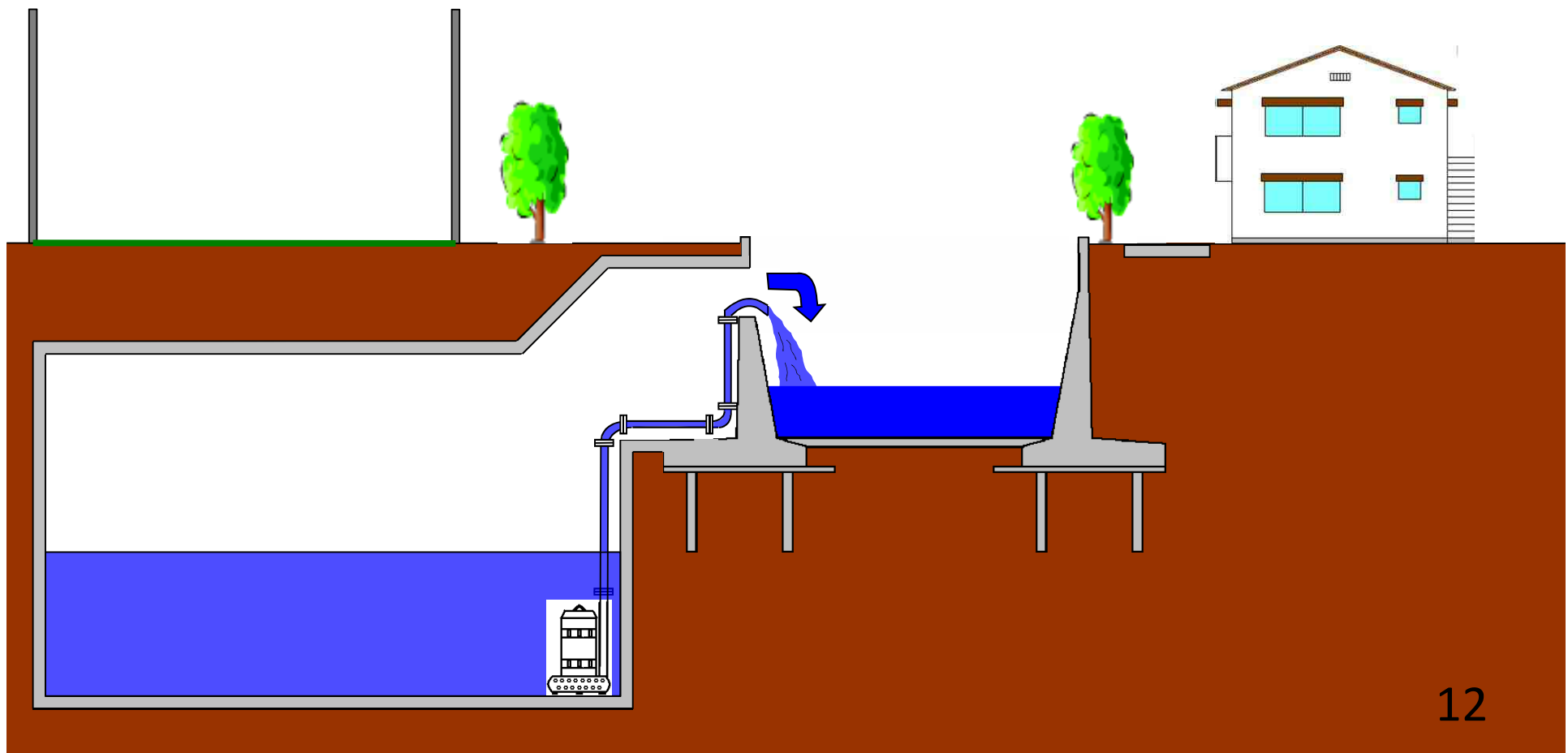
神田川の洪水が取水堰を越えて調節池内に流入。
洪水を一時貯留し水害発生を防ぐ。



調節池の機能イメージ

降雨終了後

排水ポンプにより調節池内に貯留した水を
神田川に排水。次の洪水に備える。



調節池のイメージ

妙正寺川第二調節池への洪水流入状況

通常時



越流堤
河川の水位が上がると
調節池内に洪水を流入させます

洪水時(流入時)

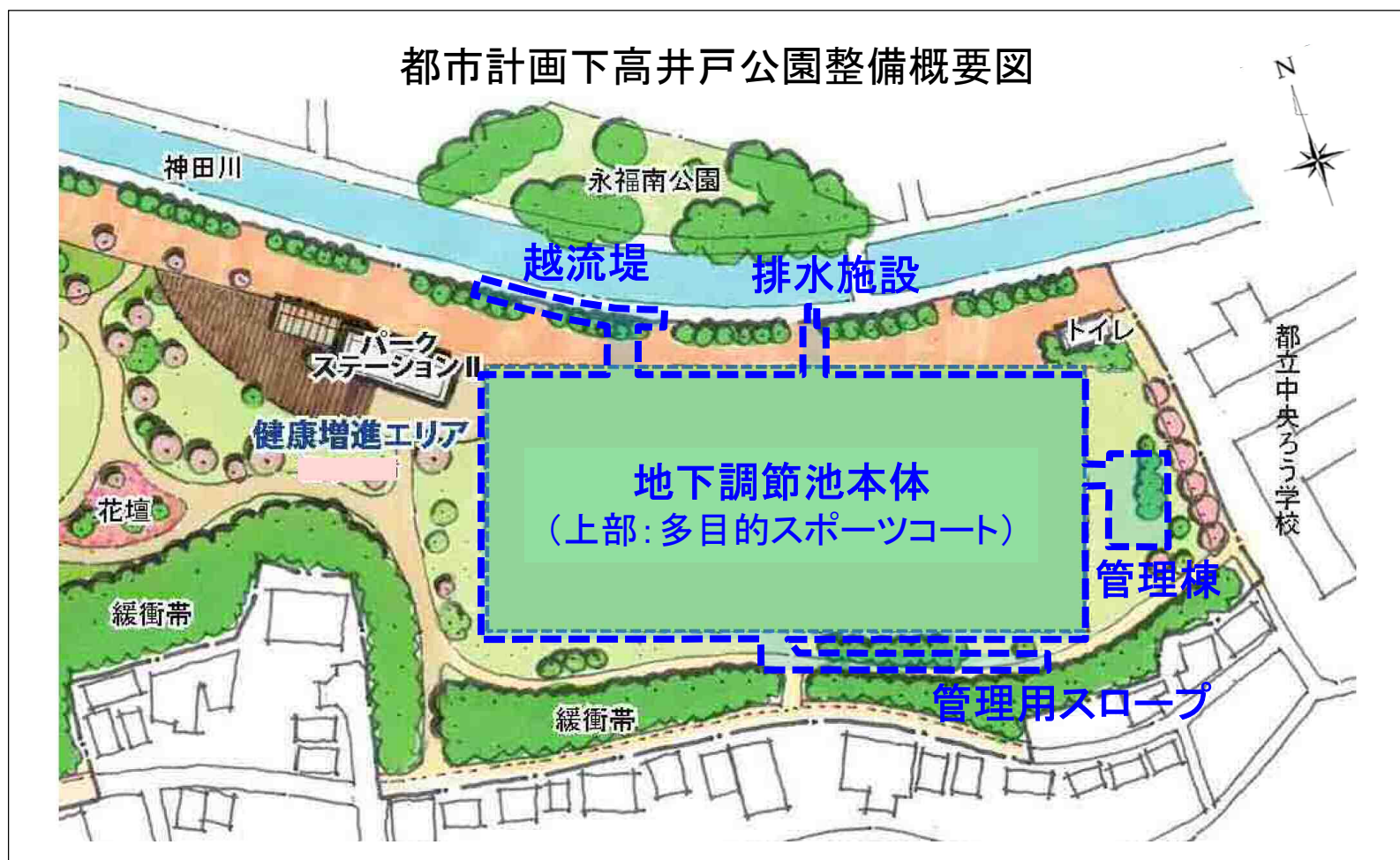


洪水を調節池に流入させ、一時的に貯留することにより、調節池下流側の水位を下げ、安全にします

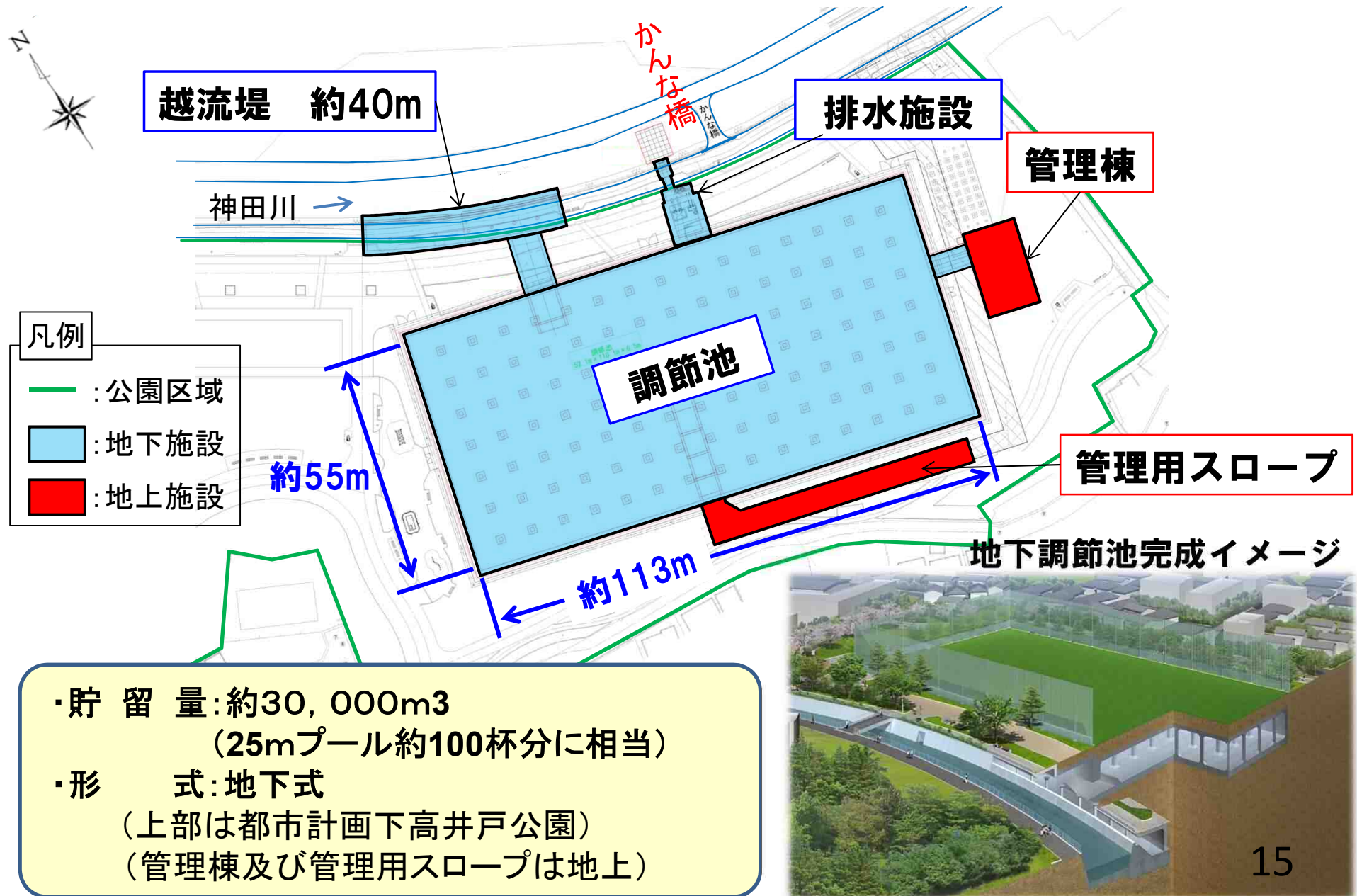
下高井戸調節池の計画

■施設配置の基本的な考え方

- ・早期事業化を図るため、公共用地を活用する
- ・公園計画との整合をはかった施設配置



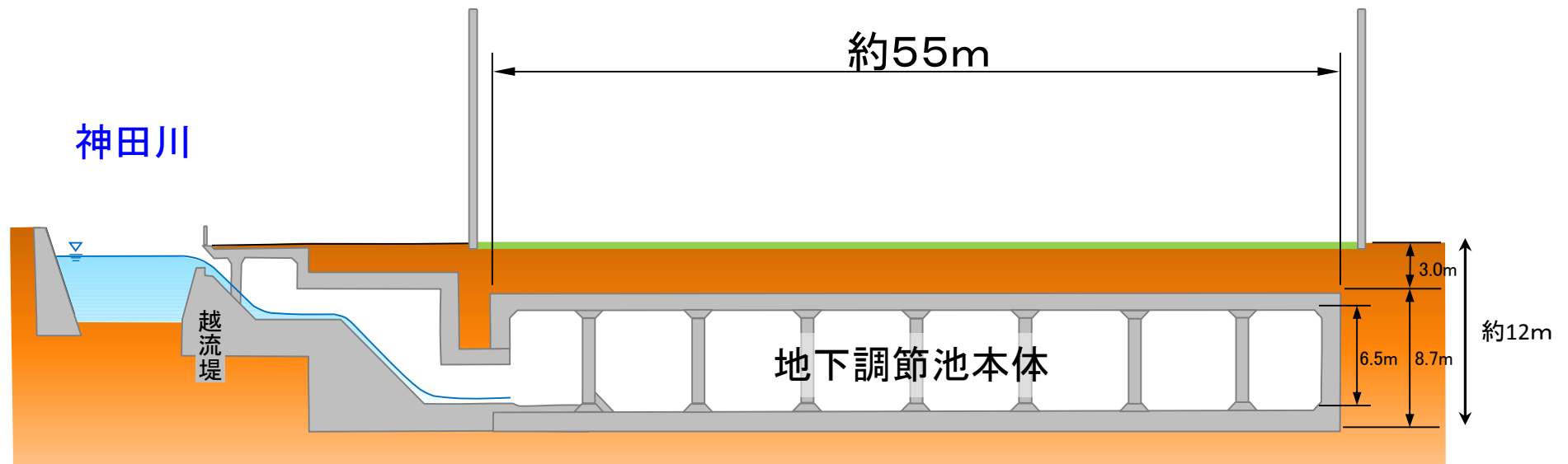
下高井戸調節池の計画



下高井戸調節池の計画

完成時

都市計画下高井戸公園
(多目的スポーツコート)



標準横断面図

事業工程表

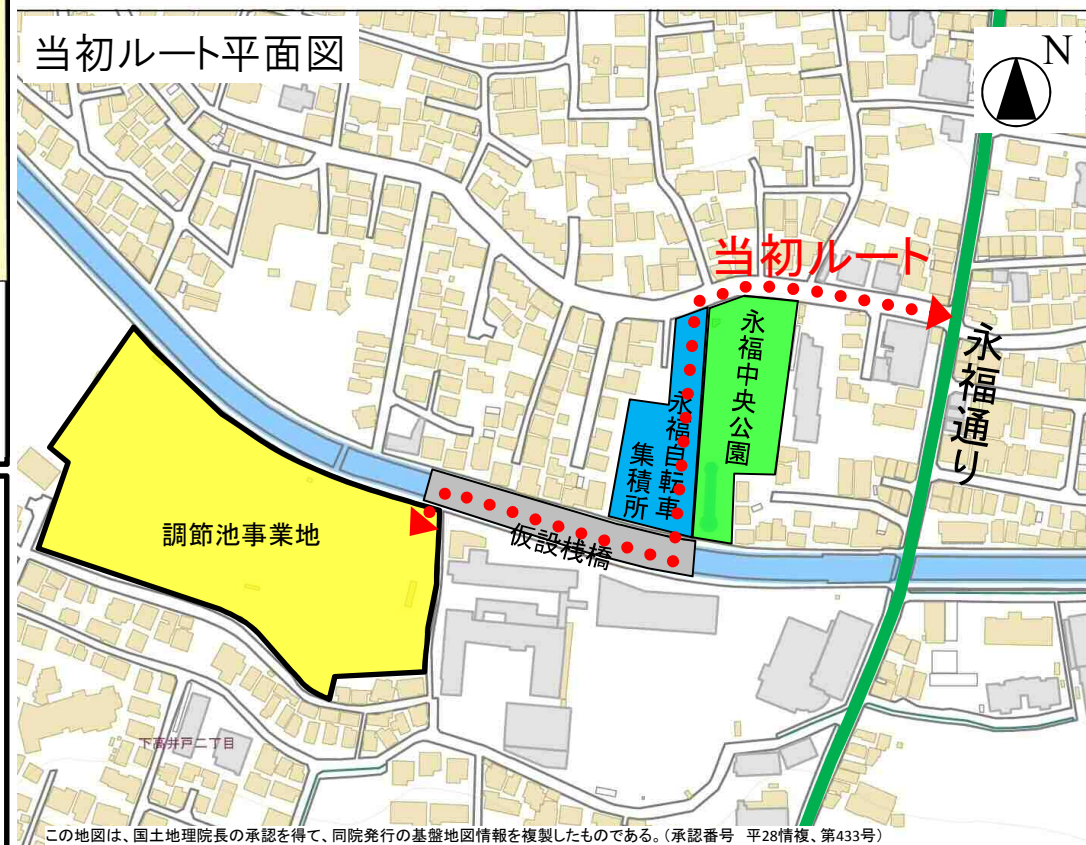
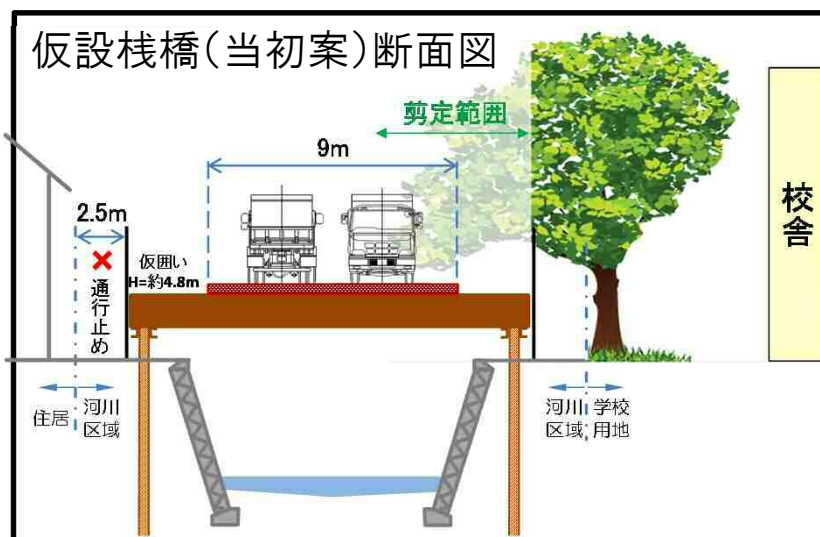
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
説明会	準備工事説明会	本出入路工事説明会								
調節池工事		搬出入路設置工事 (約1年3ヶ月)							取水開始予定 ▽	
								調節池本体工事 (約5年5ヵ月)		
							建築・設備工事			
公園復旧工事 復旧工事										復旧工事

※この工程表は現時点での計画であり、今後変更となることがあります。

工事用搬出入路の見直しについて

工事用搬出入路（当初案）

当初は、永福通り⇒永福中央公園前の区道⇒永福自転車集積所
⇒神田川上の仮設栈橋⇒調節池事業地に至るルートを設定。



搬出入路見直しの契機

下高井戸調節池工事に伴う準備工事 説明会
(※ 準備工事…調節池工事に使用する搬出入路の設置工事)

日 時:平成29年8月1日(火) 19:00～21:00

場 所:都立中央ろう学校体育館

出席者:53名

※説明会の配布資料や議事要旨は、第三建設事務所のホームページにも掲載しています。
第三建設事務所ホームページ > 審議会・各種会議の情報 > 工事説明会(下高井戸調節池)
URL: <http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jimusho/sanken/kakusyukaigi/index.html>



【説明会で戴いた、当初搬出入ルートに対する主なご意見・ご要望】

- (1) 見通しが悪い区道、子供の利用が多い永福中央公園の前を多くの工事車両が通行するのは避けてほしい。
- (2) 河川上に設置する栈橋や仮囲いが住居に近接するため、長期にわたり日照、植物の生育、熱環境、防犯面、その他生活環境への影響が大きい。
- (3) 搬出入路ルートについて、代案を検討してはどうか。
 - ①荒玉水道道路を一方通行規制等し、搬出入路とする案
 - ②中央ろう学校南側区道を拡幅し、搬出入路とする案
 - ③永福橋から直接搬出入する案
 - ④搬出入路トンネルを築造し、搬出入路とする案

搬出入ルートの見直し

8月の説明会において出席者から提案されたルートも含めて、調節池周辺の道路について比較検討を行いました。ルート選定にあたっては、**歩行者等の安全**の観点から以下の点を重視しました。

- 工事用車両の通行に際し、十分安全な道路幅員が確保されているか
- 歩道、ガードレール等により歩行者の安全が確保されているか

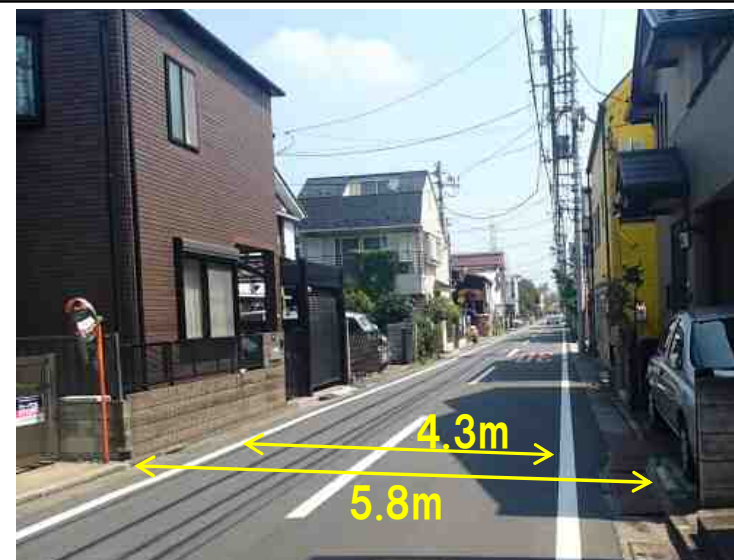


比較検討ルート①

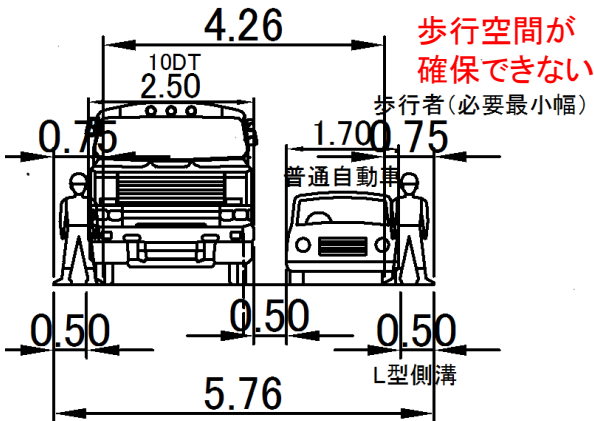
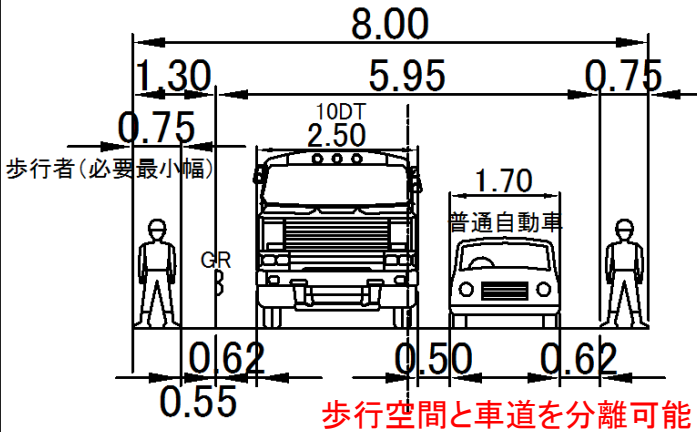
ルート①(荒玉水道道路を通行)

問題点

- ・道路幅員が狭いため、大型車両の通行は困難。(歩車道分離はされていない)
- ・大型車両の安全な通行のためには、甲州街道から井の頭通りまで一方通行規制が必要。(地域の同意が必要)
- ・通学路指定あり(永福小、高井戸三小など)
- ・重量制限(4t)あり



道路諸元の比較

	荒玉水道道路	永福通り
現況		
幅員	5.8m	8.0m
歩道	なし	あり
防護柵のある区間	1/4程度	全区間に断続的に設置
規制	重量4t	なし(現状、大型車が通行)
断面イメージ	 歩行空間が確保できない	 歩行空間と車道を分離可能

荒玉水道道路、永福通りの通行状況比較

荒玉水道道路



永福通り



歩行者の安全面を重視し、永福通りを使用するルートが良いと考えている。

比較検討ルート②

ルート②(中央ろう学校南側を通行)

問題点

- ・道路幅員が狭く屈曲部があり、見通しが悪い
- ・大型車両の通行のためには学校敷地や多数の民地の借地が必要
- ・工事用大型車両が通るとすれ違いができないため、一般交通への影響が大きい
- ・中央ろう学校生徒の通学路のため、歩車道分離されていない構造での大型車両の通行は危険



比較検討ルート③

ルート③(永福橋から河川上の栈橋を通行)

問題点

- ・工事用仮設栈橋の延長が当初案より延びる。
- ・仮設栈橋の施工ヤードを確保する必要がある。
- ・永福橋の補強が必要

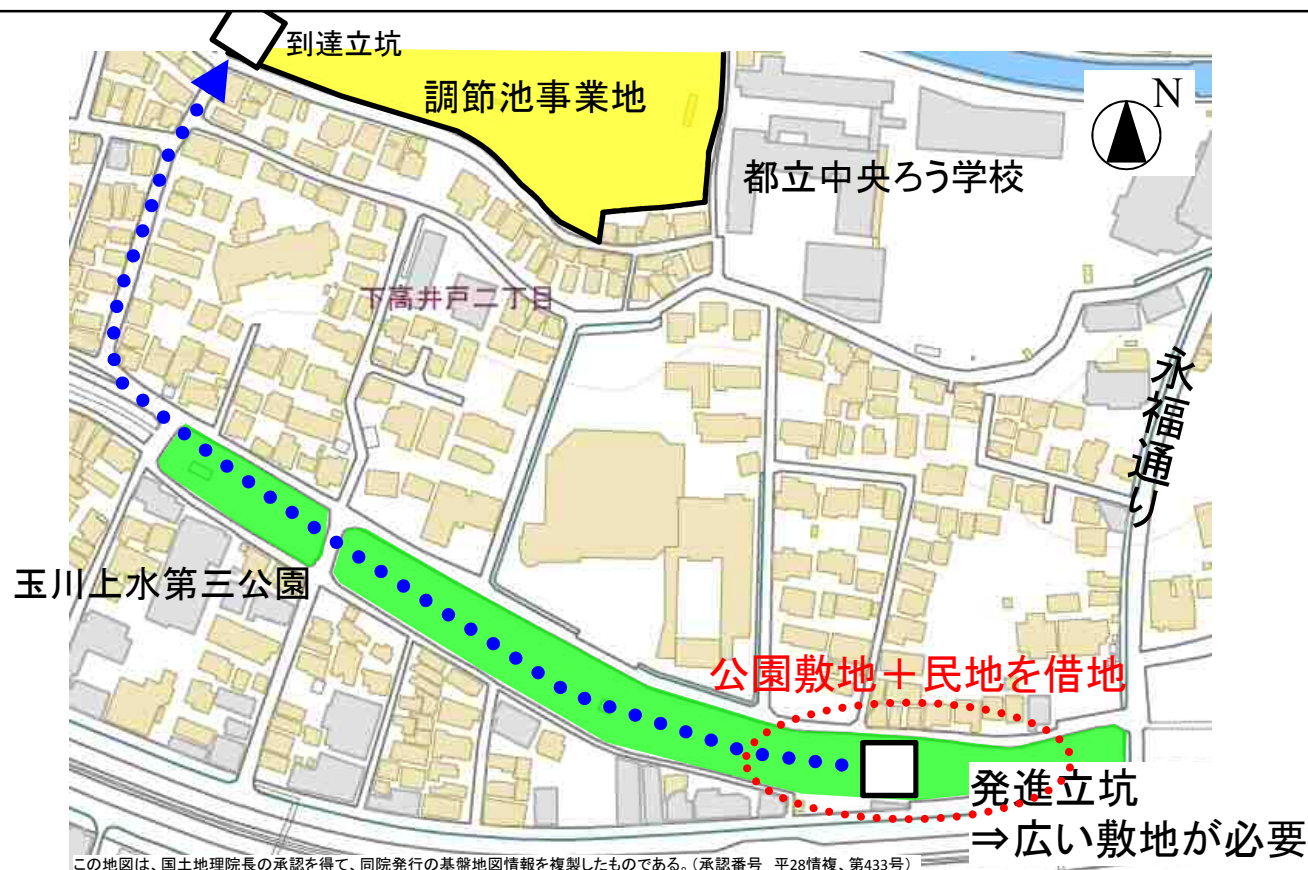


比較検討ルート④

ルート④(工事用トンネルを構築)

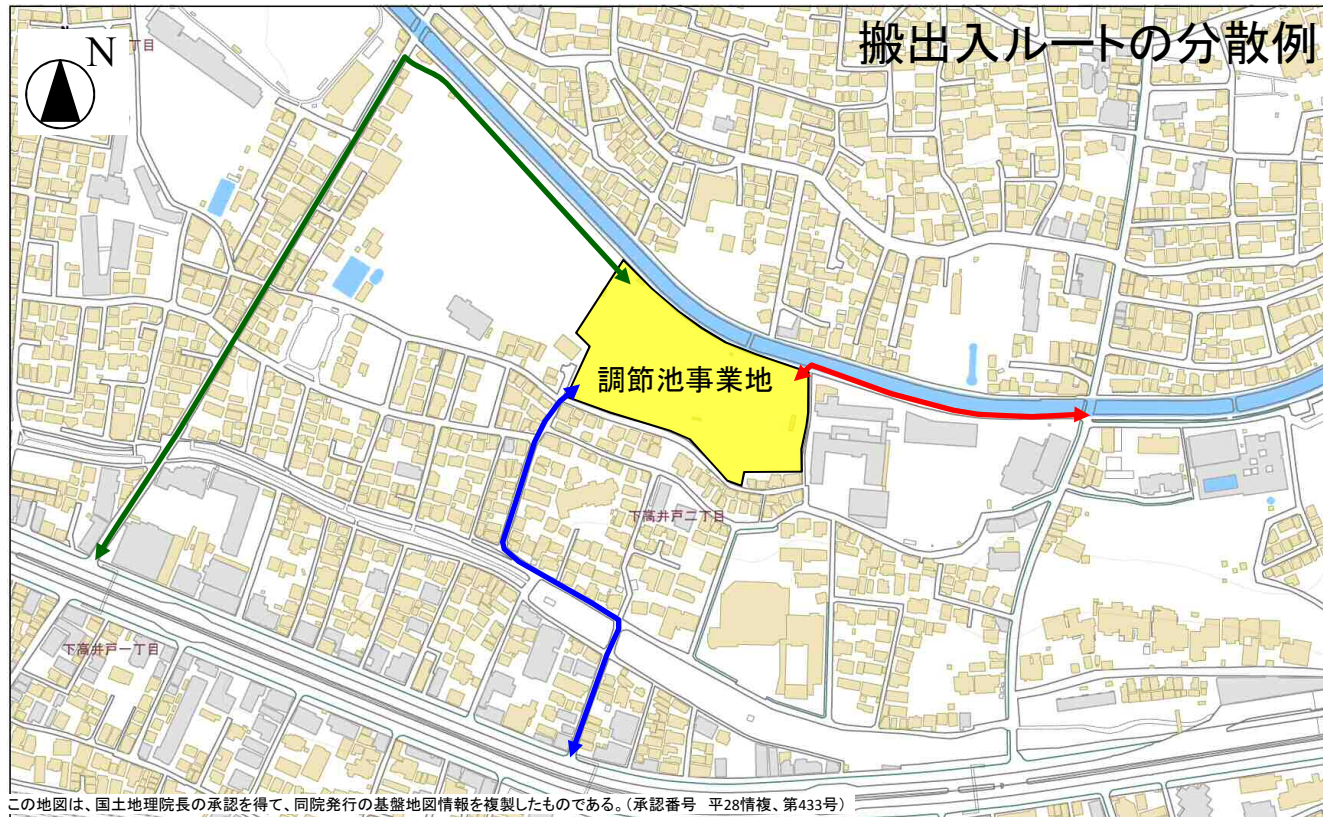
問題点

- ・大規模な作業ヤード(区立玉川上水第三公園+民地(家屋撤去))が必要。
- ・区立玉川上水第三公園には大口径の水道管2本が埋設されており、立坑構築時に移設が必要。
- ・作業ヤードに大型の防音ハウスの建設が必要。(周辺住宅への影響大)
- ・事業費増、工事期間長期化



その他の提案

- (1) “長期間にわたる”、“周辺環境への影響が大きい”工事のため、工事車両の動線を1つのルートに固定せず、複数のルートを使うことで、地域全体で負荷を共有してはどうか。



⇒複数ルートの使用により、一箇所ごとの車両通行量の減少は見込めますが、危険箇所の増加などの解消し難い課題があり、採用できません。

※小さい車両を少数入れて行う作業等他のルートの使用に問題が無い場合については、別ルートを使用することがあります。

その他の提案

(2) パイプコンベア(土の搬出入用設備)を使用することで、川の上の栈橋を設置しないで工事を進めることはできないか。

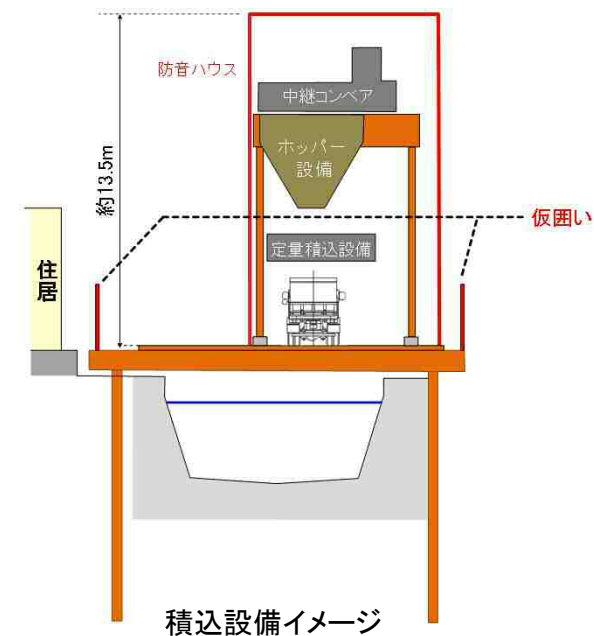
⇒土以外の資機材搬出入もあるため、搬出入路(仮設栈橋)は必要と考えています。

なお、土砂をパイプコンベアから車両に積み込むためのスペースを要するため、代替地を確保できない限り、川の上の栈橋は必要になります。

また、土砂の積込設備は、設備単体の高さのほか、防音機能を持たせる必要があるため、10m以上の高さの建屋が必要になります。日照など隣接住居への影響が大きく、採用できません。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を複製したものである。(承認番号 平28情複、第433号)



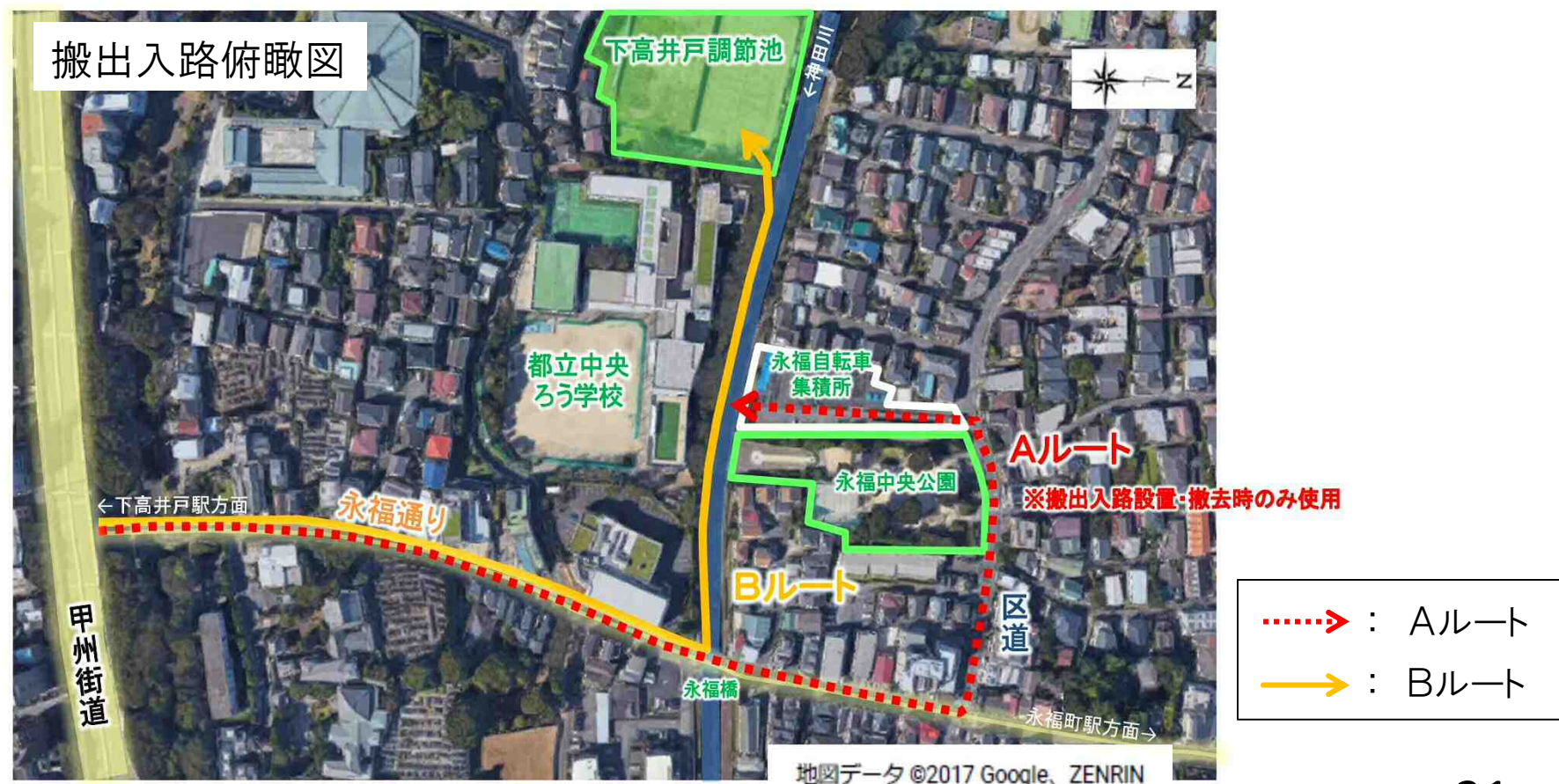
搬出入路見直しのポイント

見直しのポイントは、以下の2点

- 【1】 搬出入ルートの見直し
本体工事中の一番安全なルートを確認
- 【2】 仮設栈橋の構造見直し
栈橋に隣接する住居への影響軽減

見直し①：搬出入ルートの見直し

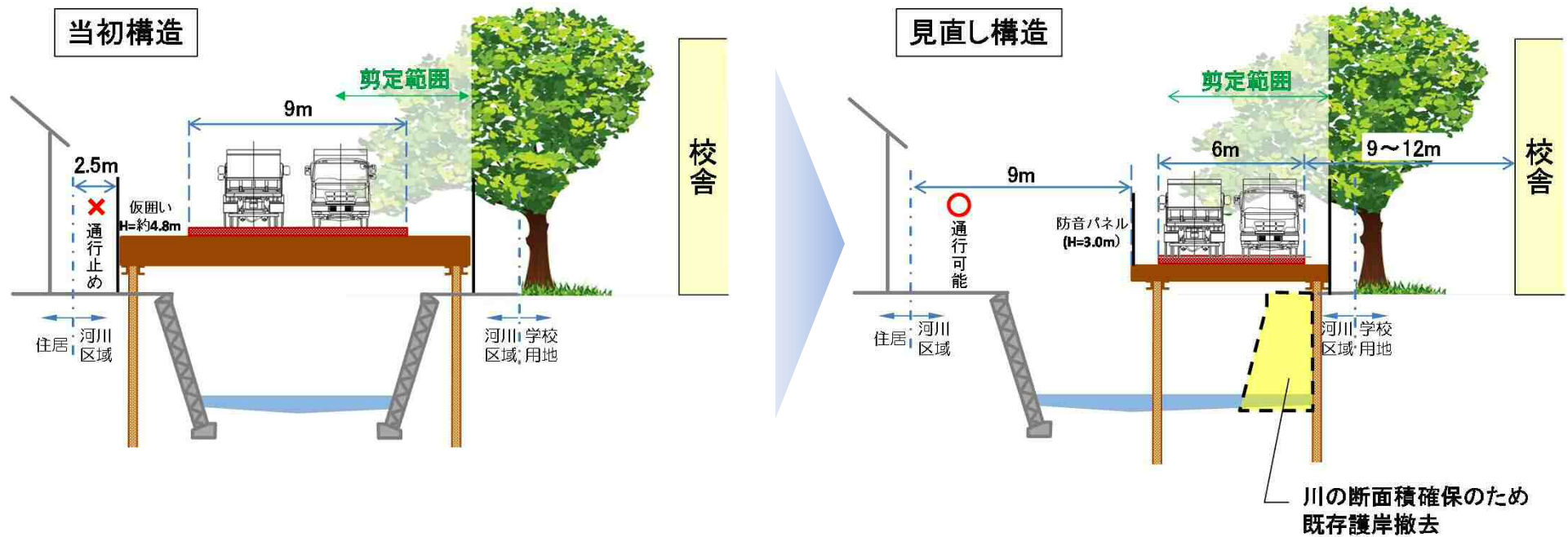
- ・Aルート(永福中央公園前の区道→永福自転車集積所)は、河川上の仮設栈橋設置時及び撤去時のみ通行する。
- ・ダンプ等の通行量が多い調節池工事中は、Bルート(永福通り→河川上の仮設栈橋)を通行し、永福中央公園前の区道を通行しない。



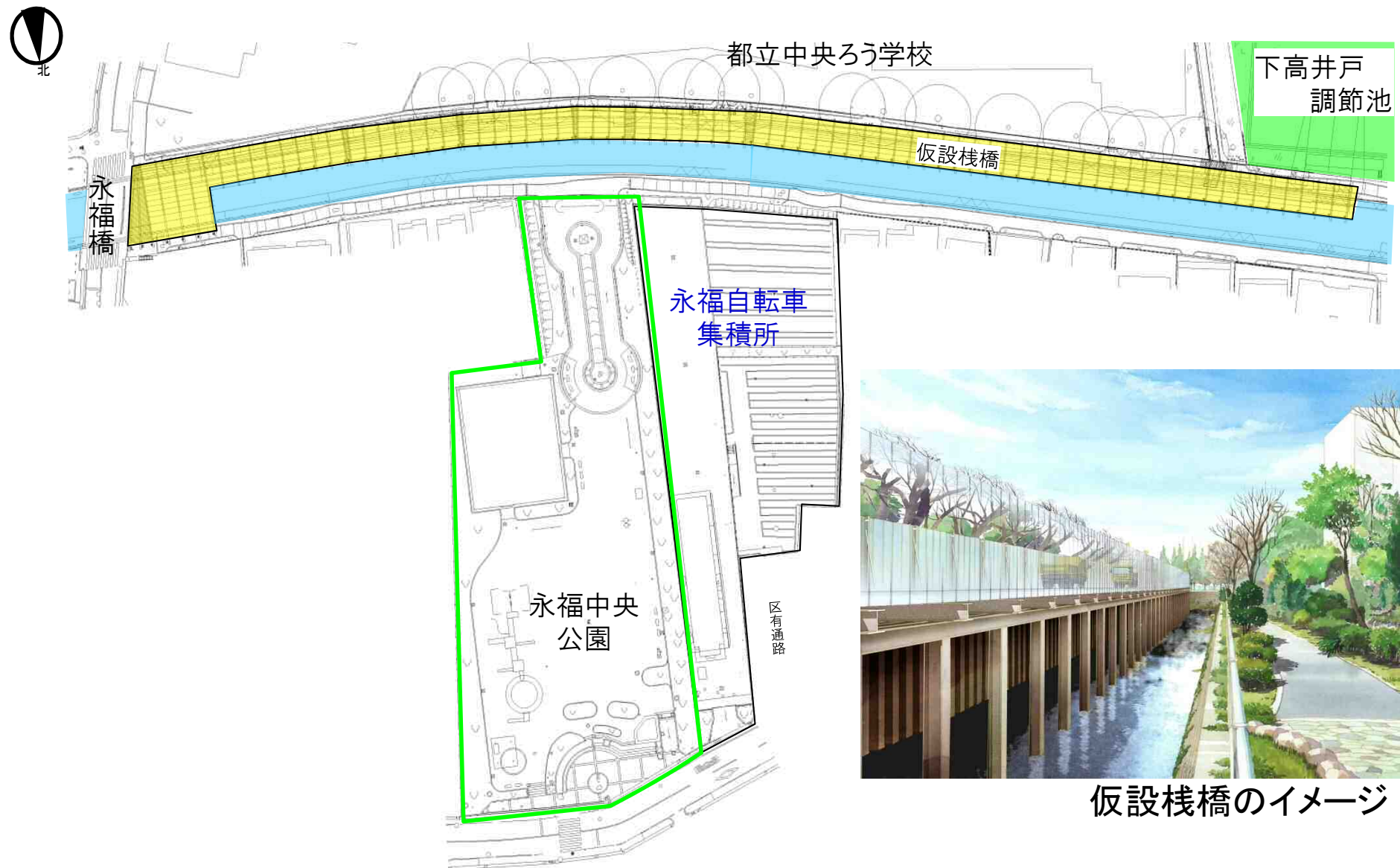
※永福橋の補強が必要になります。

見直し②：仮設栈橋の構造見直し

- ・中央ろう学校校舎、住居から一定の距離を確保
- ・栈橋幅を縮小し、住居南側の日照、景観、見通しに配慮
- ・河川沿い歩道(住居側)の通行確保



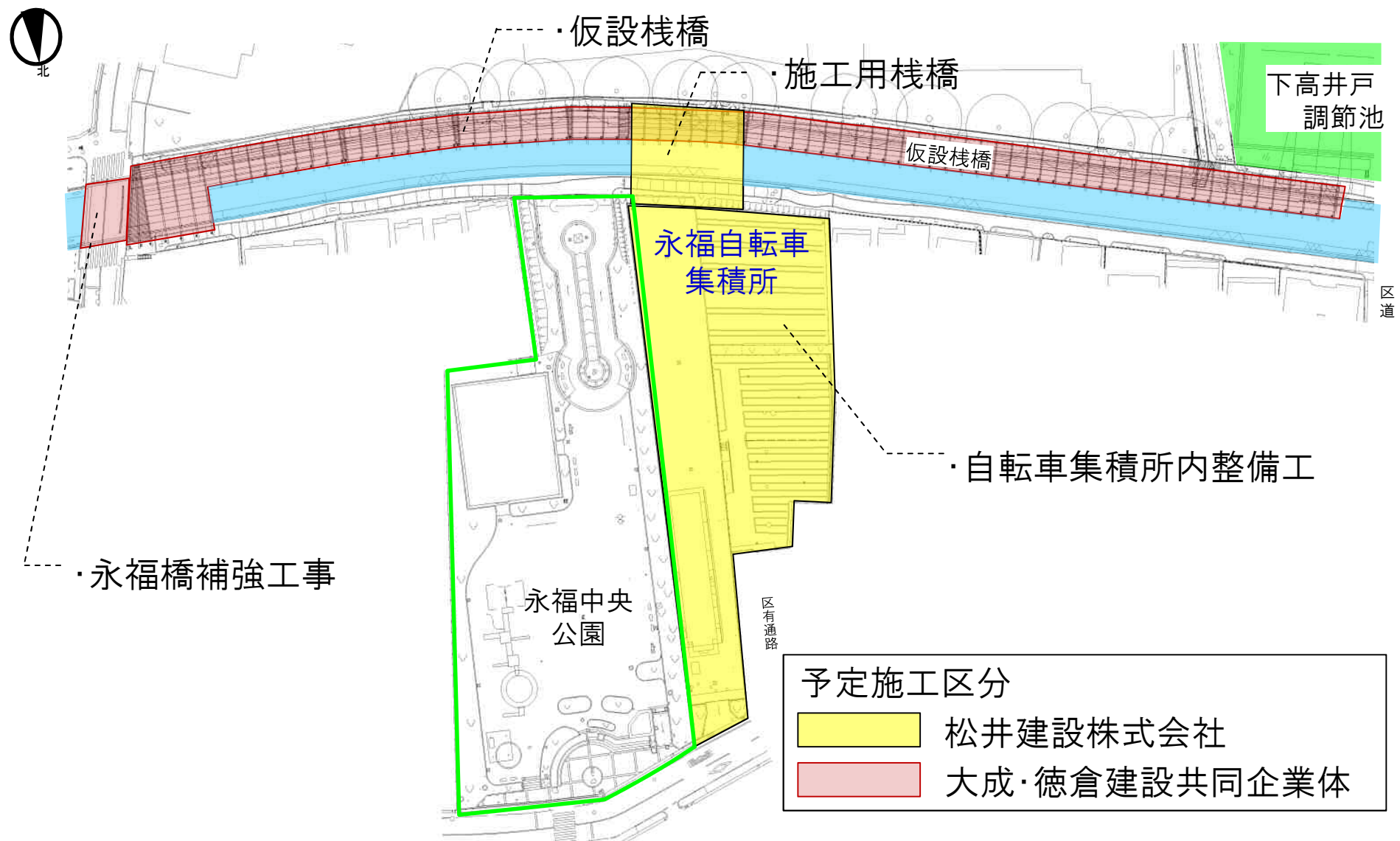
仮設栈橋（完成時イメージ）



下高井戸調節池工事に伴う 搬出入路設置工事について

- ※本日説明する工事の内容は、現時点での施工計画となります。
- ※2つの工事により、仮設栈橋を設置します。

搬出入路設置工事の施工区分（予定）



※2つの工事を実施し、仮設栈橋を設置します。

搬出入路設置工事【1】

工事着手

～施工用栈橋設置まで

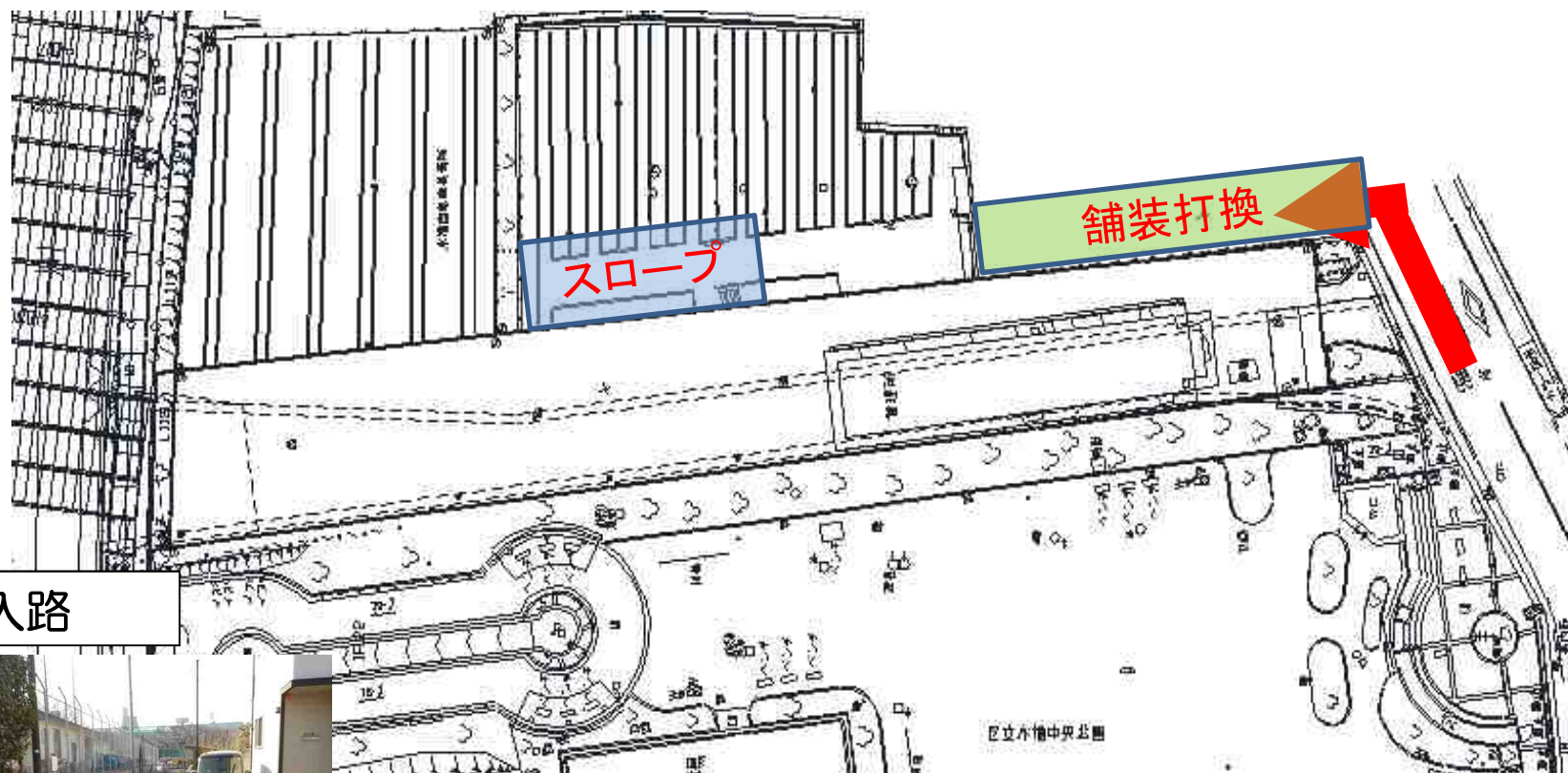
- ・自転車集積所内整備工
- ・施工用栈橋工
- ・仮囲い工

施工者(予定): 松井建設株式会社

施工内容 ①自転車集積所内整備工

既設の構造物を撤去し、搬入路として整備します。

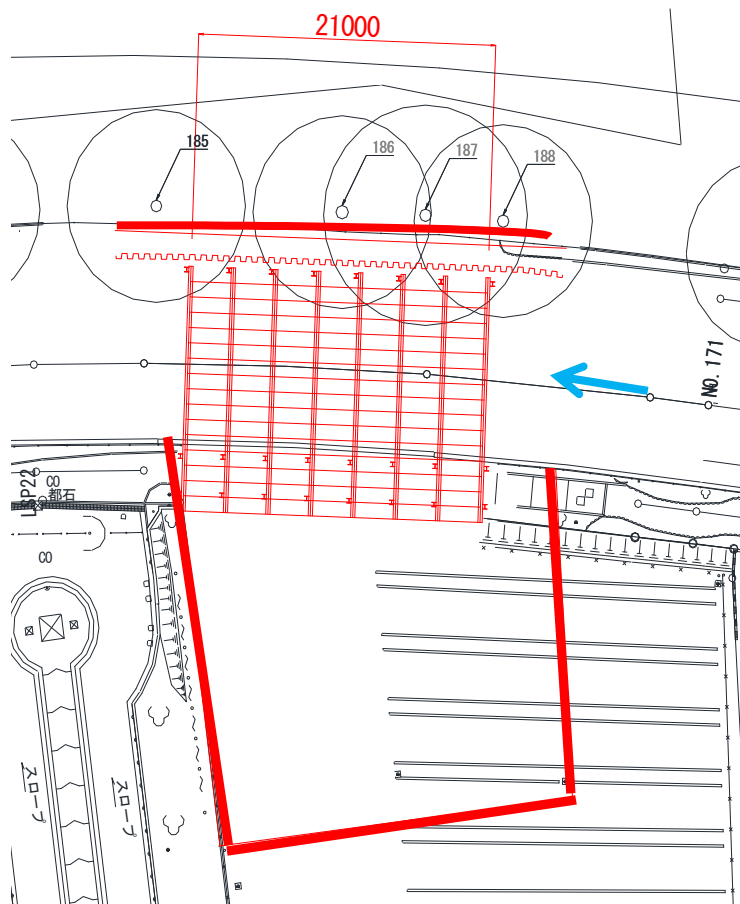
移設・撤去



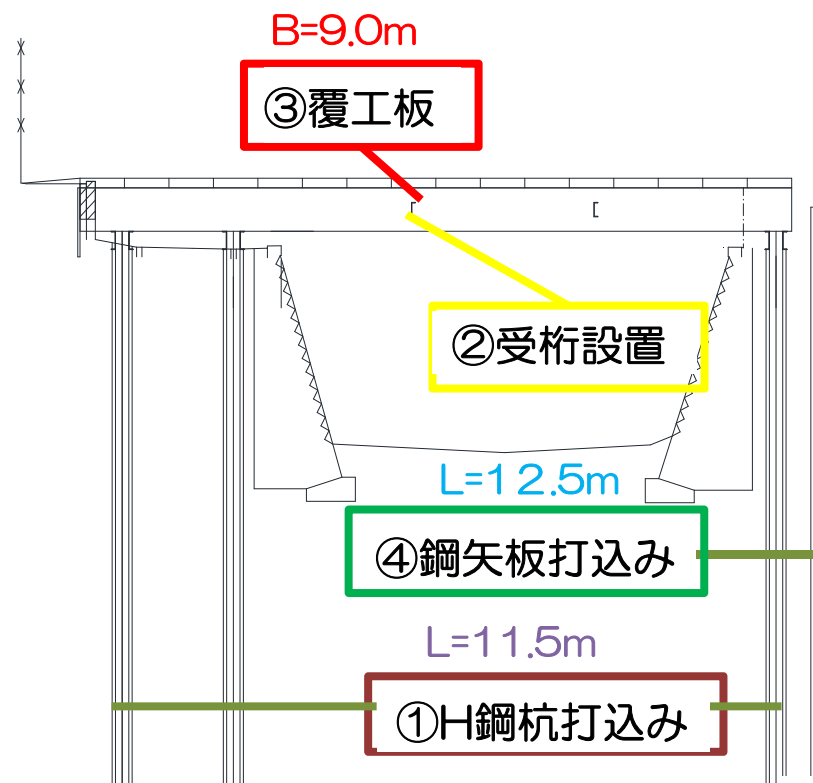
搬入路



施工内容 ②施工用栈橋工



搬出入路を設置するための施工基地として使用する栈橋を設置します。



施工内容 H鋼杭打込工事

栈橋の基礎として
杭を打ち込みます。



定形材不要の為、斜置地施工が可能



リーダーレス16ton



リーダーレスの為、組立・解体作業が容易



H鋼の打込工事アンギュラス工法

施工内容 桁・覆工板設置工事

イメージ図



※神田川での施工事例



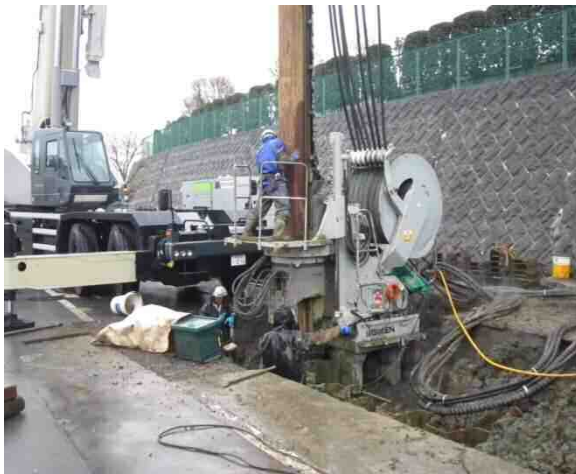
使用する機械



設置工事にはラフタークレーンを使用します

施工内容 鋼矢板打設工事

イメージ図



使用する機械



打設工事にはラフタークレーンを使用します

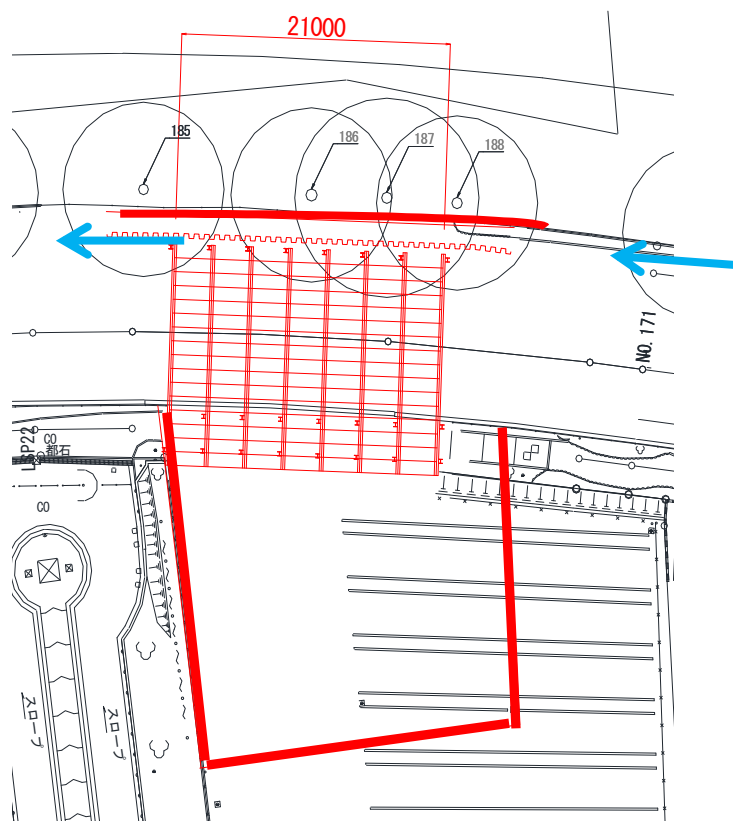
施工内容 植栽工

栈橋設置に支障となる樹木を移植・剪定・撤去します

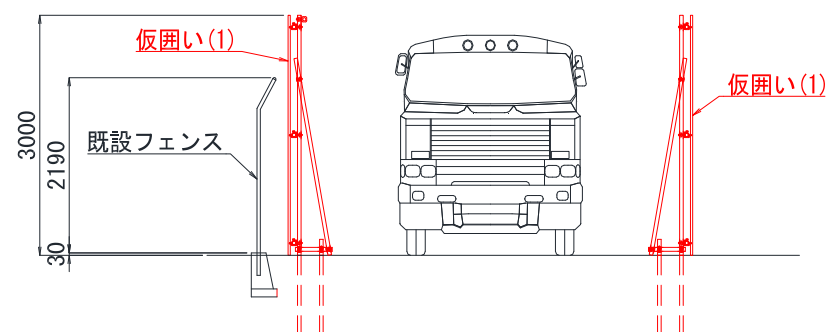


施工内容 ③仮囲い工

工事範囲の周りには仮囲いを設置します。



搬入路標準断面図



パネル



工事工程（施工用栈橋完成まで）

	平成30年														
	3月			4月			5月			6月			7月		
準備工事															
ろう学校 防音工事															
樹木剪定工事															
集積所内整備															
栈橋工事															
後片付け															
管理用通路 通行止め															

※この工程表は現時点での計画であり、今後変更となることがあります。

作業時間等について

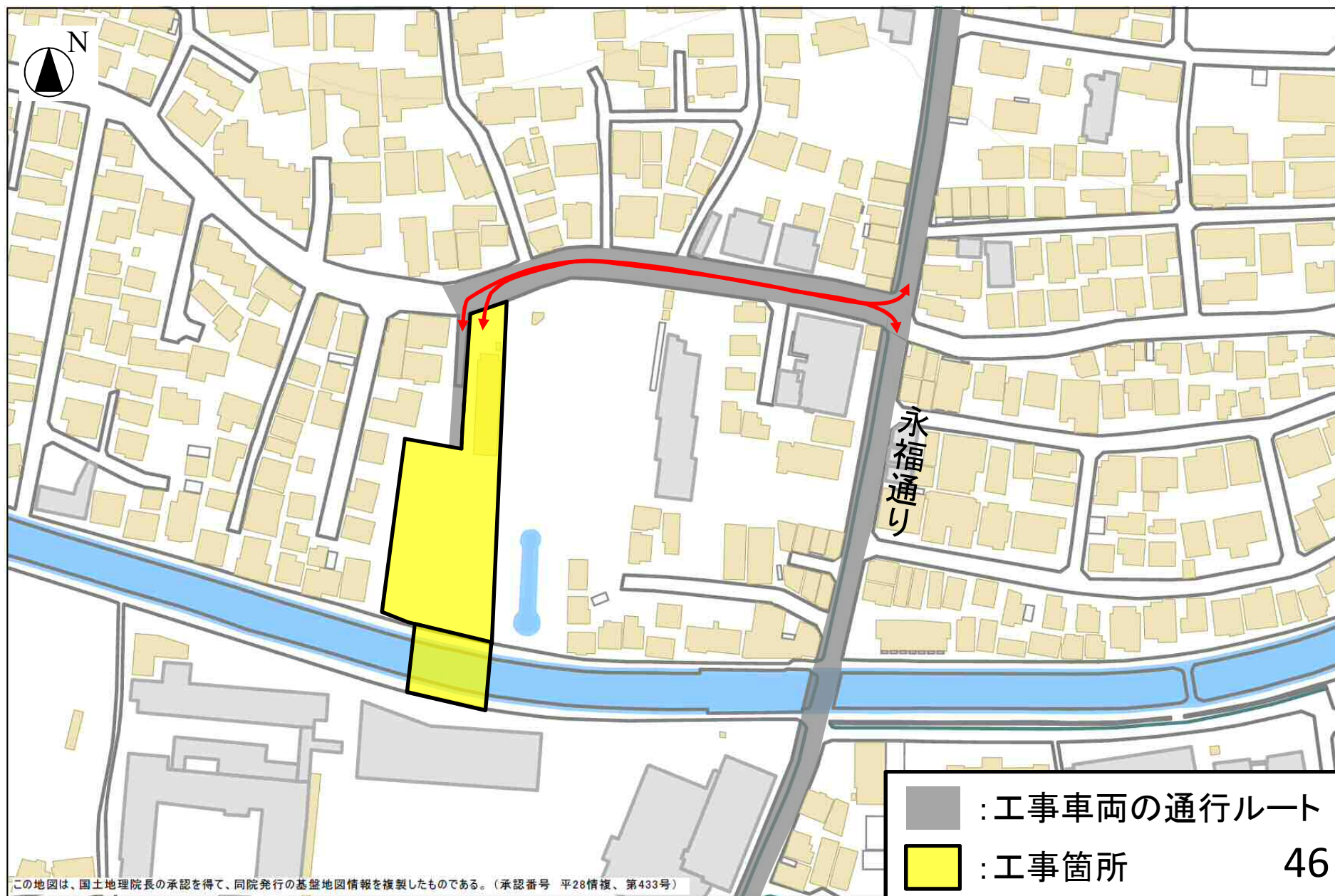
現場の作業時間については、原則 8:00～18:00 で作業を行います。

原則 日曜日は作業を行いません。

搬入出車両の出入りは、原則午前8:30からとします。

※工事状況に応じて変更させていただく場合がございます。

工事車両の通行ルート（施工用栈橋工事）



通行予定車両（施工用栈橋完成まで）

【施工時期】

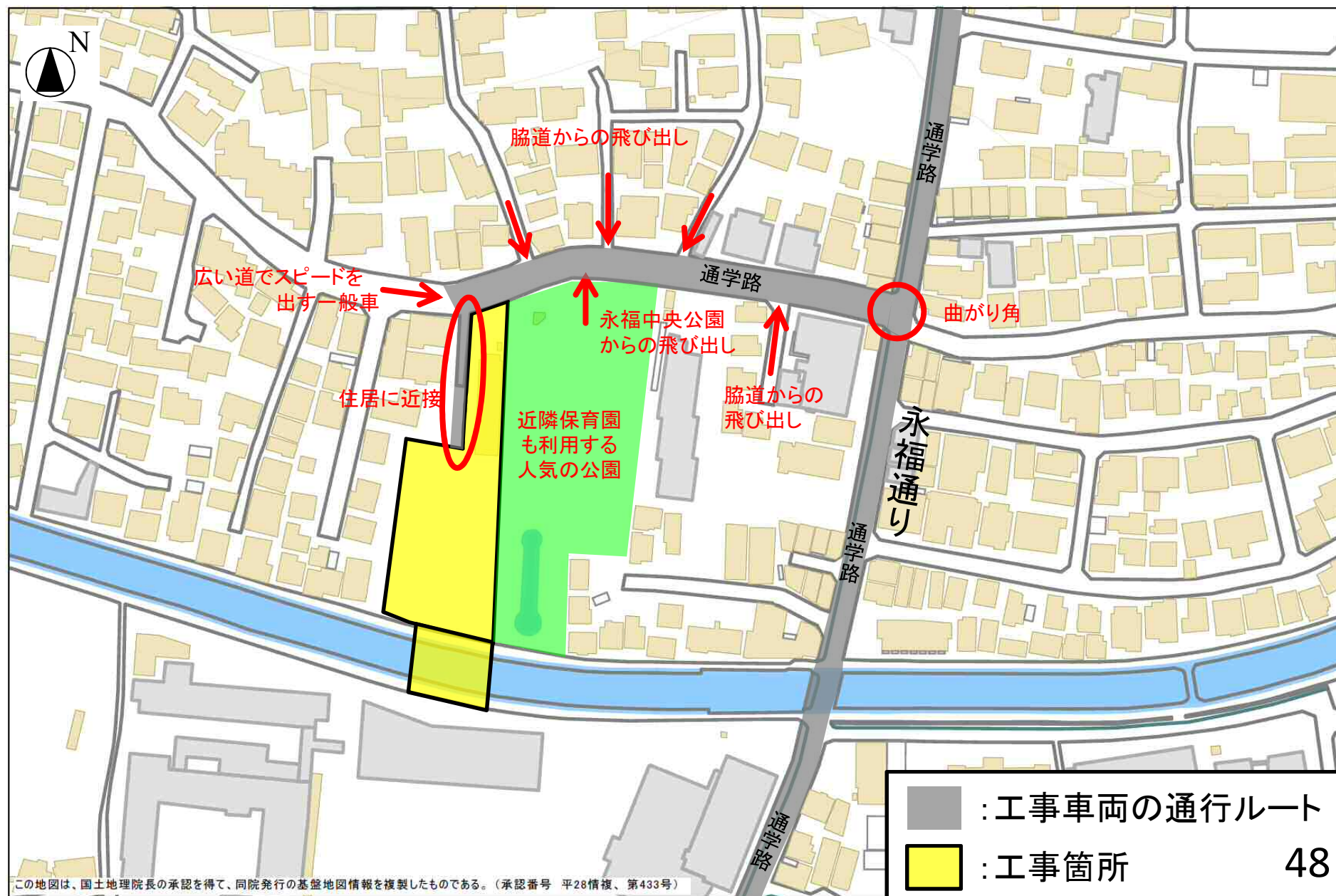
平成30年5月～平成30年7月
（約2ヶ月間）

※延べ台数は施工期間中の総台数です。
※運搬車両台数は片道の台数です。
※施工に必要な最低限の車両数を示したもので、工事に使う車両数を確約するものではありません。
※材料の調達状況、運搬効率（道路混雑状況など）は日々変化し、それに伴う台数の増減が生じます。

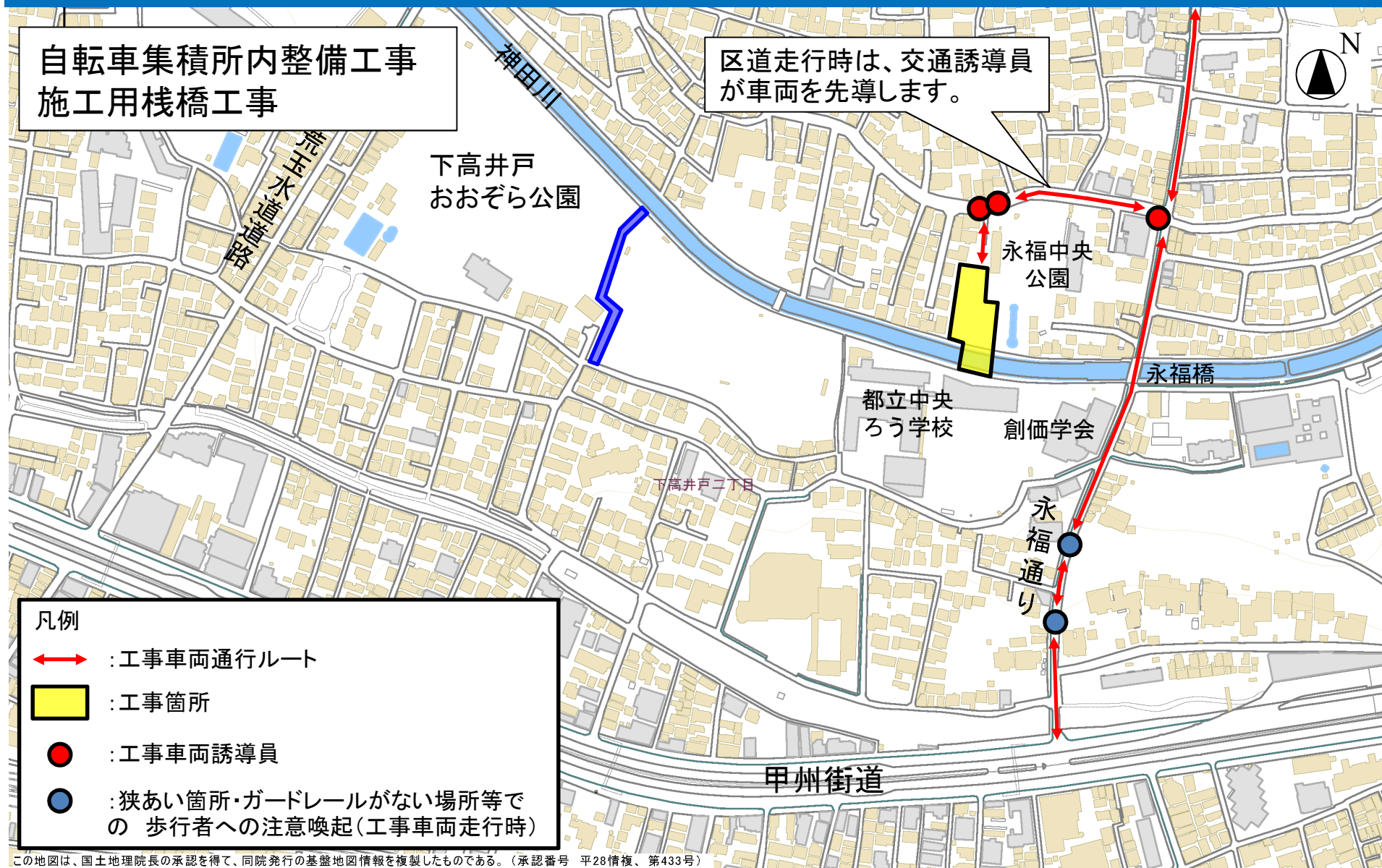
【運搬車両及び施工機械のイメージ】

主要な運搬車両	トレーラ(25t) 全長約16m 全幅約2.5m 延べ10台 （覆工受桁等の長尺鋼材を運搬） 	大型トラック ロング(10～15t) 全長約10～12m 全幅約2.5m 延べ4台（機材運搬） 	中型トラック(4t) 全長約8.5m 全幅約2.4m 延べ2台（機材運搬） 
主要な施工機械	ラフタークレーン(60t) 全長約12.8m,全幅約2.8m 延べ2台（自走） 	鋼矢板打設機械 延べ1台 （車両運搬） 	

工事車両通行ルート of 要注意箇所



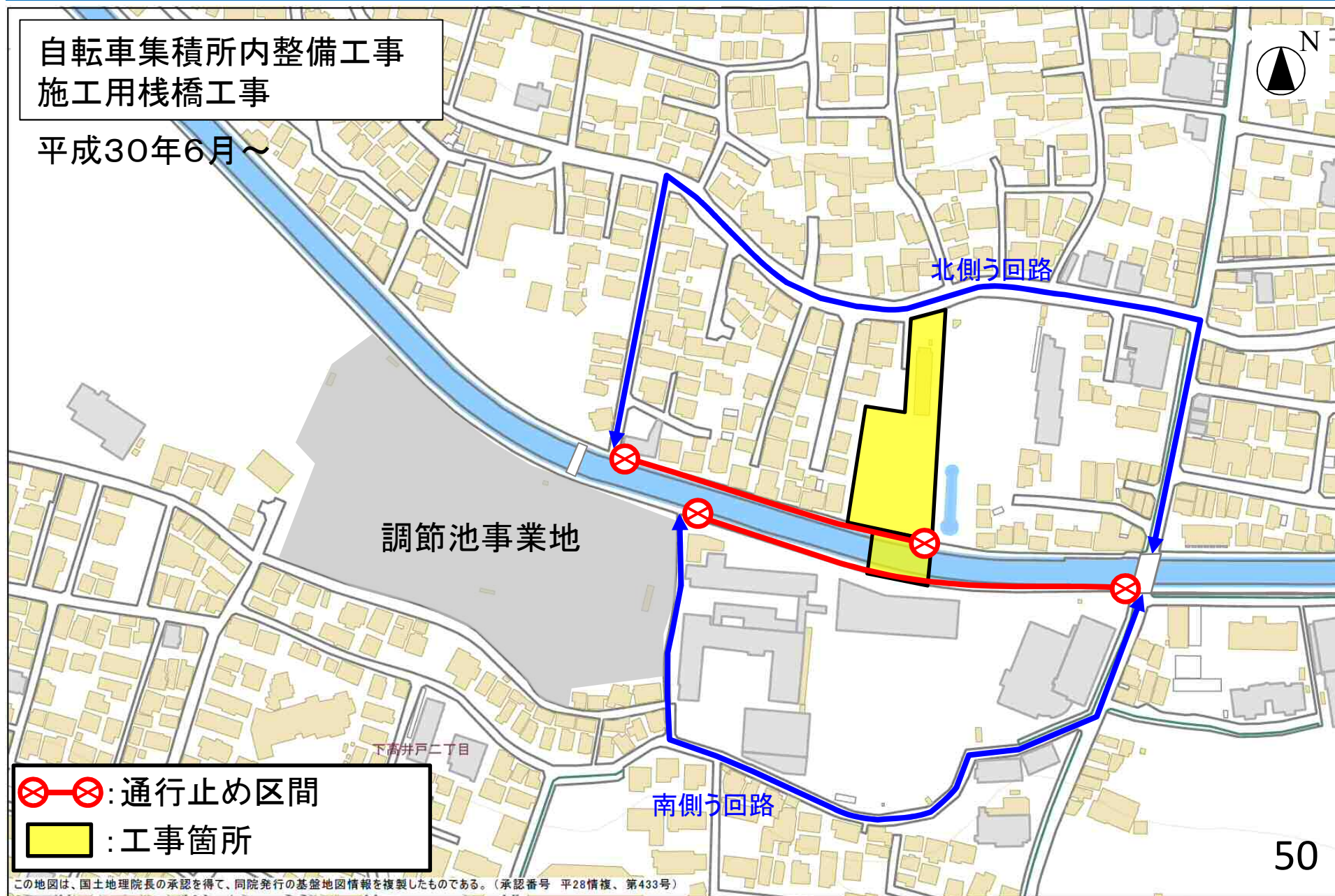
誘導員等の配置について



通行止め区間とう回路

自転車集積所内整備工事
施工用栈橋工事

平成30年6月～



工事の対策等について

1. 工事中は工事車両出入口部及び歩道が狭い場所に誘導員を配置致します。
2. 工事車両が一般道を走行する際は法定速度等の交通法規を遵守してまいります。
3. 低騒音・低振動の機械を使用して騒音振動の低減に努めてまいります。
4. 待機中等の場合はアイドリングストップを励行して工事を行ってまいります。

搬出入路設置工事【2】

施工用栈橋設置

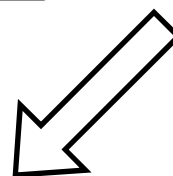
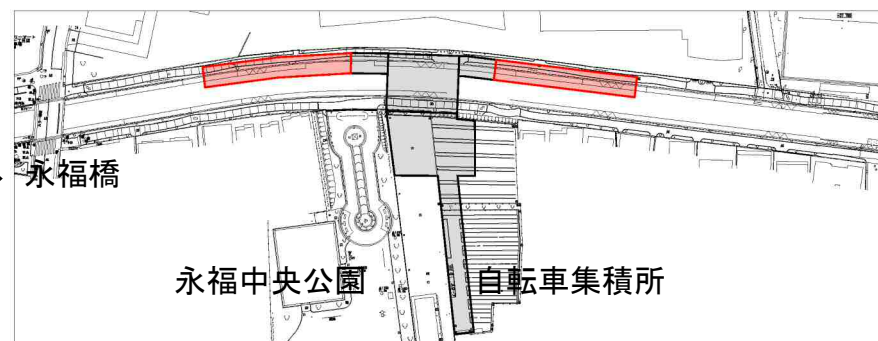
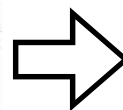
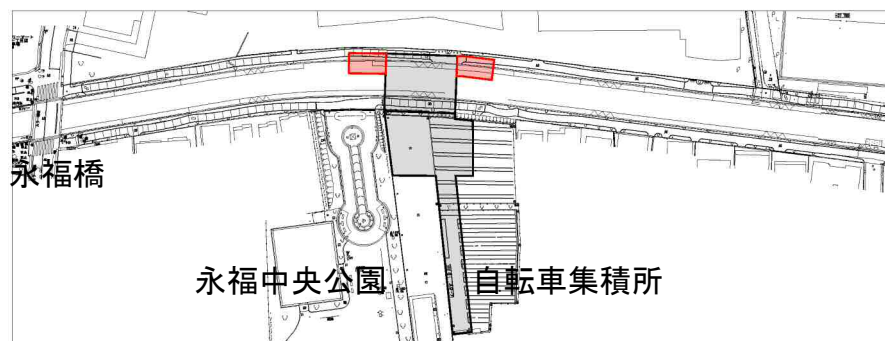
～仮設栈橋完成まで

- ・仮設栈橋設置工
- ・永福橋補強工
- ・施工用栈橋撤去工
- ・自転車集積所復旧工

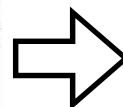
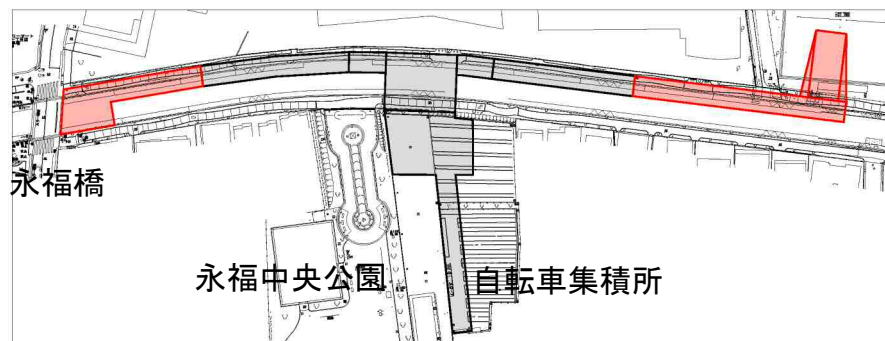
施工者(予定):大成・徳倉建設共同企業体

工事全体の流れ

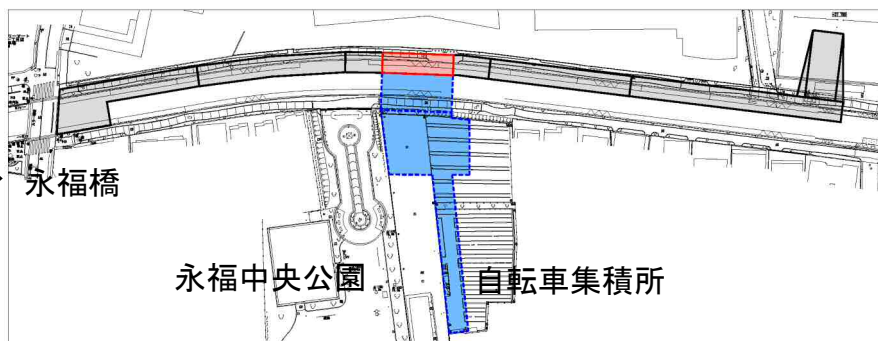
施工用栈橋より両側に向け仮設栈橋設置(両側同時施工)



永福橋・旧テニスコートと接続

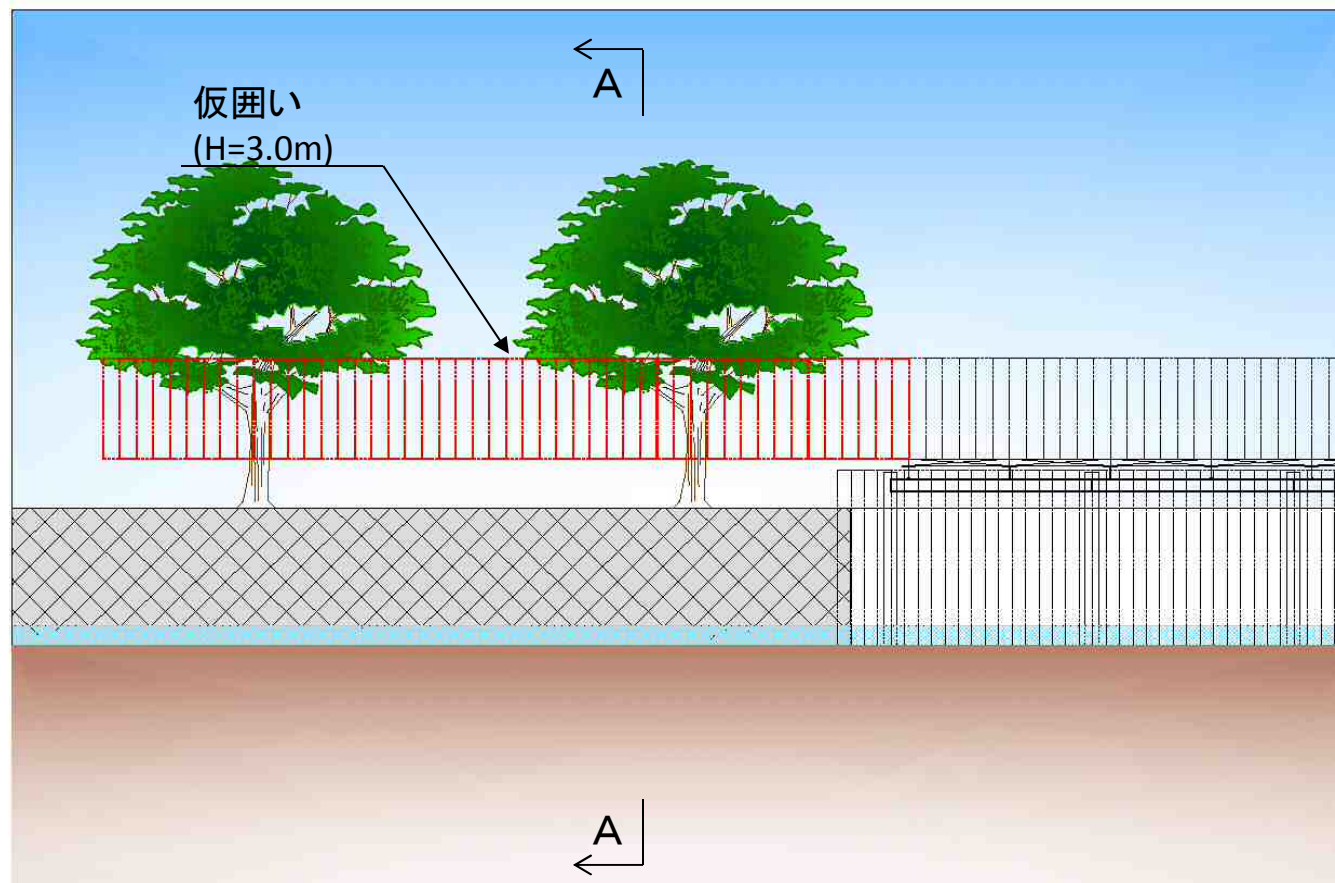


施工用栈橋解体・自転車集積所復旧

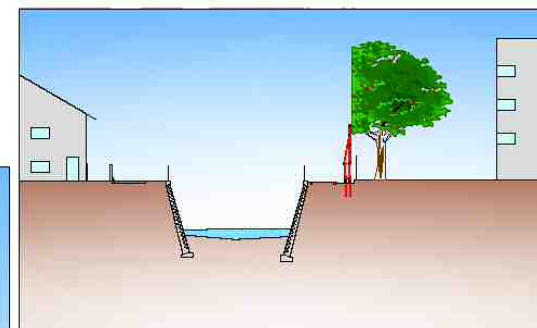


工事の流れ

1. 仮囲い設置

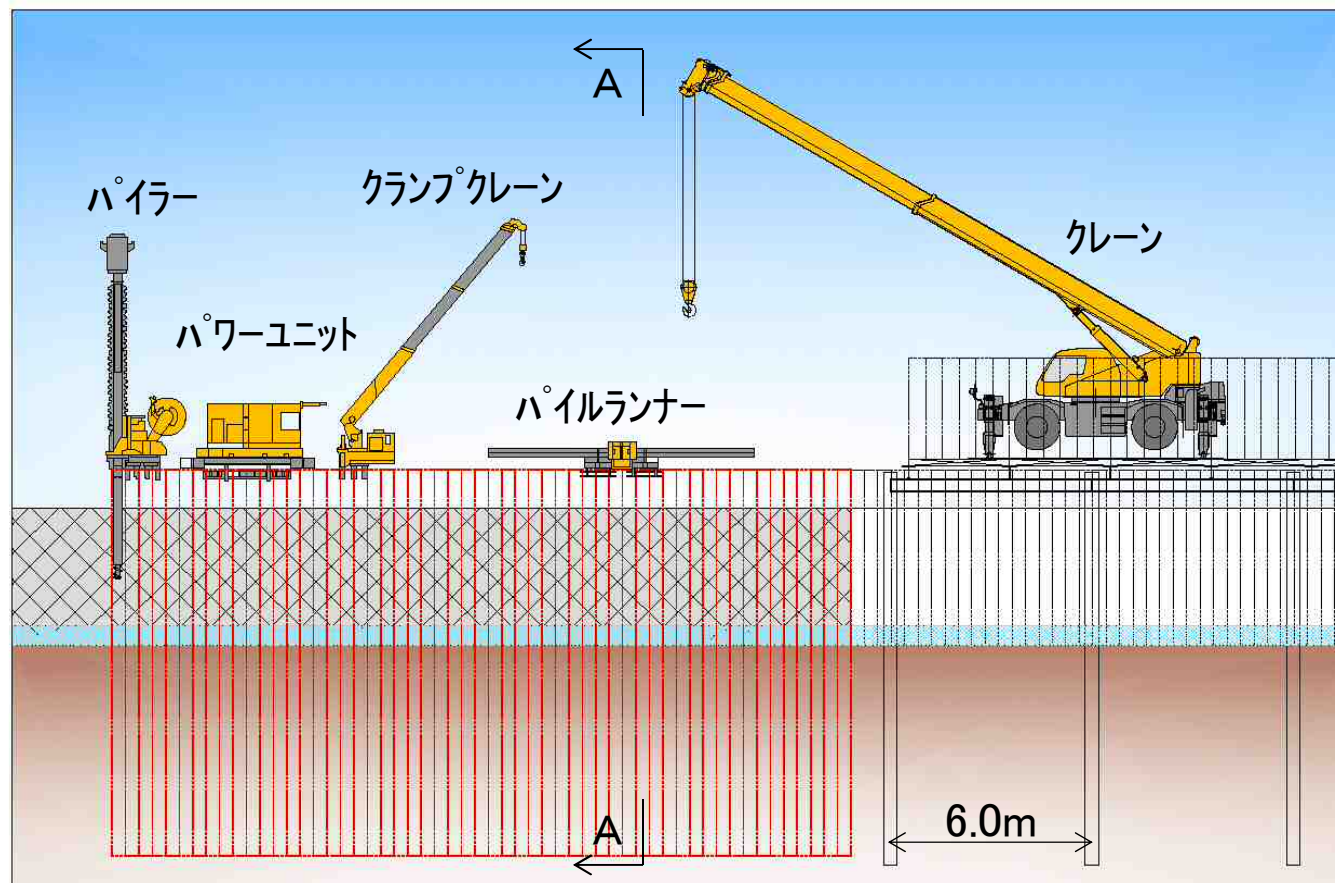


A-A断面図

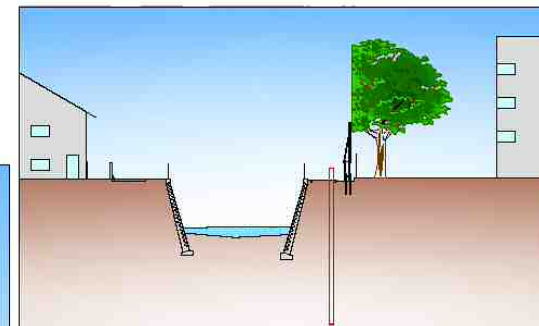


工事の流れ

2.鋼矢板打設(中央ろう学校側)



A-A断面図



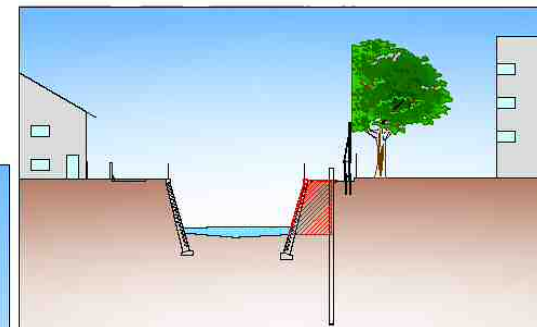
使用機械参考写真



工事の流れ

3.掘削・護岸撤去(中央ろう学校側)

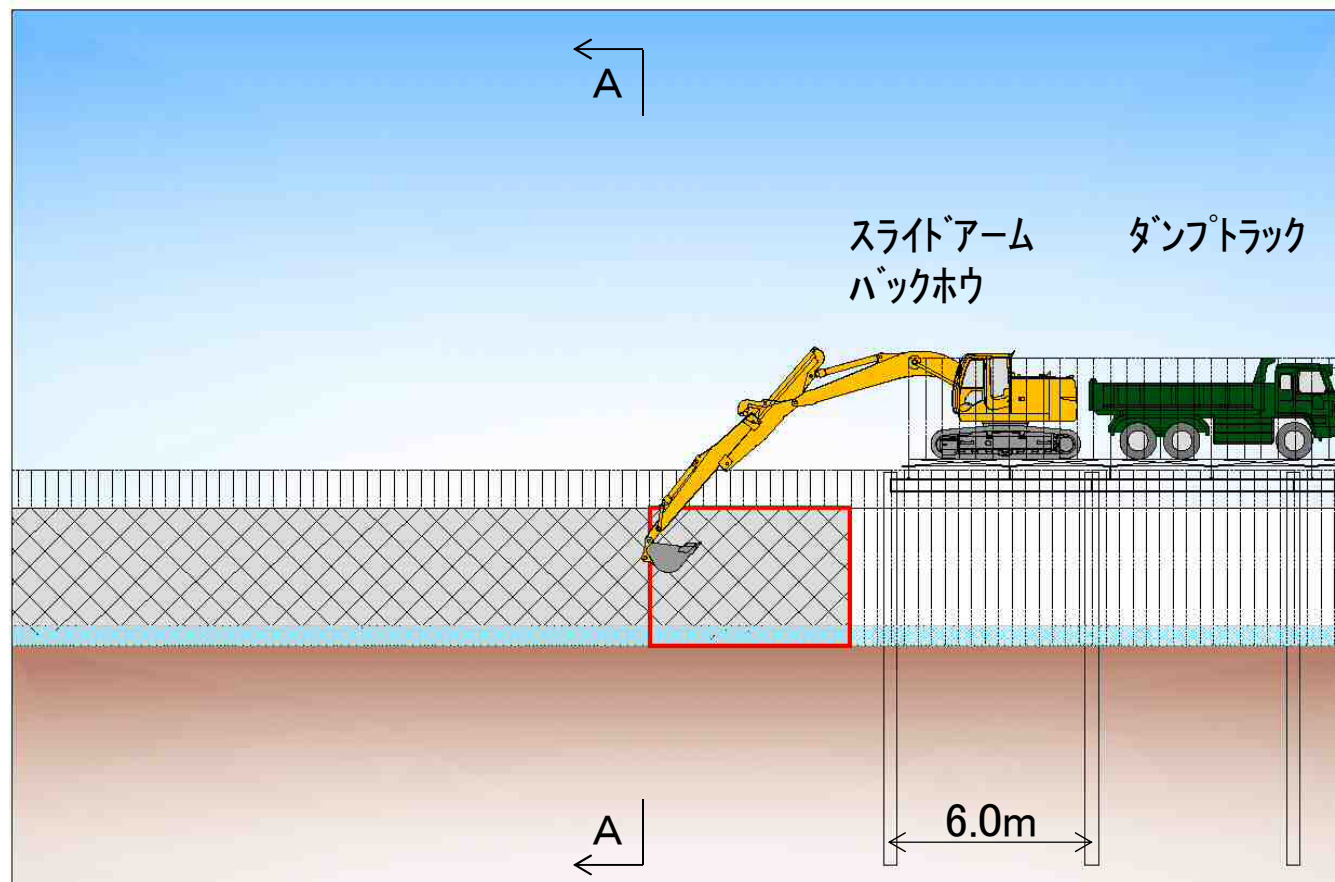
A-A断面図



使用機械参考写真



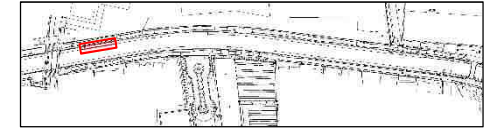
スライドアーム
バックホウ



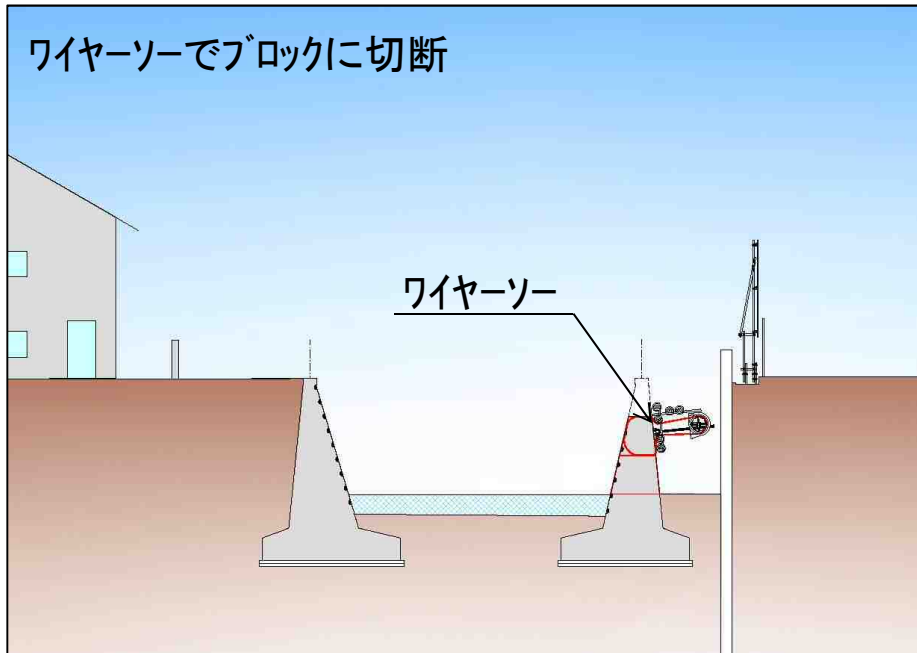
永福橋近くの擁壁解体

永福橋近くの大きな擁壁は1個2t程度の
ブロックに切断してクレーンで吊上げて解体します。

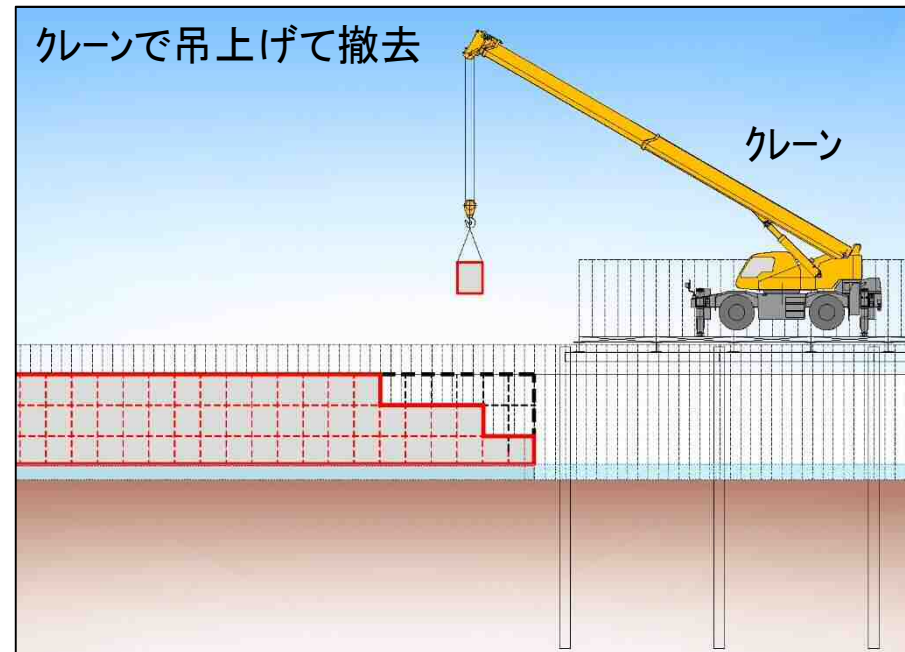
位置図



ワイヤーソーでブロックに切断



クレーンで吊上げて撤去



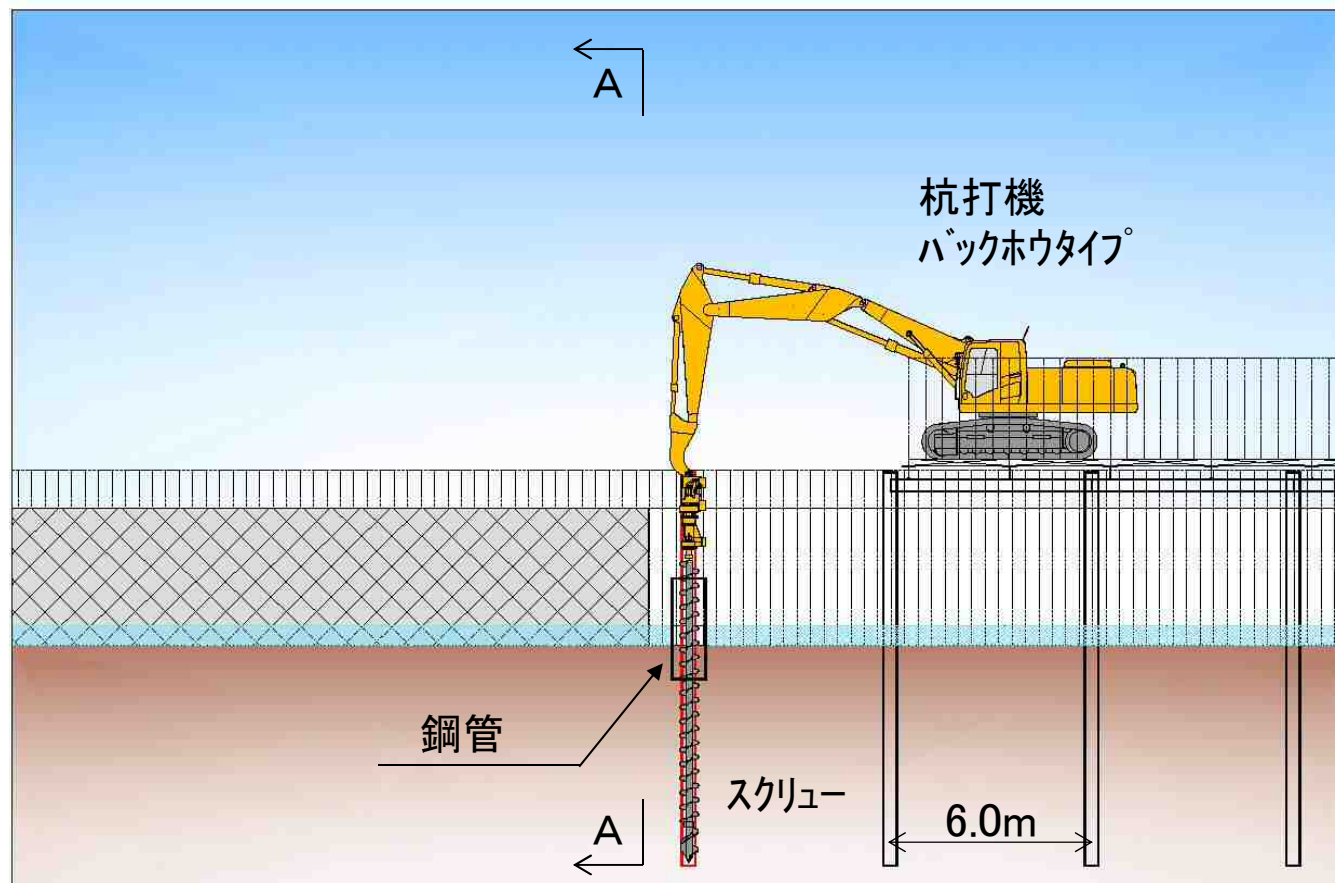
参考写真
ワイヤーソー施工写真



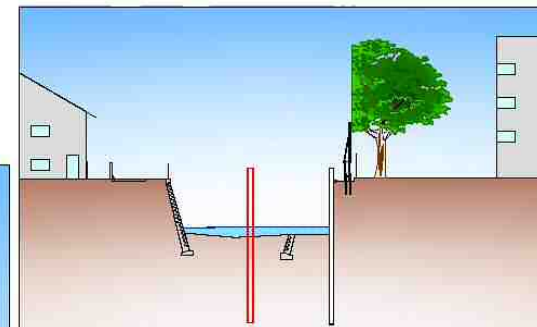
参考写真
コンクリートブロック撤去

工事の流れ

4.杭削孔(神田川内)



A-A断面図



使用機械参考写真

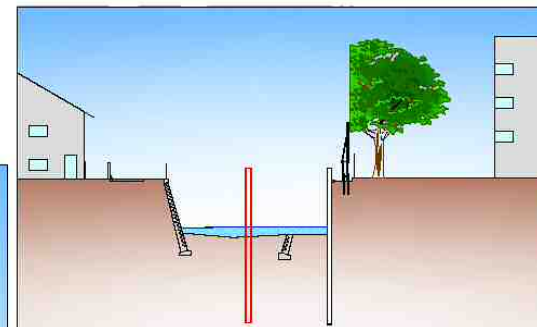
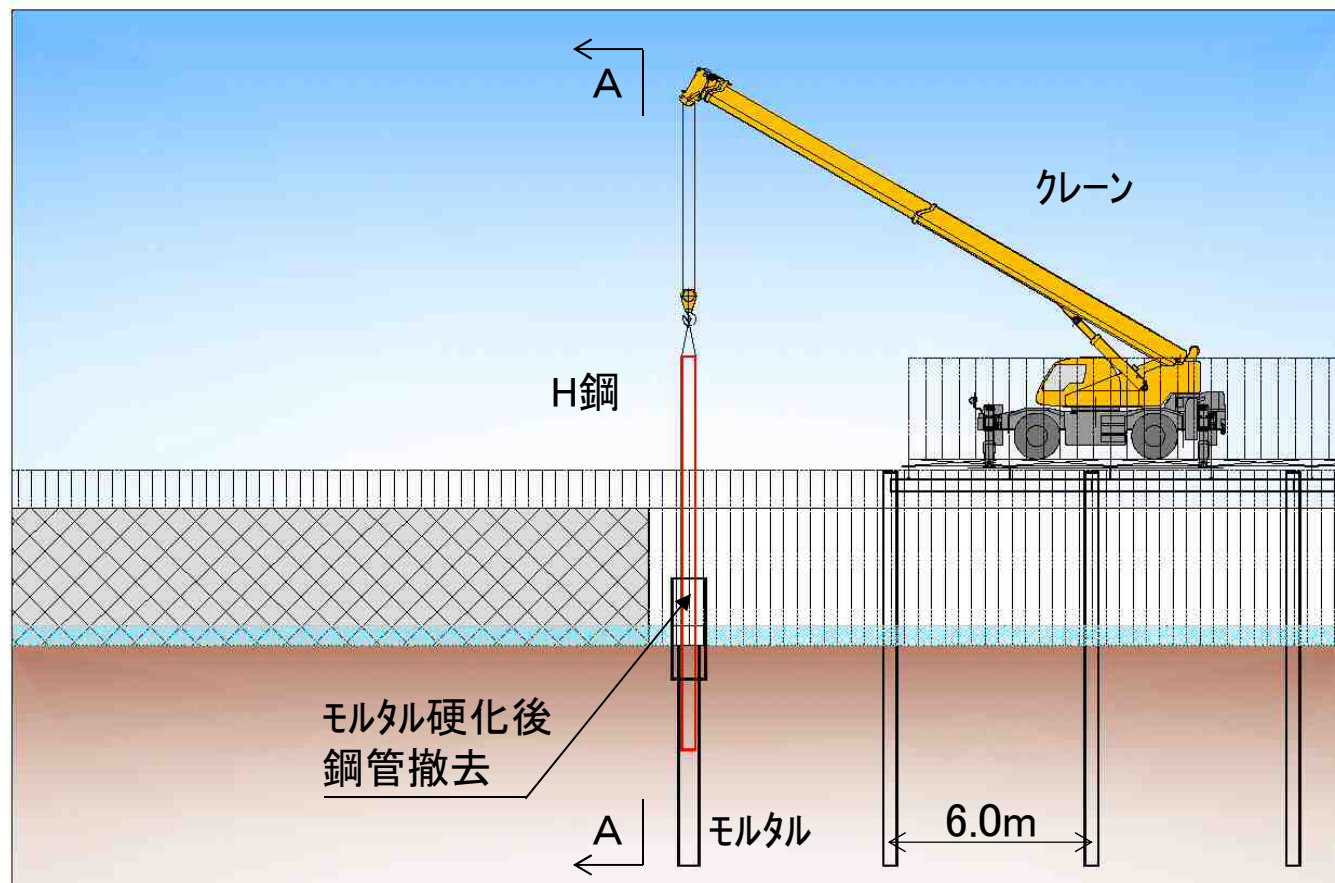


杭打機
バックホウタイプ

工事の流れ

5.H鋼杭建込み(神田川内)

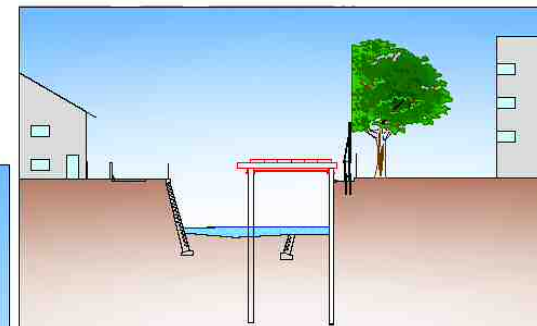
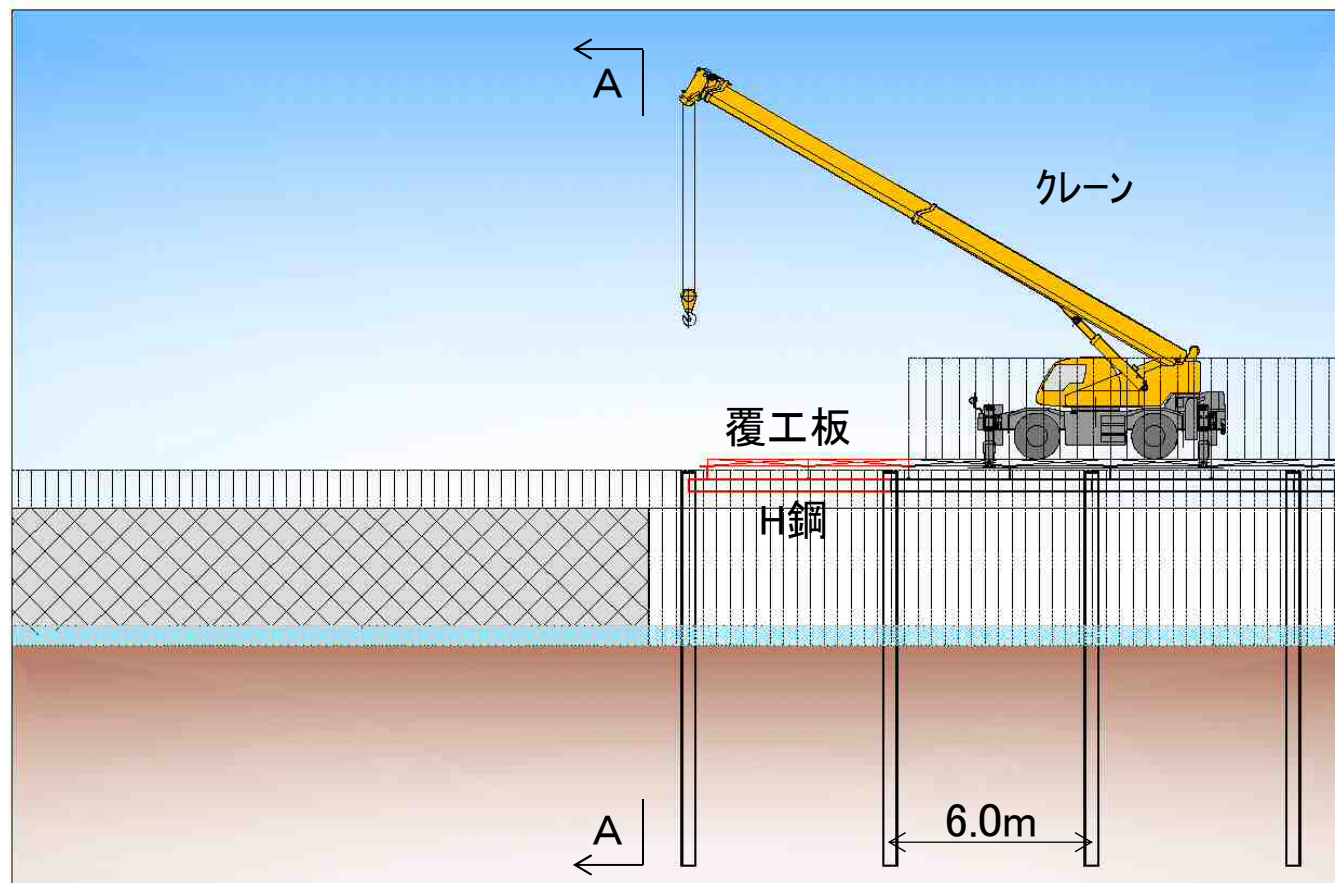
A-A断面図



工事の流れ

6.構台設置(神田川内)

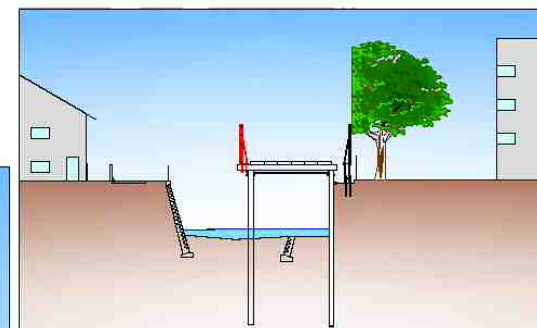
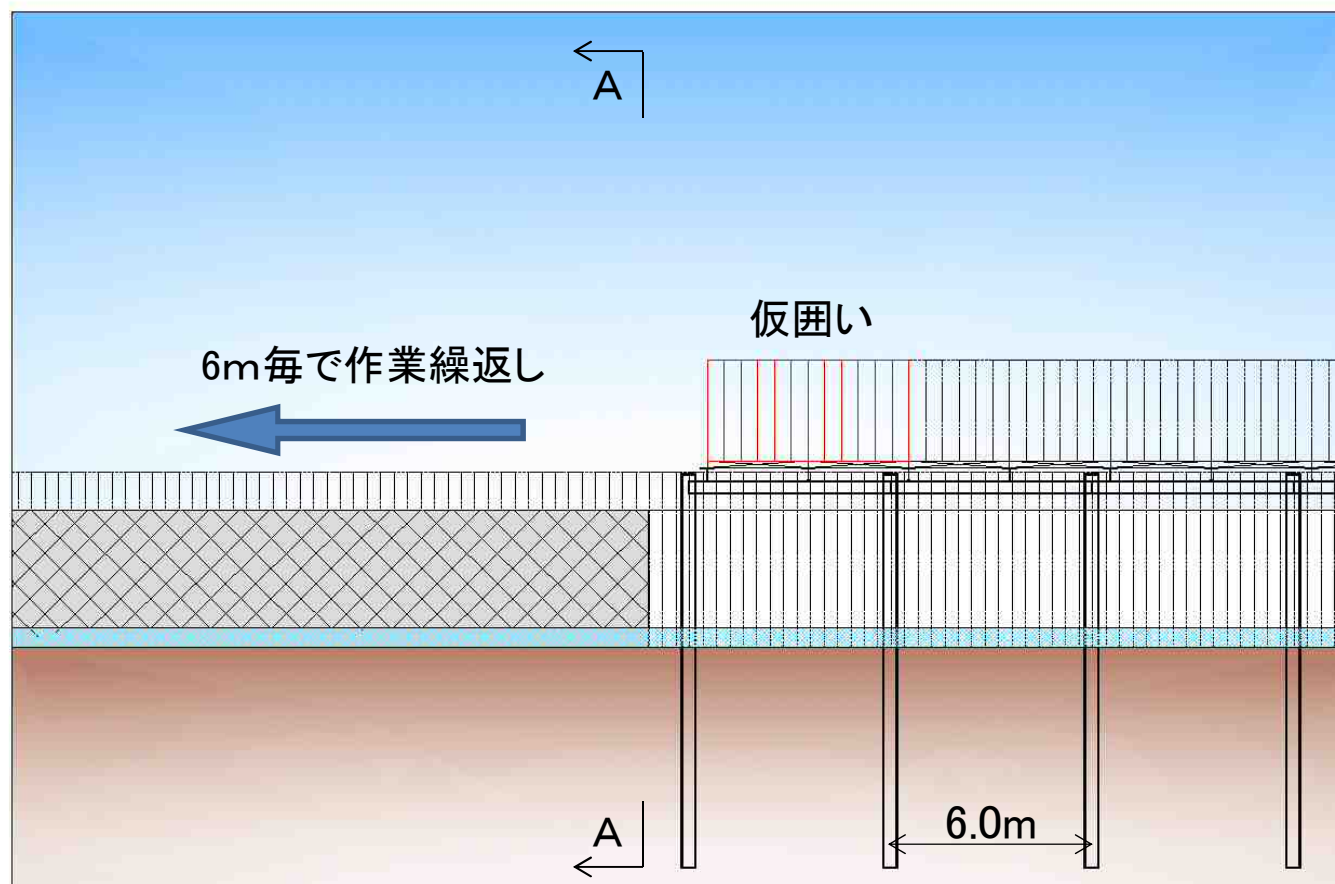
A-A断面図



工事の流れ

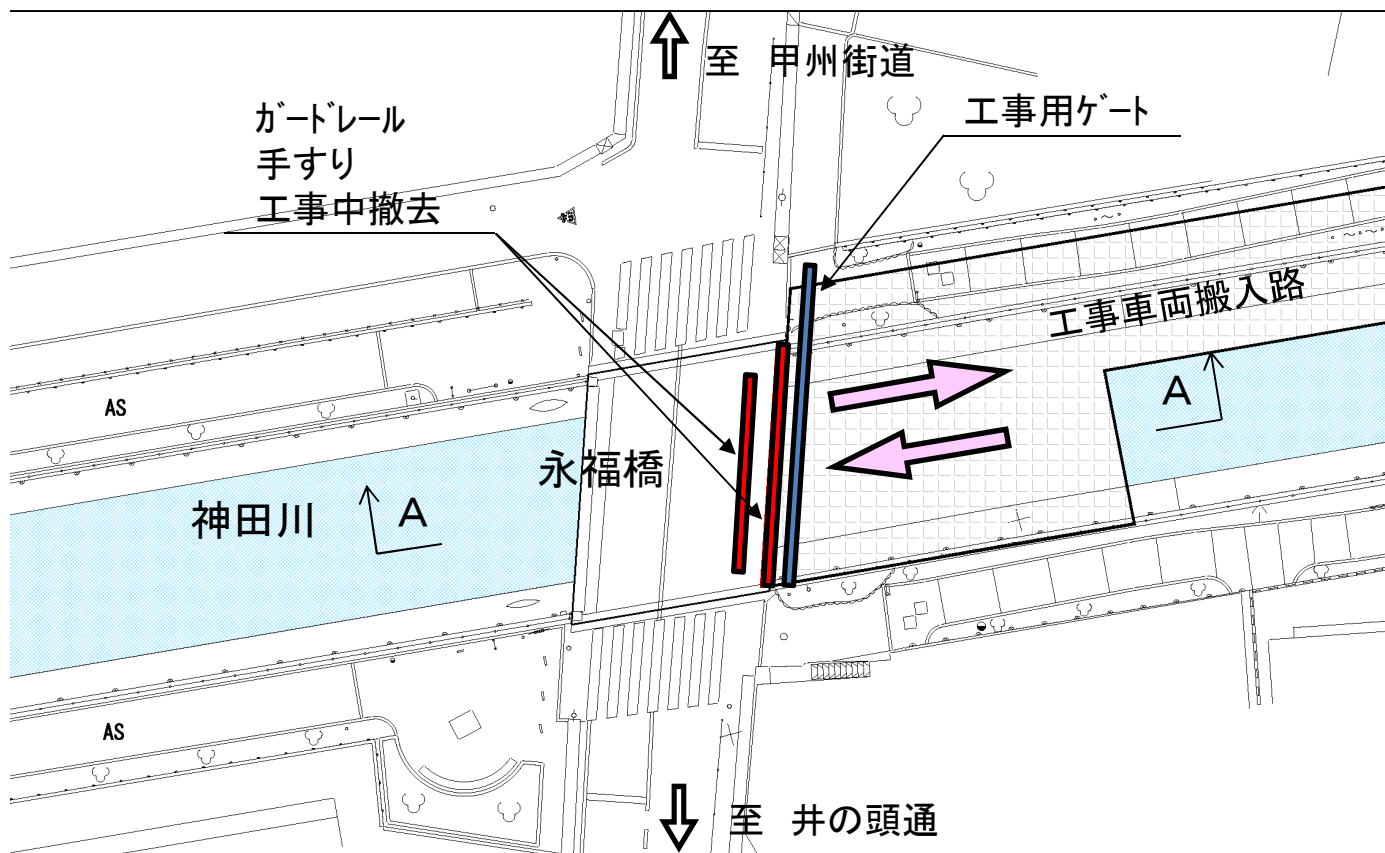
7.仮囲い設置

A-A断面図

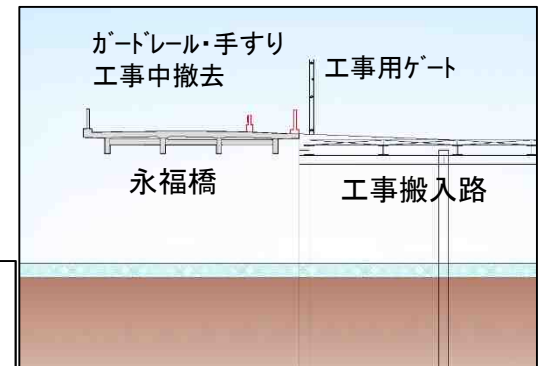


永福橋との接続

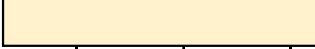
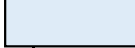
永福橋平面図



A-A断面図



工事工程（仮設栈橋工事完了まで）

工 種	平成30年					平成31年							
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
準備工	布掘他 												
鋼矢板打設		2班施工 											
掘削・護岸撤去 杭打・構台設置 仮囲い			2班施工 										
永福橋補強							補強工 						
工事車両ゲート切り替え													
自転車集積場 作業構台撤去													
自転車集積場復旧													

※この工程表は現時点での計画であり、今後変更となることがあります。

作業時間等について

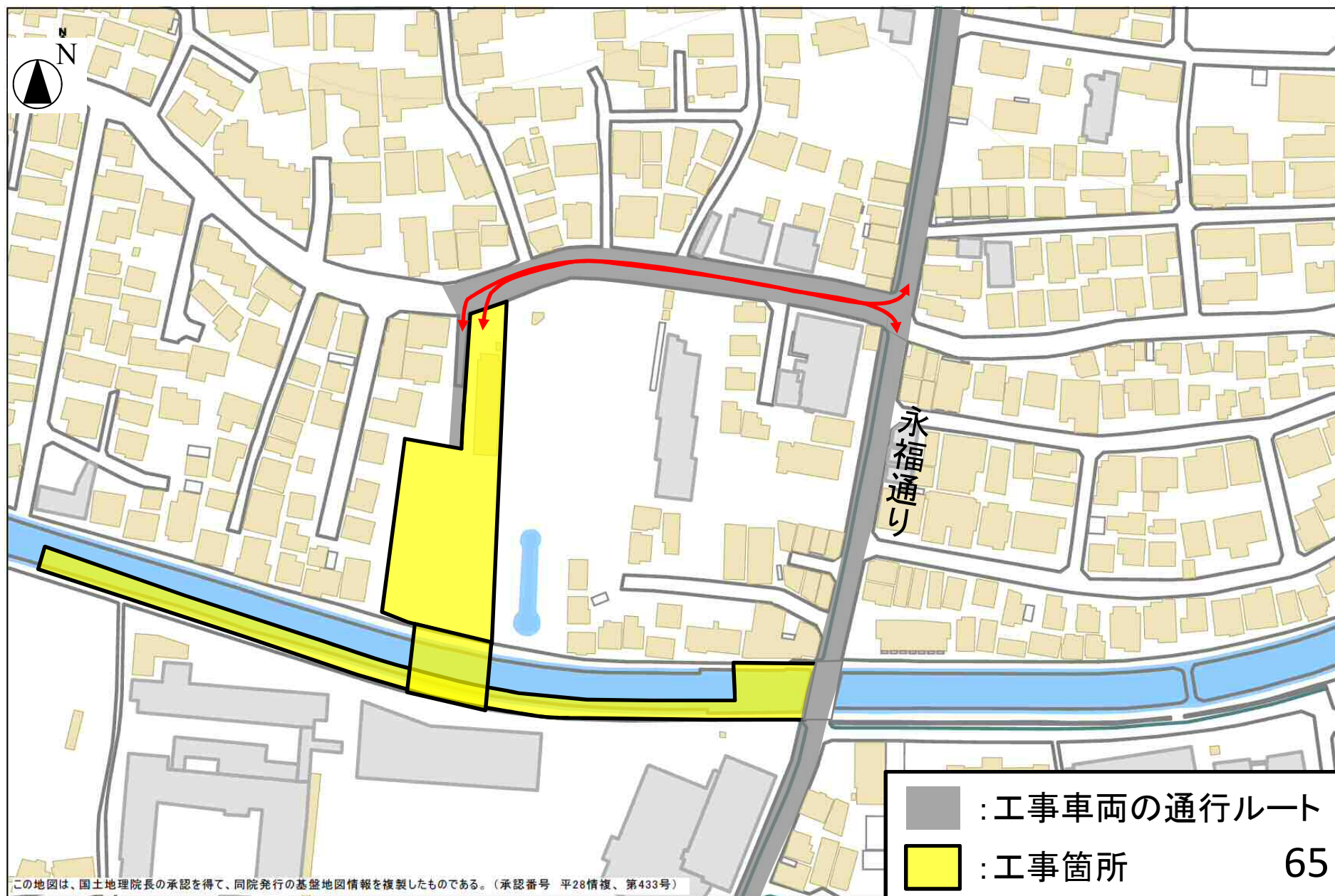
現場の作業時間については、原則 8:00～18:00 で作業を行います。

原則 日曜日は作業を行いません。

土砂搬出車両(ダンプトラック)の入退場は、原則午前8:30からとします。

※工事状況に応じて変更させていただく場合がございます。

工事車両の通行ルート（搬出入路設置工事中）



通行予定車両（仮設栈橋工事完了まで）

【施工予定時期】

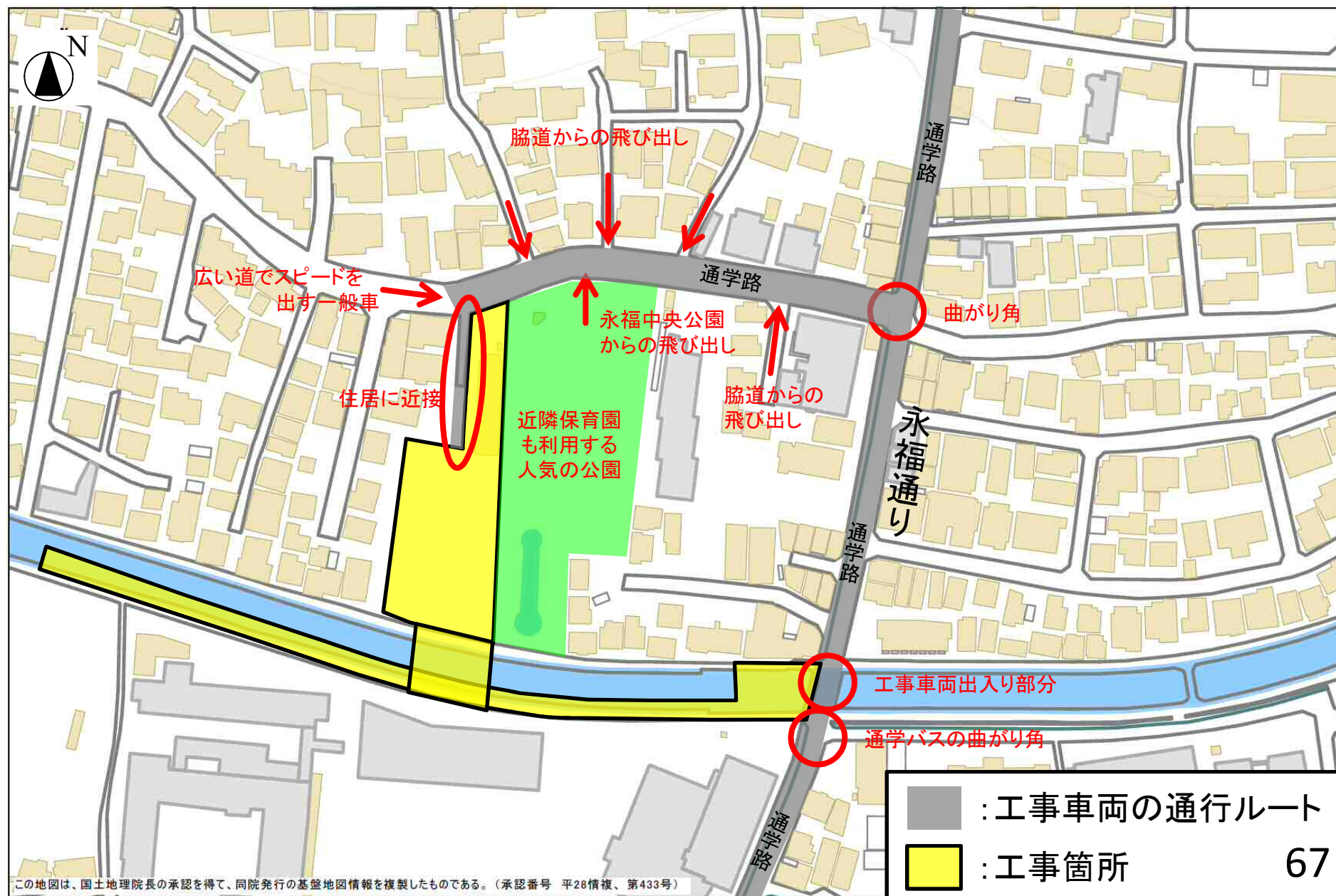
平成30年8月～平成31年8月
（約12ヶ月間）

※延べ台数は施工期間中の総台数です。
※運搬車両台数は片道の台数です。
※施工に必要な最低限の車両数を示したもので、工事に使う車両数を確約するものではありません。
※材料の調達状況、運搬効率（道路混雑状況など）は日々変化し、それに伴う台数の増減が生じます。

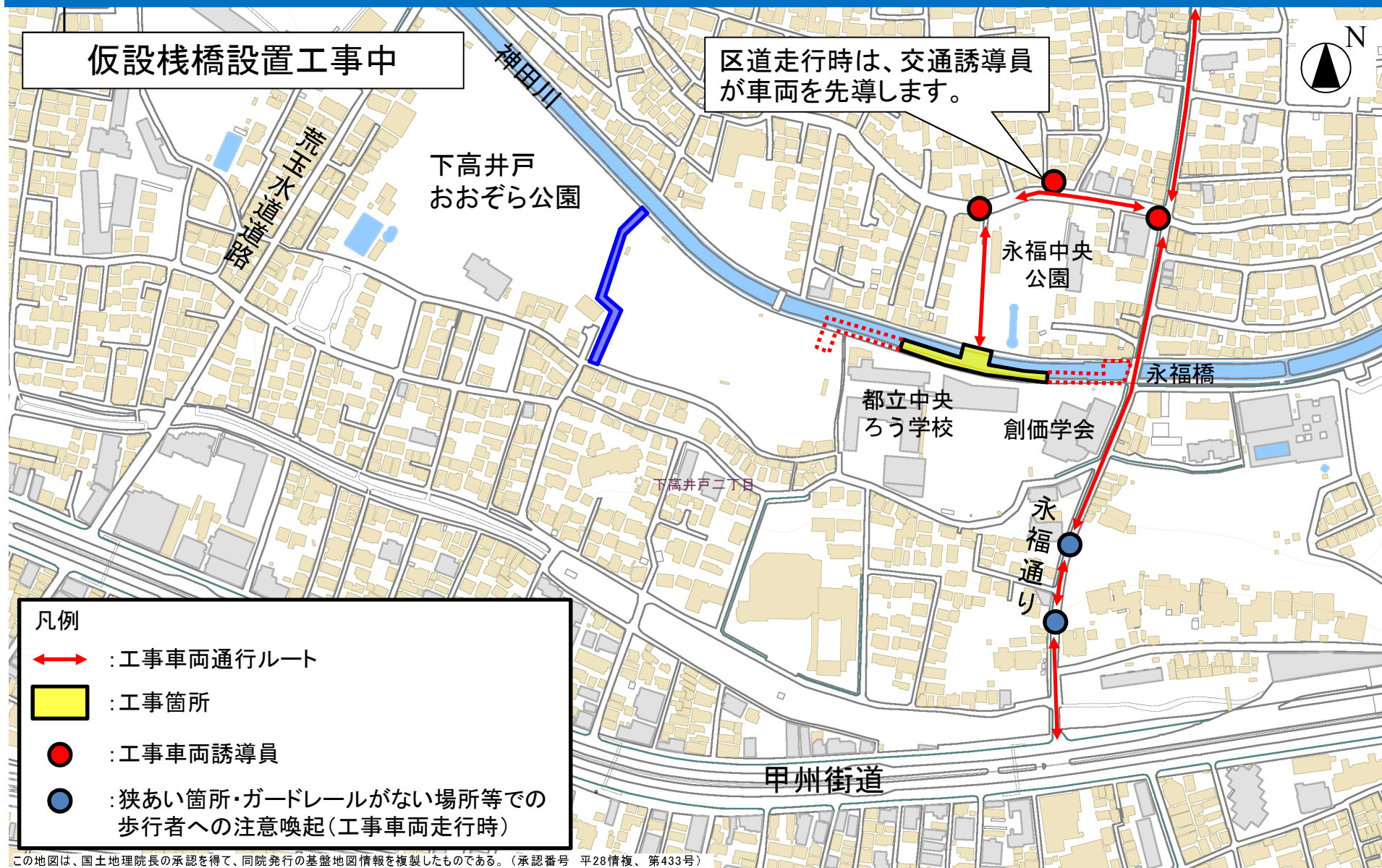
【運搬車両及び施工機械のイメージ】

主要な運搬車両	トレーラ(25t) 全長約16m 全幅約2.5m 延べ70台 (覆工受桁等の長尺鋼材を運搬) 	大型トラック ロング(10～15t) 全長約10～12m 全幅約2.5m 延べ50台 (資機材運搬) 	10tダンプトラック 全長約8m 全幅約2.5m 延べ450台 
主要な施工機械	ラフタークレーン(25t) 全長約11.5m,全幅約2.7m 2台/日 (自走) 	鋼矢板打設機械 延べ2台 (車両運搬) 	バックホウ 延べ2台 (車両運搬) 

工事車両の通行ルートと注意箇所

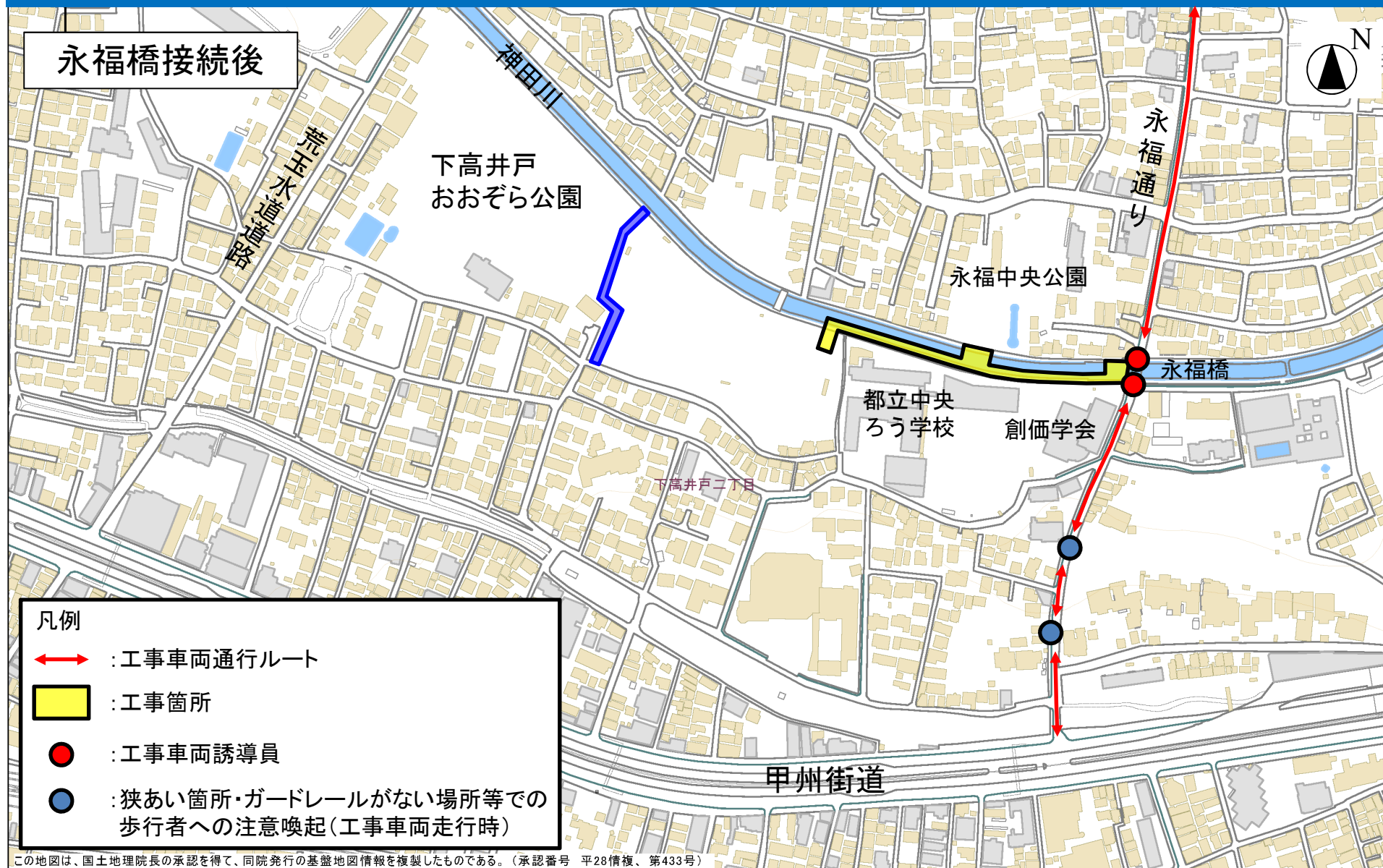


誘導員等の配置について



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を複製したものである。(承認番号 平28情複、第433号)

誘導員等の配置について

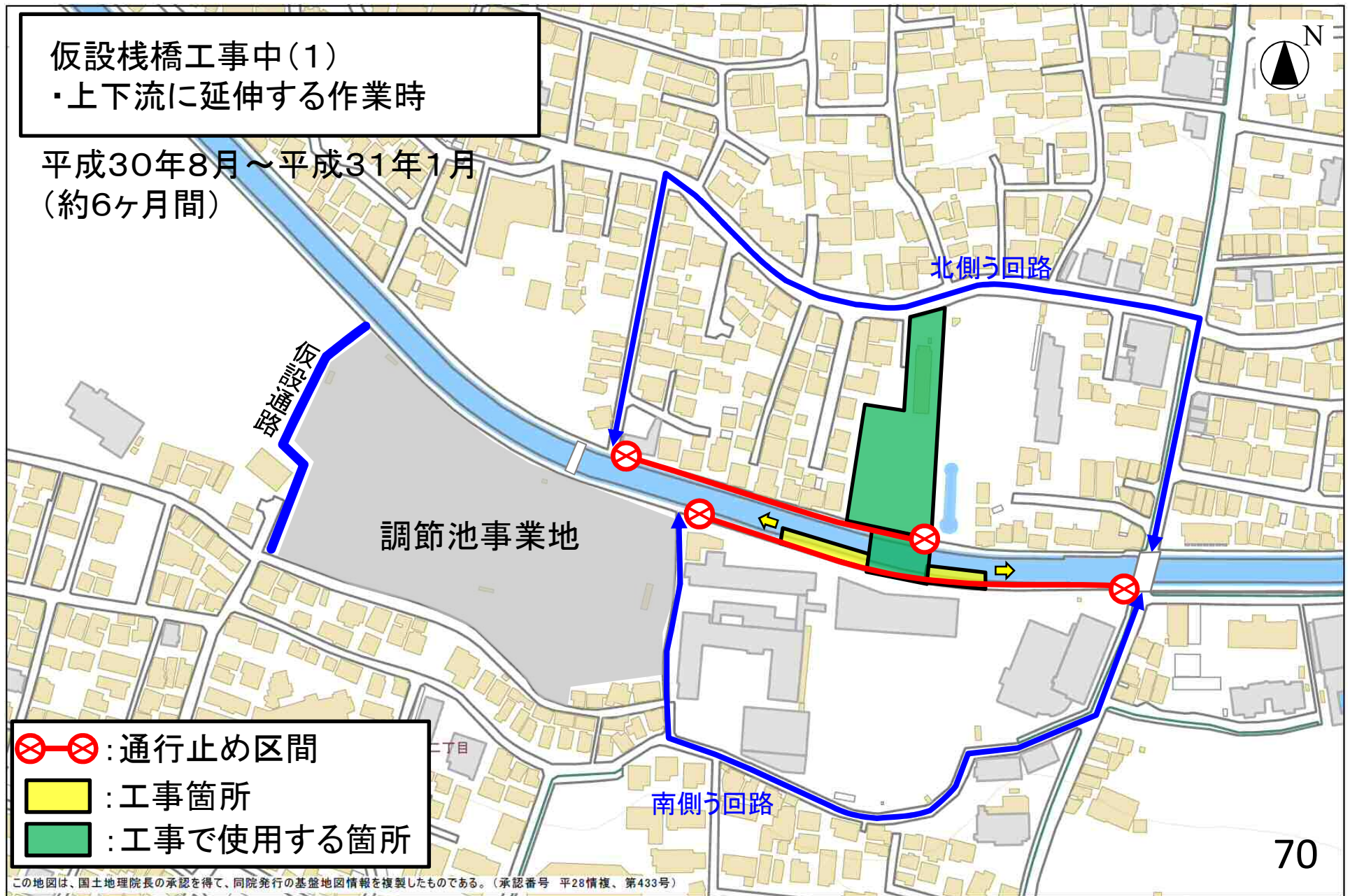


通行止め区間とう回路

仮設栈橋工事中(1)

・上下流に延伸する作業時

平成30年8月～平成31年1月
(約6ヶ月間)

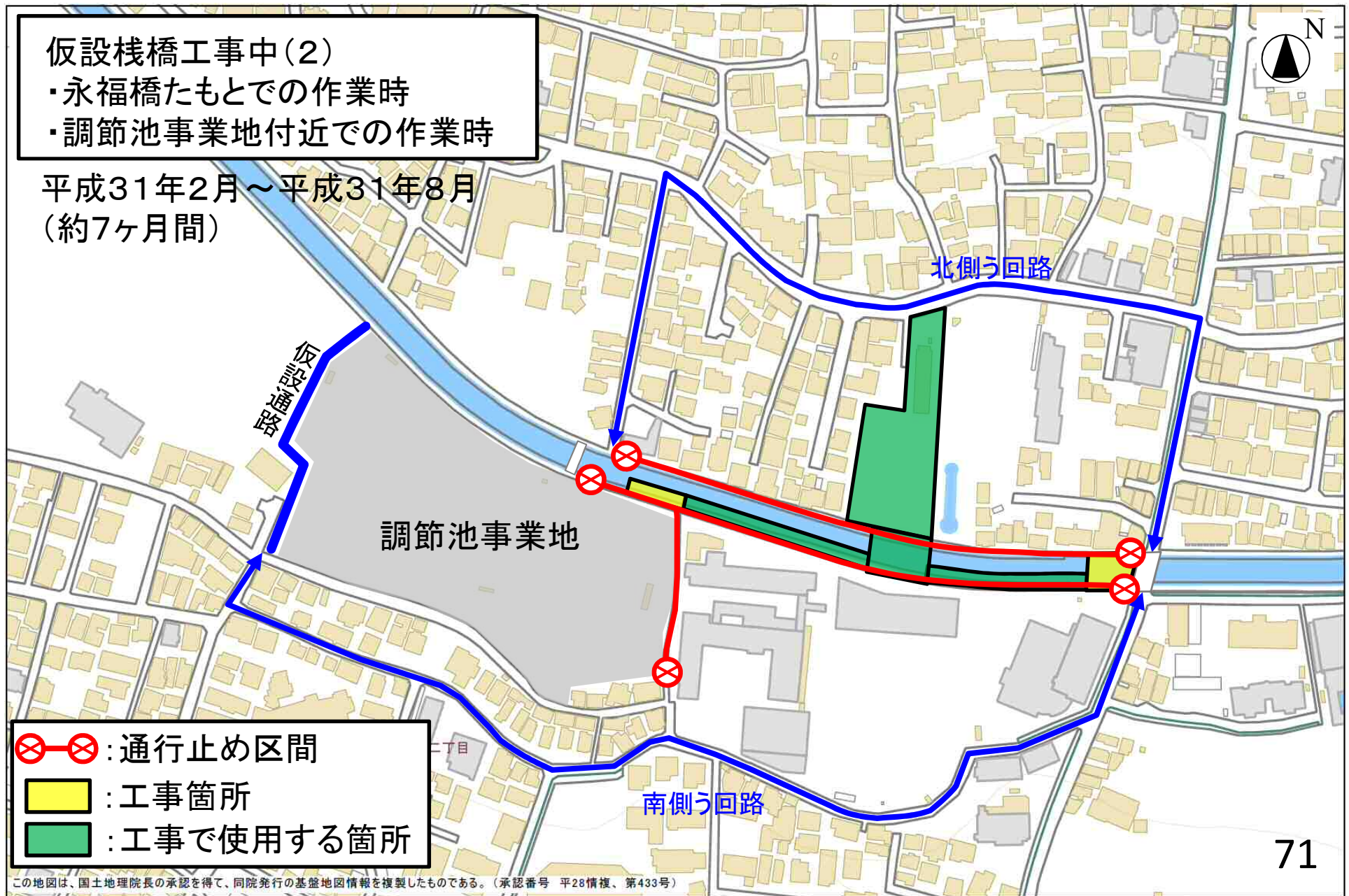


通行止め区間とう回路

仮設栈橋工事中(2)

- ・永福橋たもとでの作業時
- ・調節池事業地付近での作業時

平成31年2月～平成31年8月
(約7ヶ月間)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を複製したものである。(承認番号 平28情複、第433号)

工事の対策等について

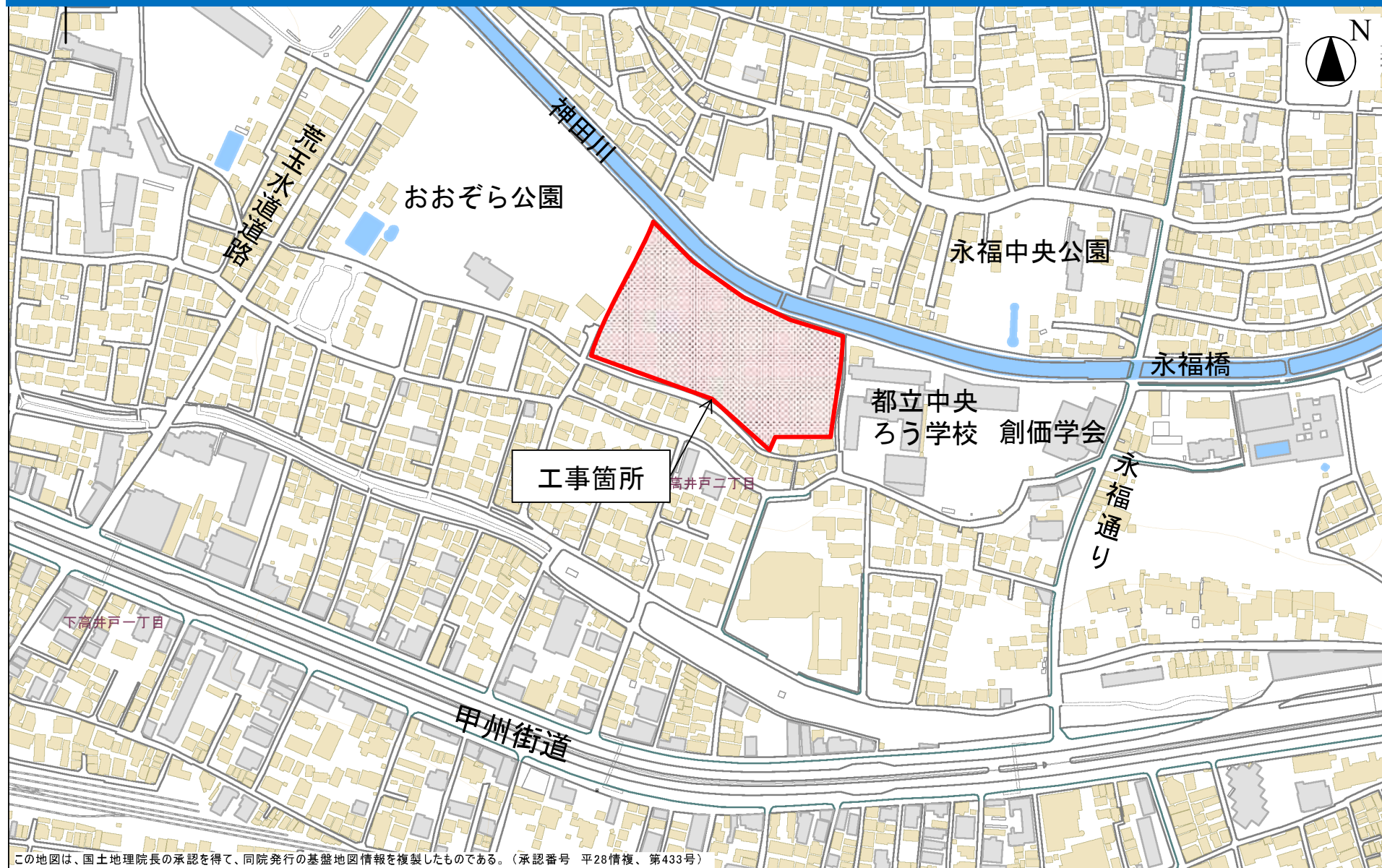
1. 工事中は工事車両出入口部及び歩道が狭い場所に誘導員を配置致します。
2. 工事車両が栈橋上通路を走行するときは10km/h以下で走行致します。
一般道を走行する際は法定速度等の交通法規を遵守してまいります。
3. 低騒音・低振動の機械を使用して騒音振動の低減に努めてまいります。
4. 待機中等の場合はアイドリングストップを励行して工事を行ってまいります。
5. 杭打ちや擁壁壊しについて、従来よりも騒音・振動が出ない工法を採用して工事を計画しております。
6. 河川内の杭打ち本数を半分に減らして、工期の短縮を図っております。

下高井戸調節池工事について

工事概要

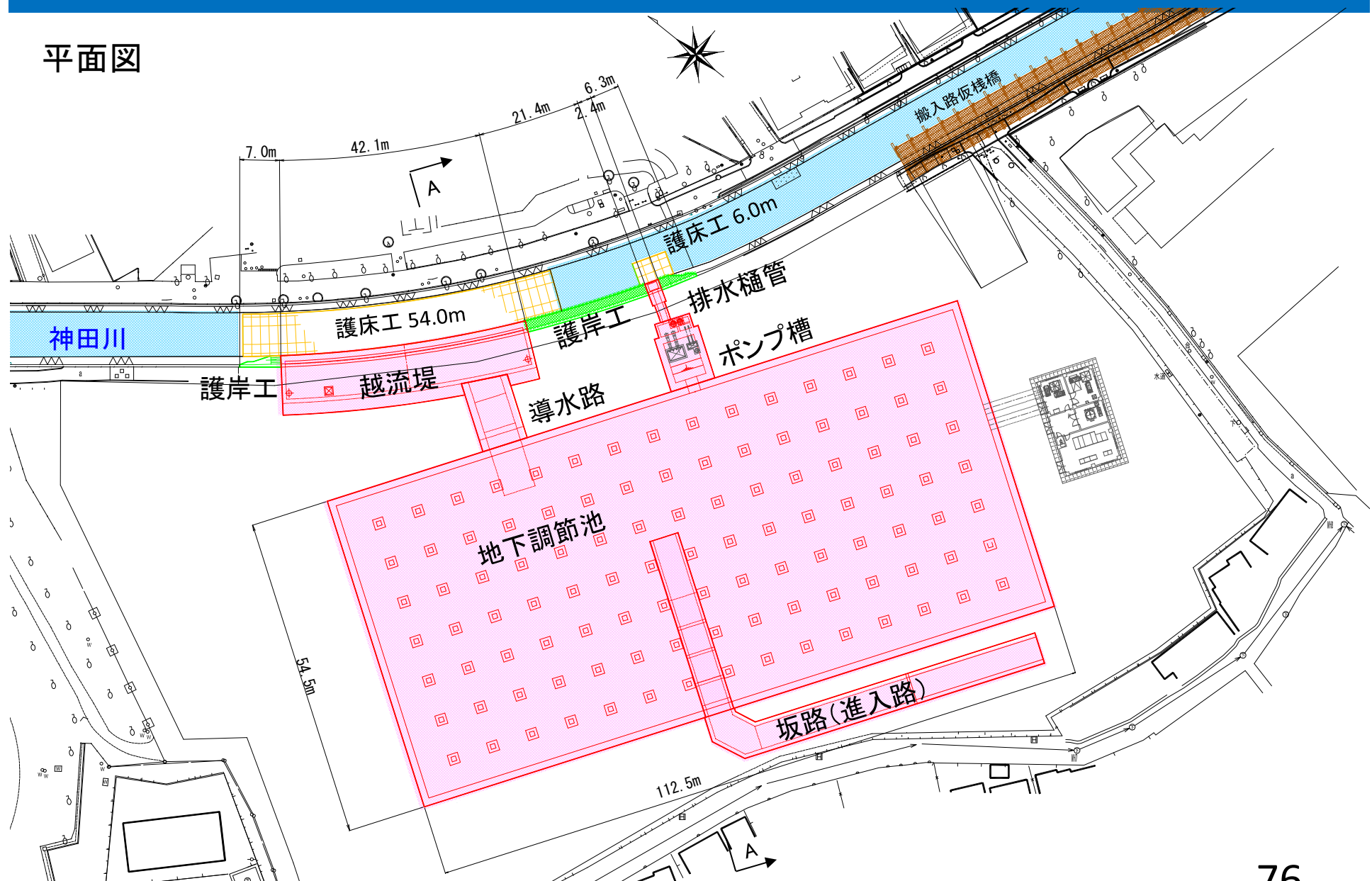
- 工事件名 下高井戸調節池工事
- 工事金額 3, 893, 400, 000円(税込)
- 発注者名 東京都(第三設事務所)
- 施工者名 大成・徳倉建設共同企業体
- 工事内容 地下調節池 112.5m×54.5m×8.7m
越流堤・ポンプ槽・排水樋管・坂路(進入路)
護岸工 34.7m
護床工 60.0m

下高井戸調節池工事の位置



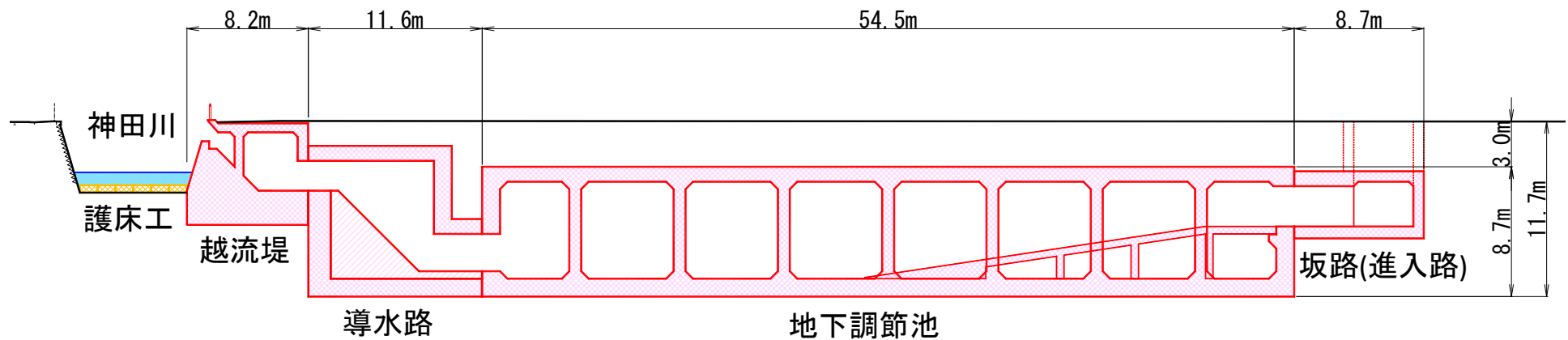
下高井戸調節池工事について

平面図



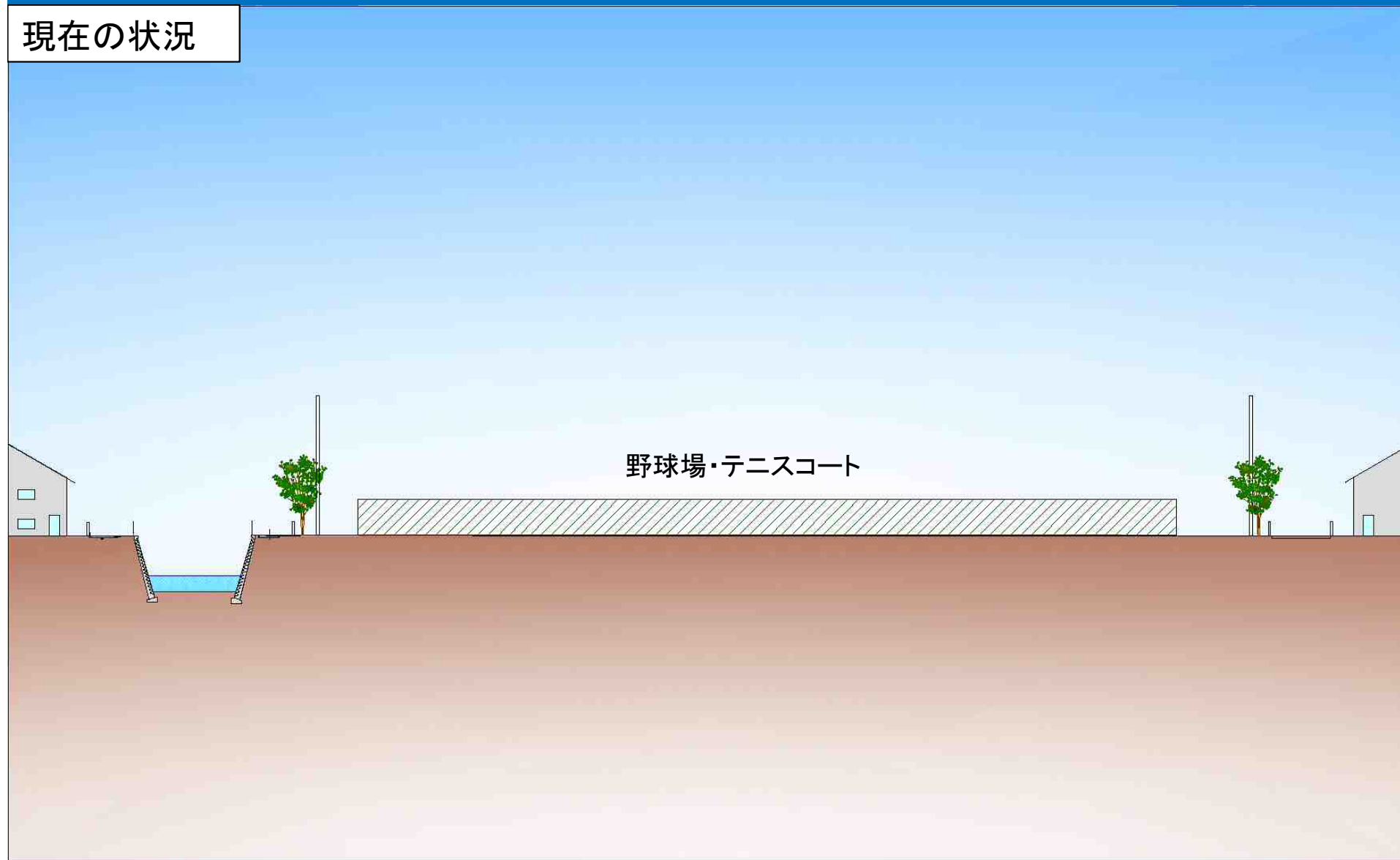
下高井戸調節池工事について

断面図



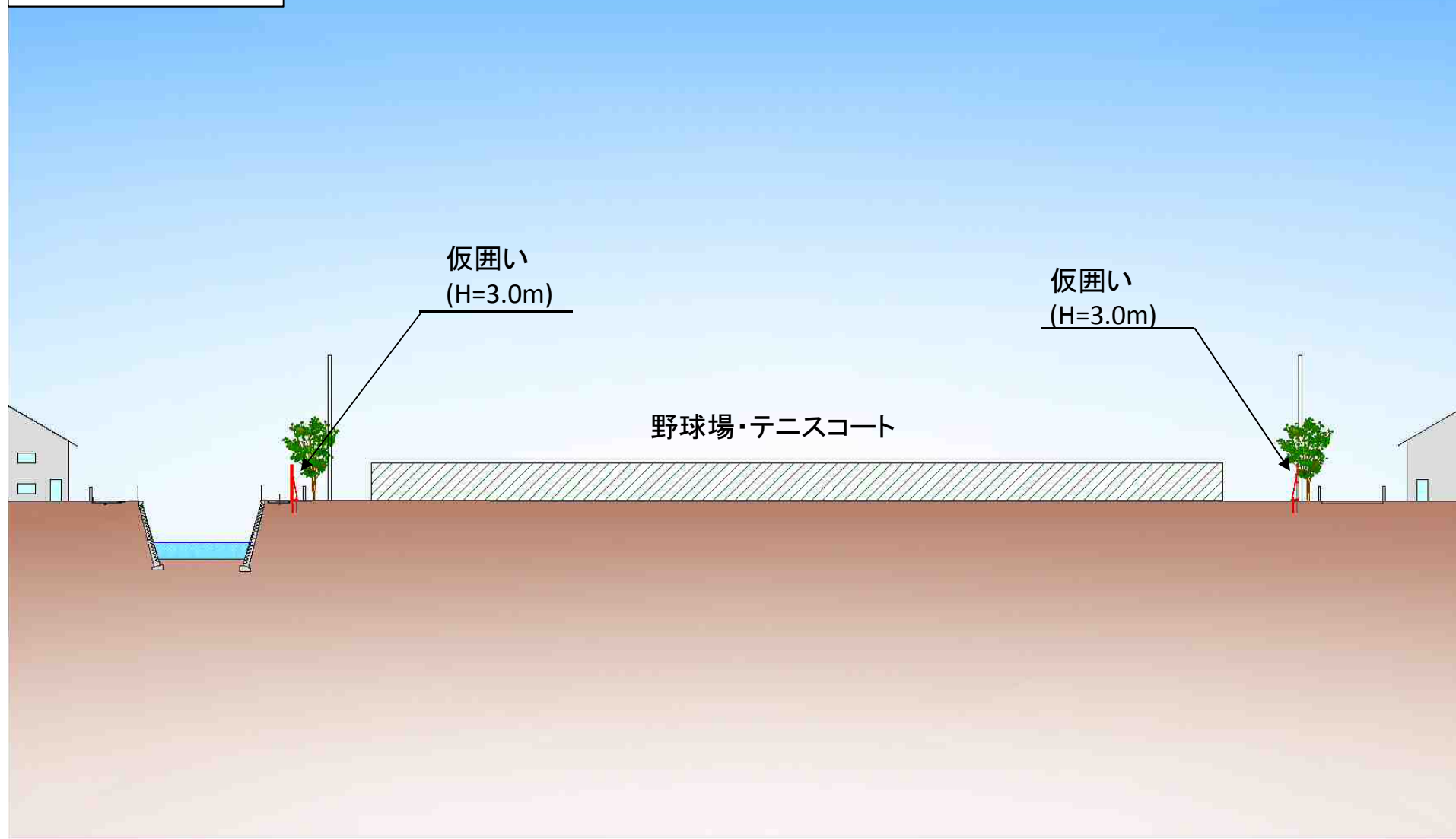
工事の流れ

現在の状況



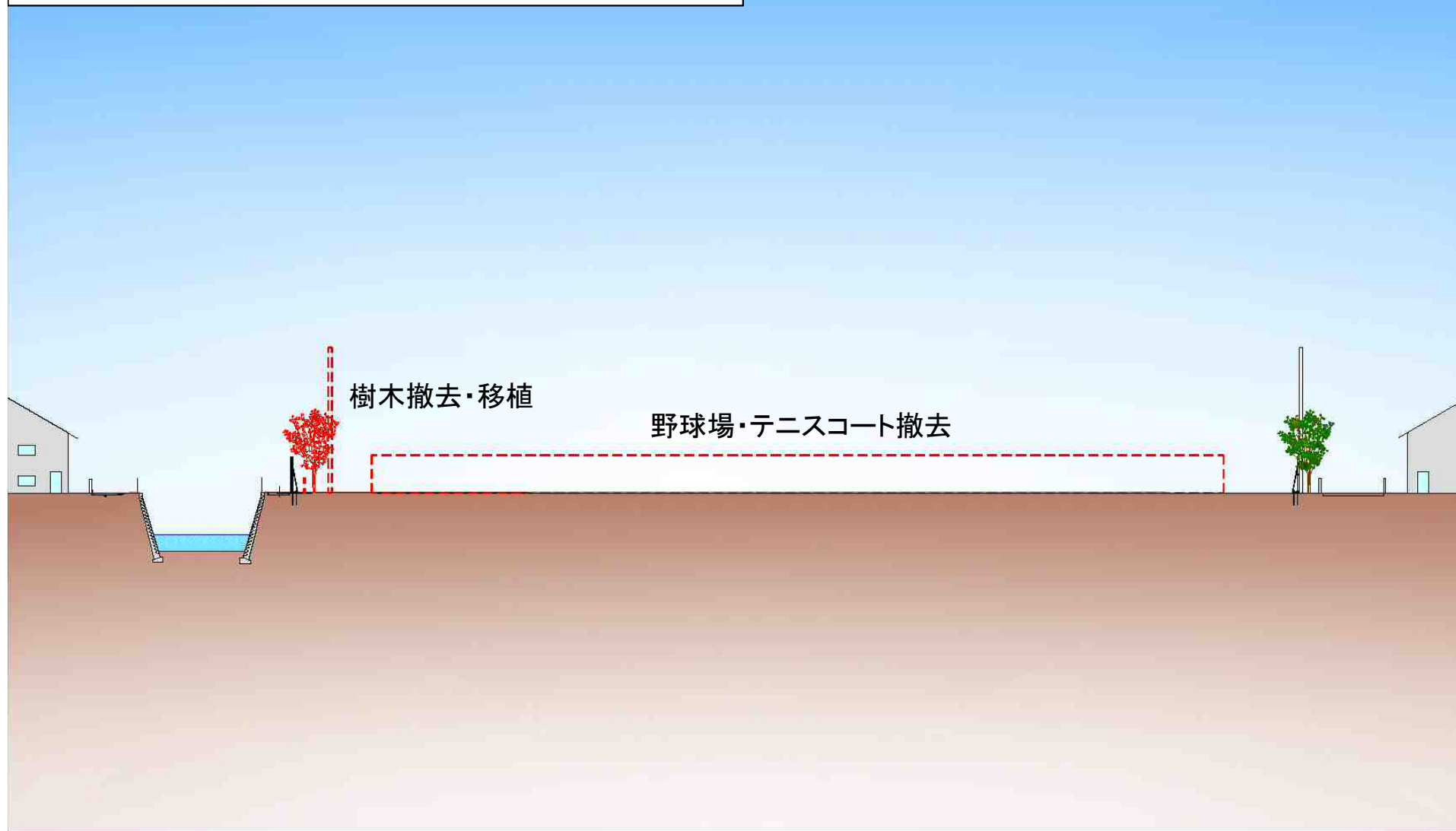
工事の流れ

1. 仮囲い設置



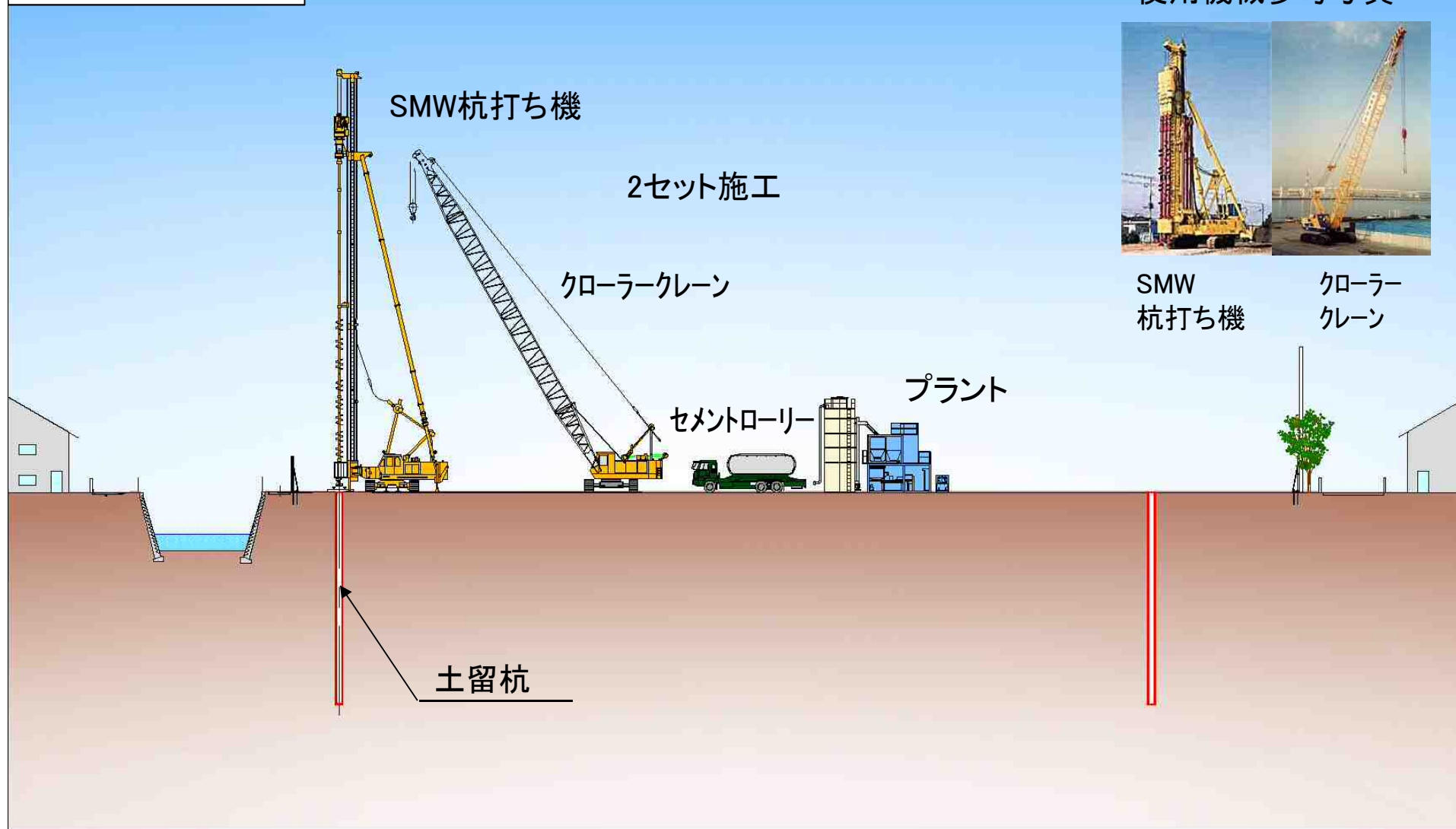
工事の流れ

2.野球場・テニスコート撤去、樹木撤去・移植



工事の流れ

3.土留杭の施工



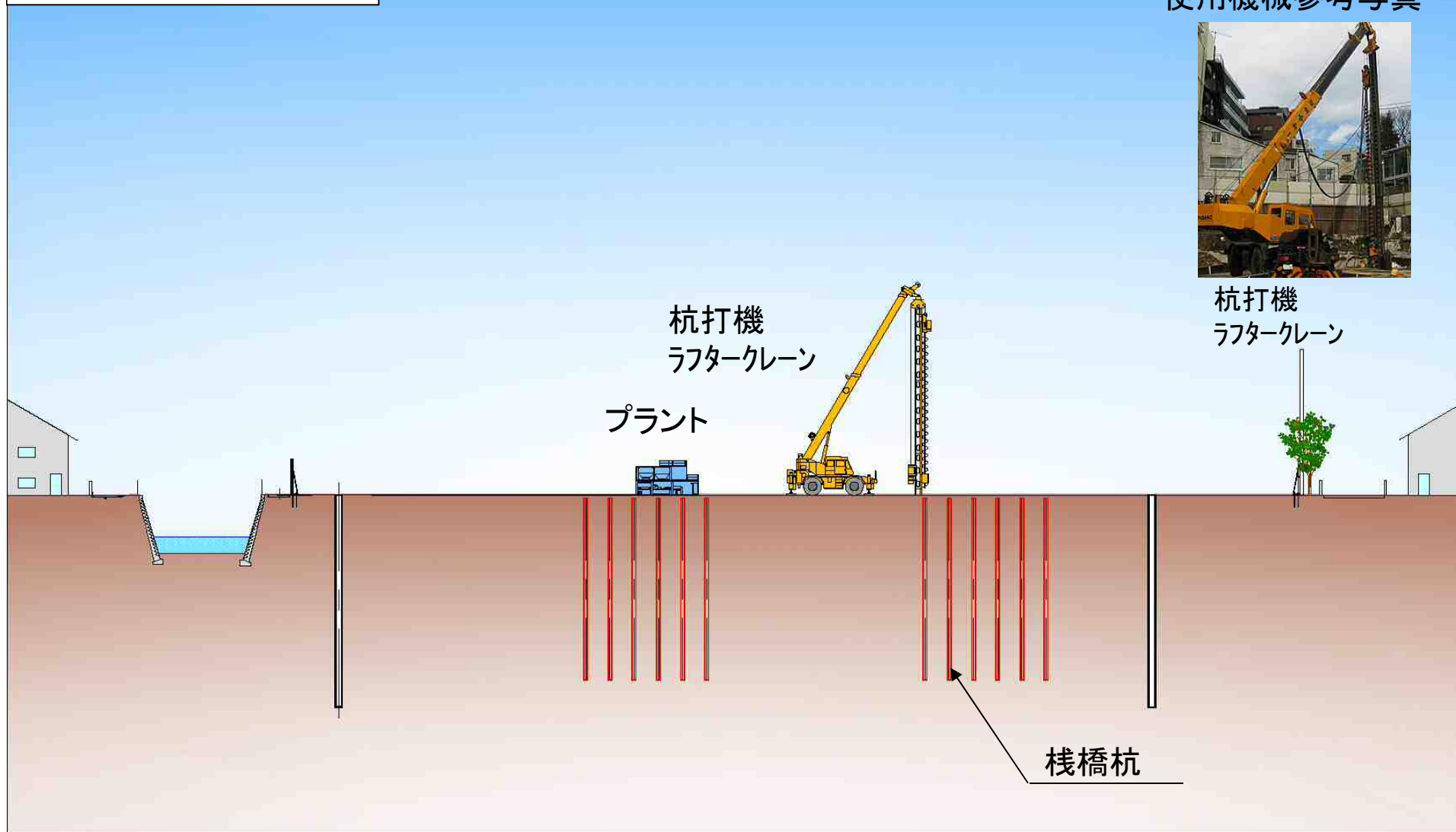
工事の流れ

4.工事用栈橋の施工

使用機械参考写真



杭打機
ラフタークレーン



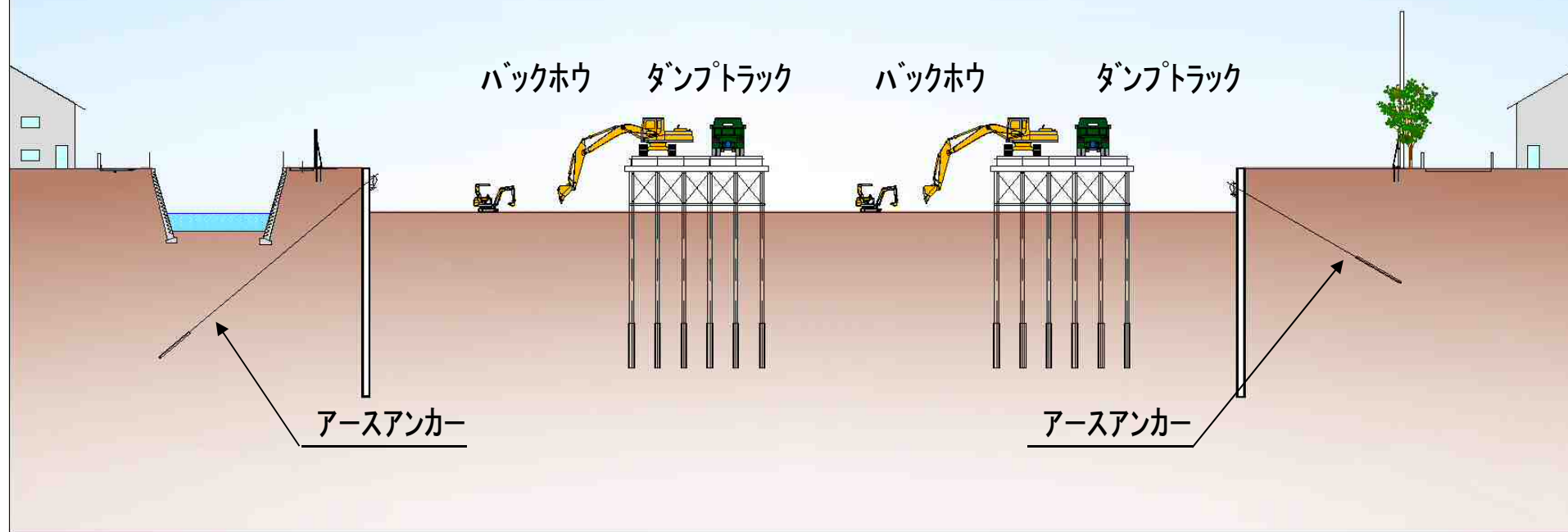
工事の流れ

5.初期の掘削(深さ5.0mまで)

使用機械参考写真



バックホウ



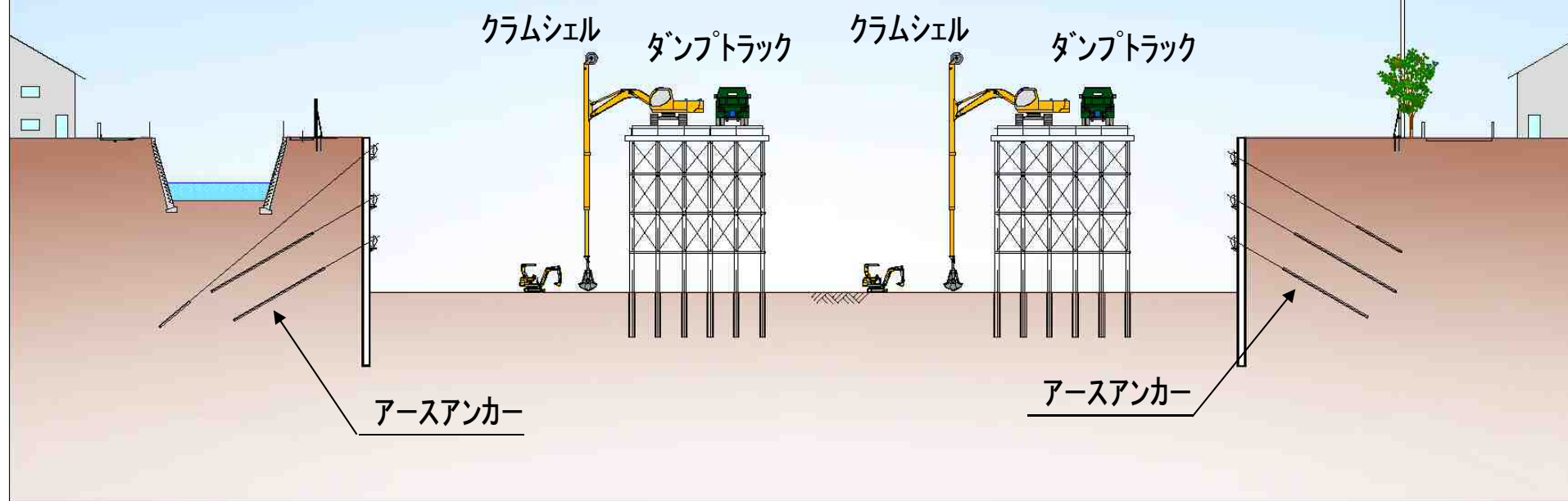
工事の流れ

6.深い部分の掘削

使用機械参考写真



クラムシェル



工事の流れ

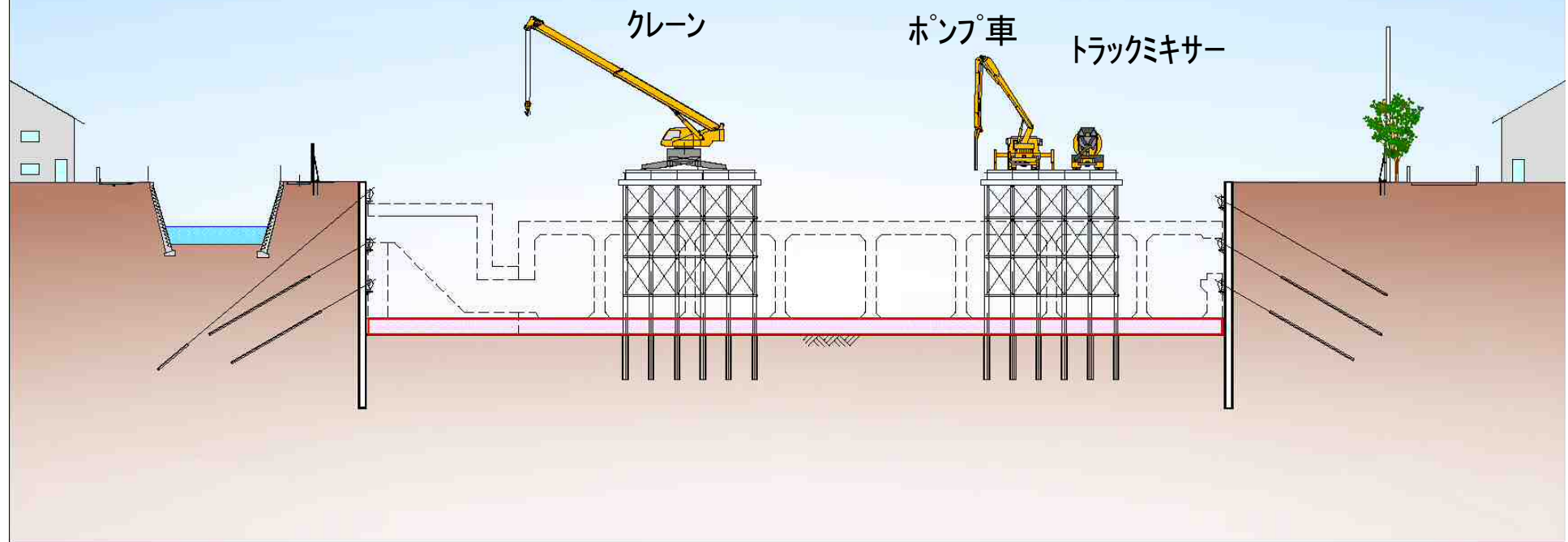
7.調節池・導水路・ポンプ槽築造(底版)

使用機械参考写真



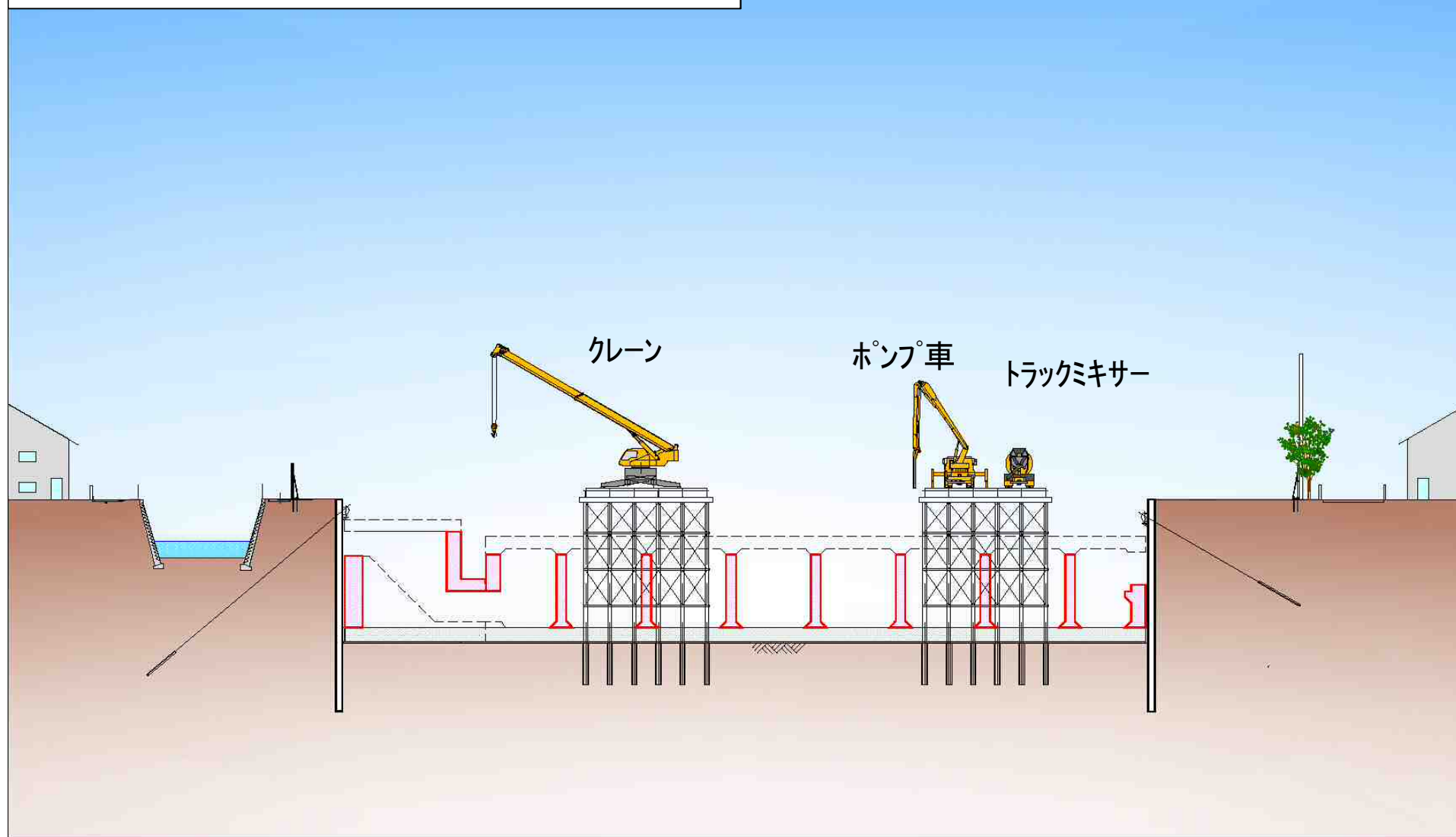
クレーン

ポンプ車



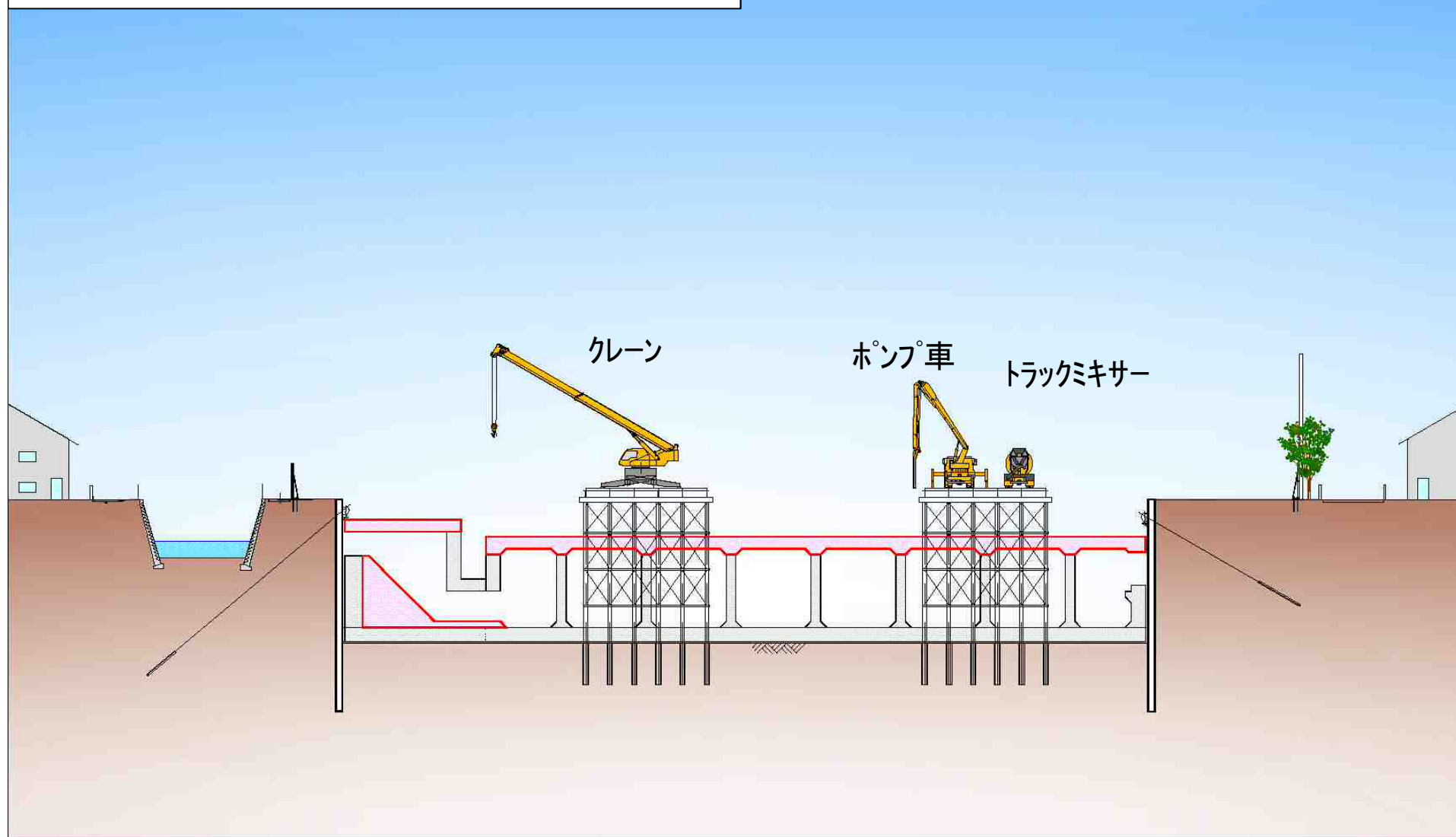
工事の流れ

8.調節池・導水路・ポンプ槽築造(壁・柱)



工事の流れ

9.調節池・導水路・ポンプ槽築造(上床版)



工事の流れ

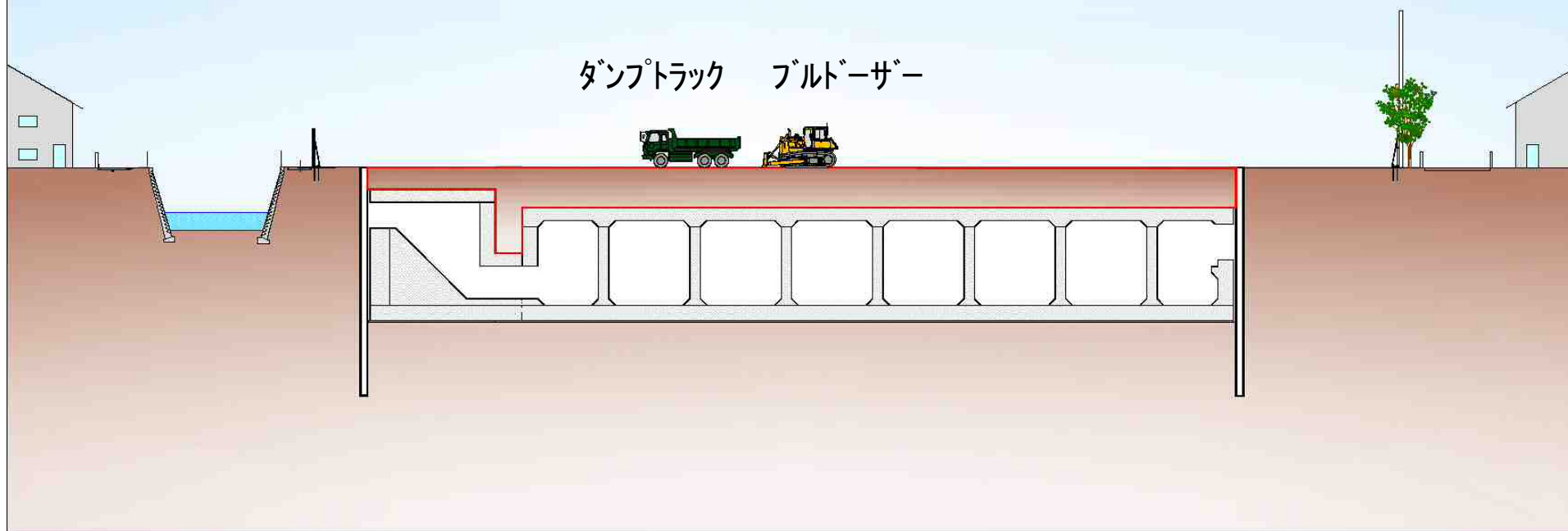
10.調節池・導水路・ポンプ槽埋戻し

使用機械参考写真



ブルドーザー

ダンプトラック ブルドーザー



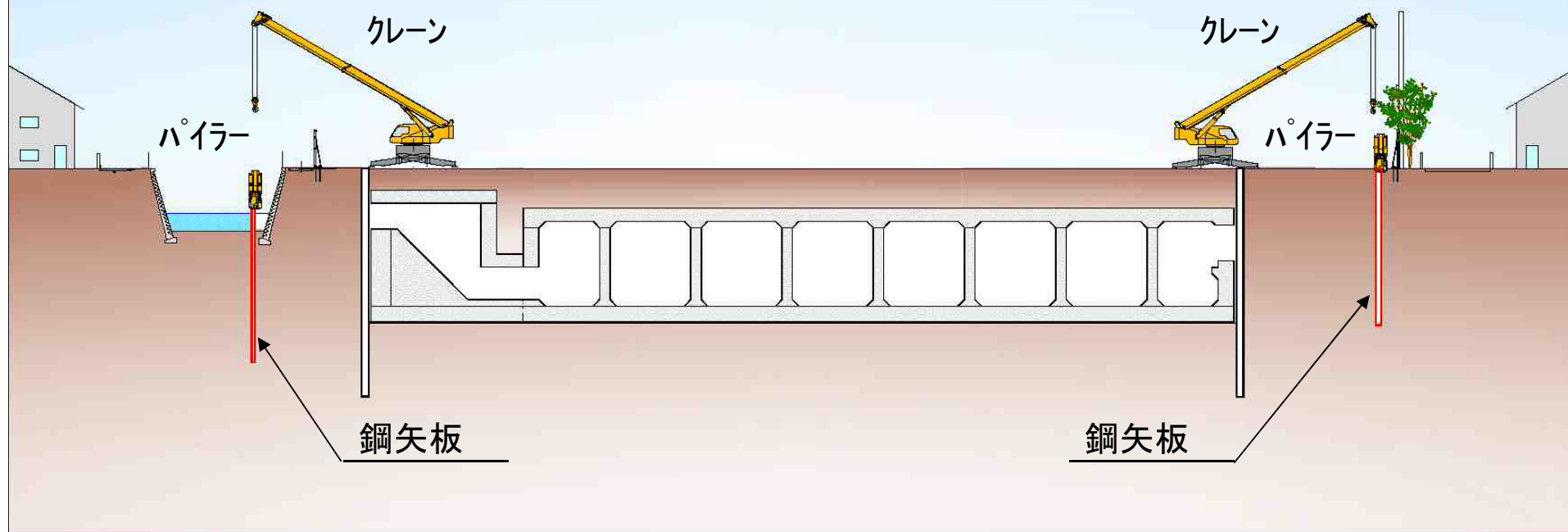
工事の流れ

11.越流堤・坂路部 鋼矢板打ち

使用機械参考写真

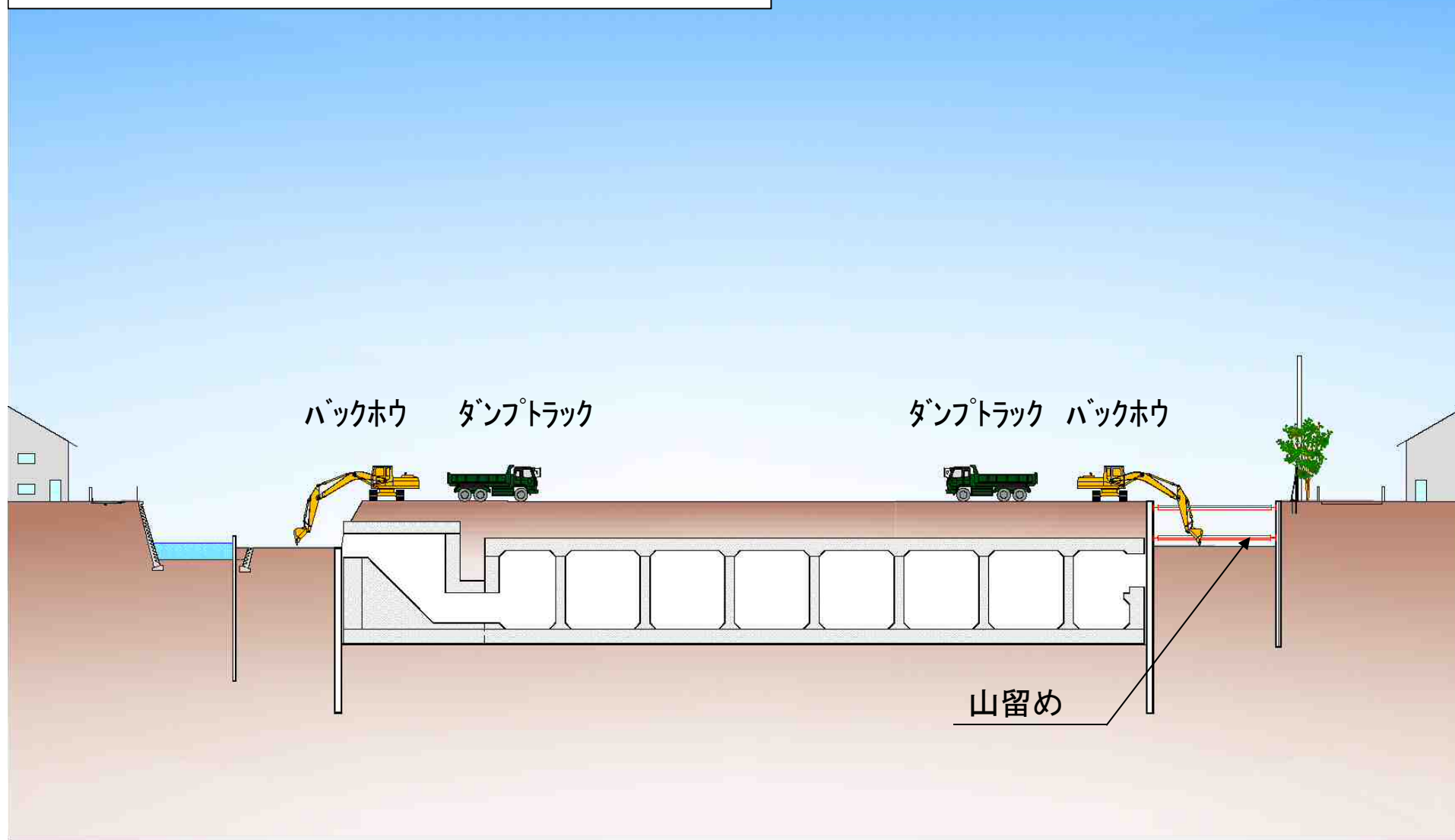


パイラー



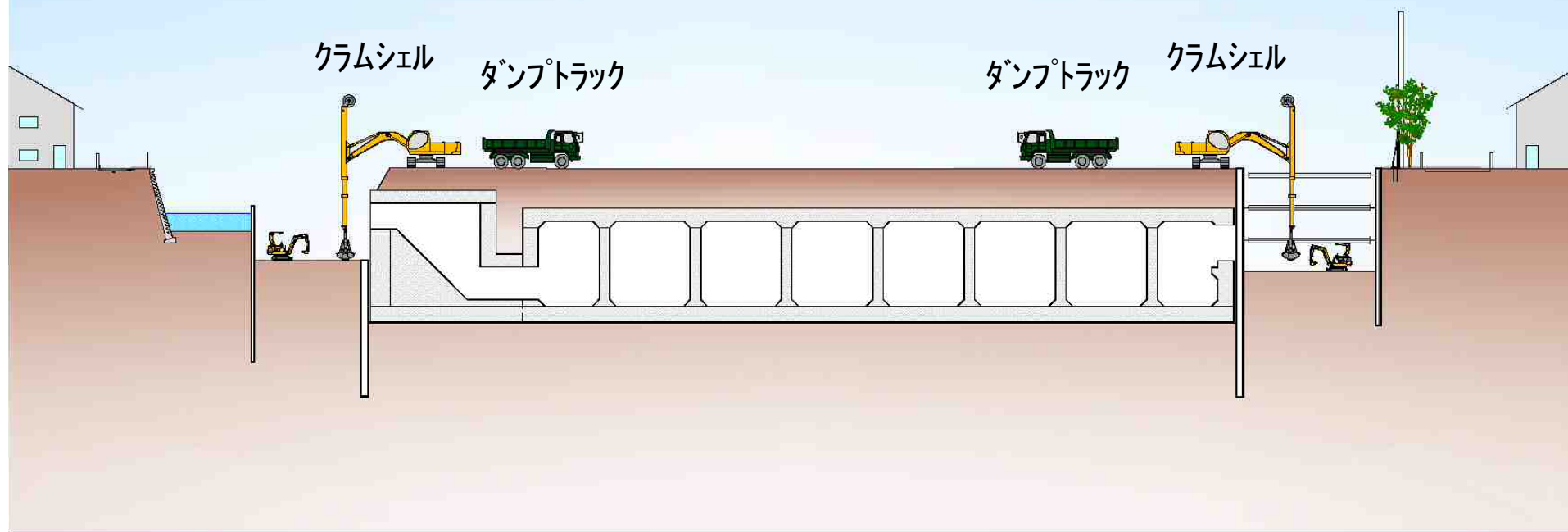
工事の流れ

12.越流堤・坂路部 初期の掘削(深さ5.0mまで)



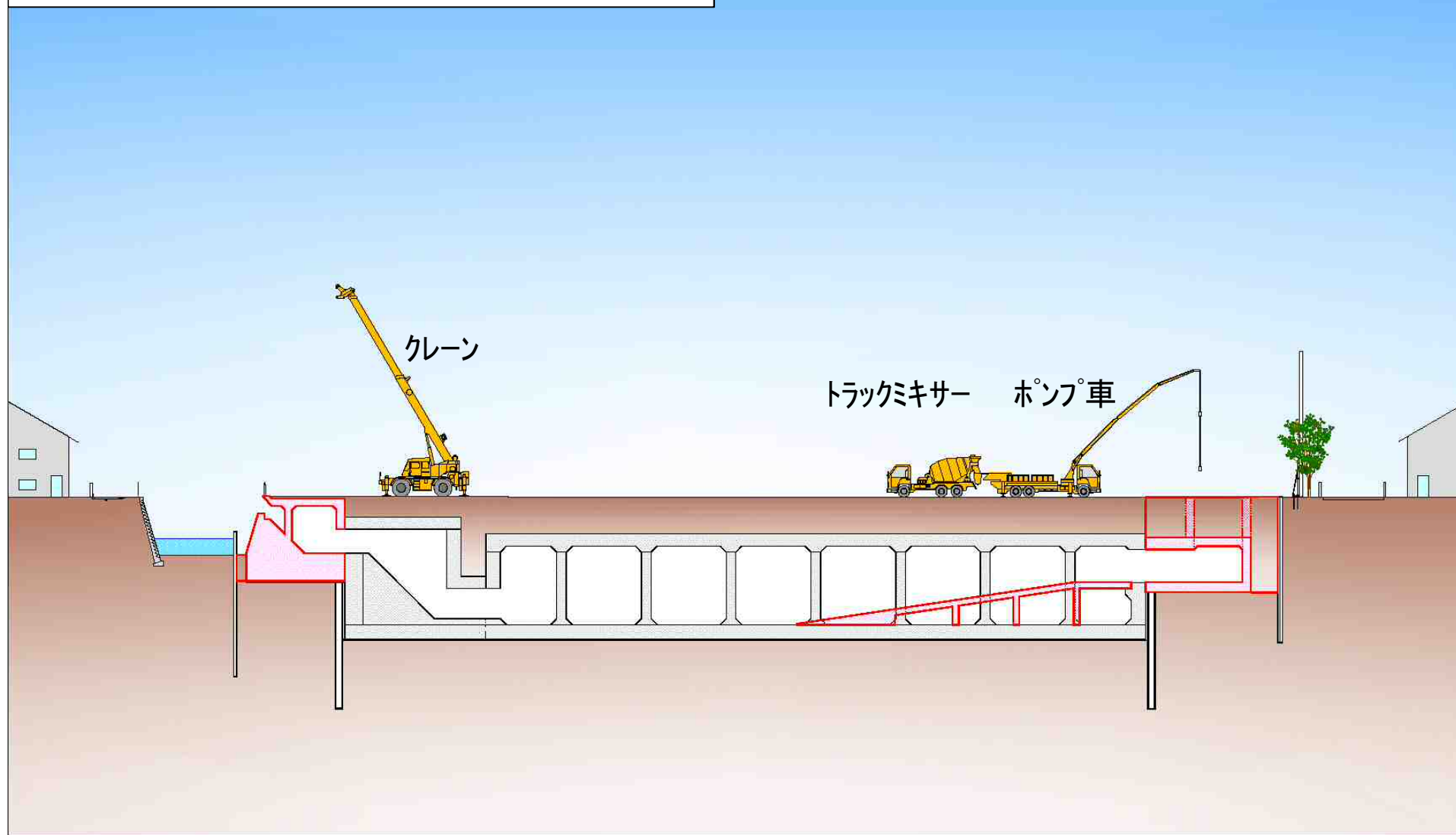
工事の流れ

13.越流堤・坂路部 深い部分の掘削



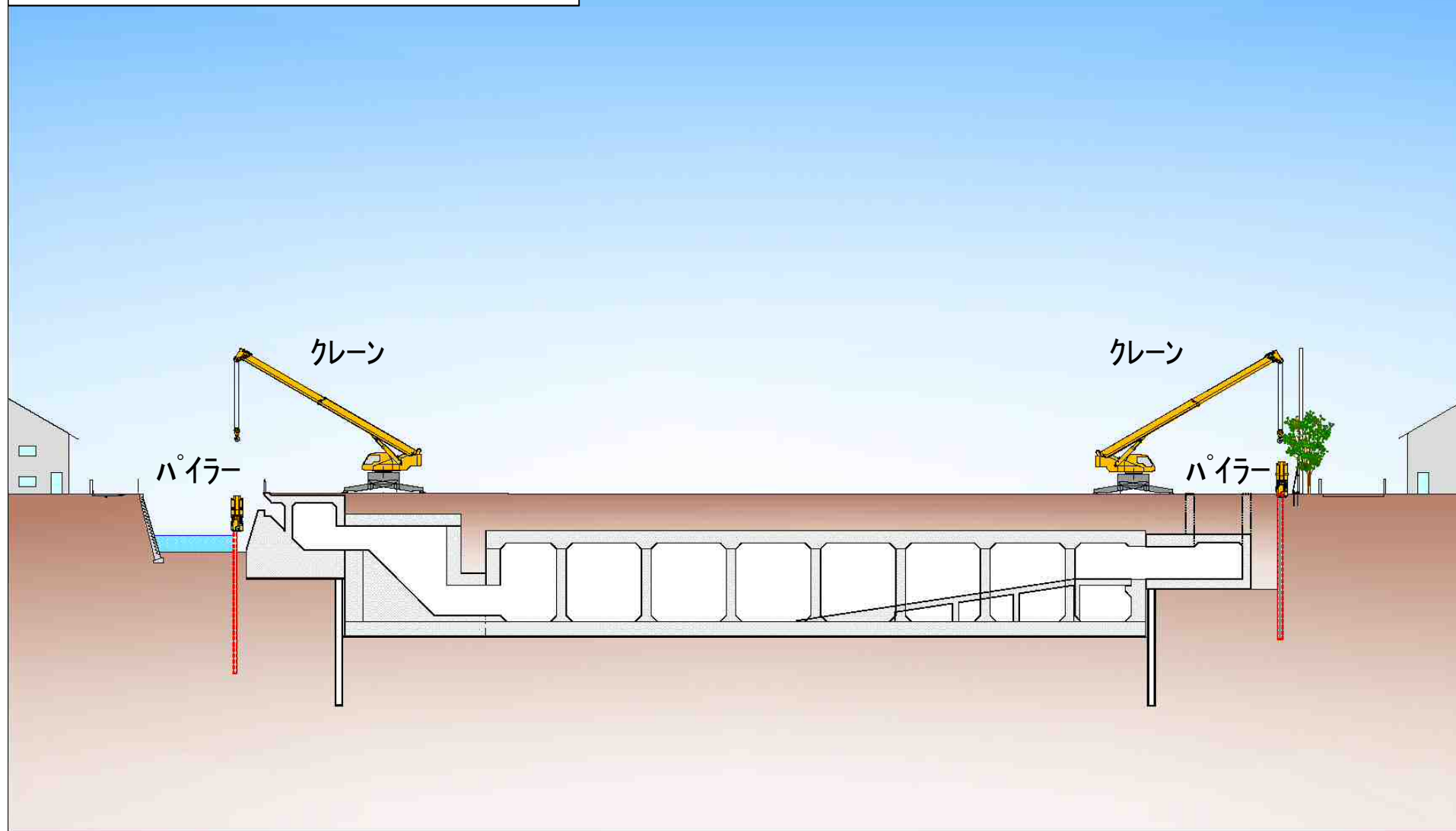
工事の流れ

14.越流堤・坂路部 築造、護岸復旧、埋戻し



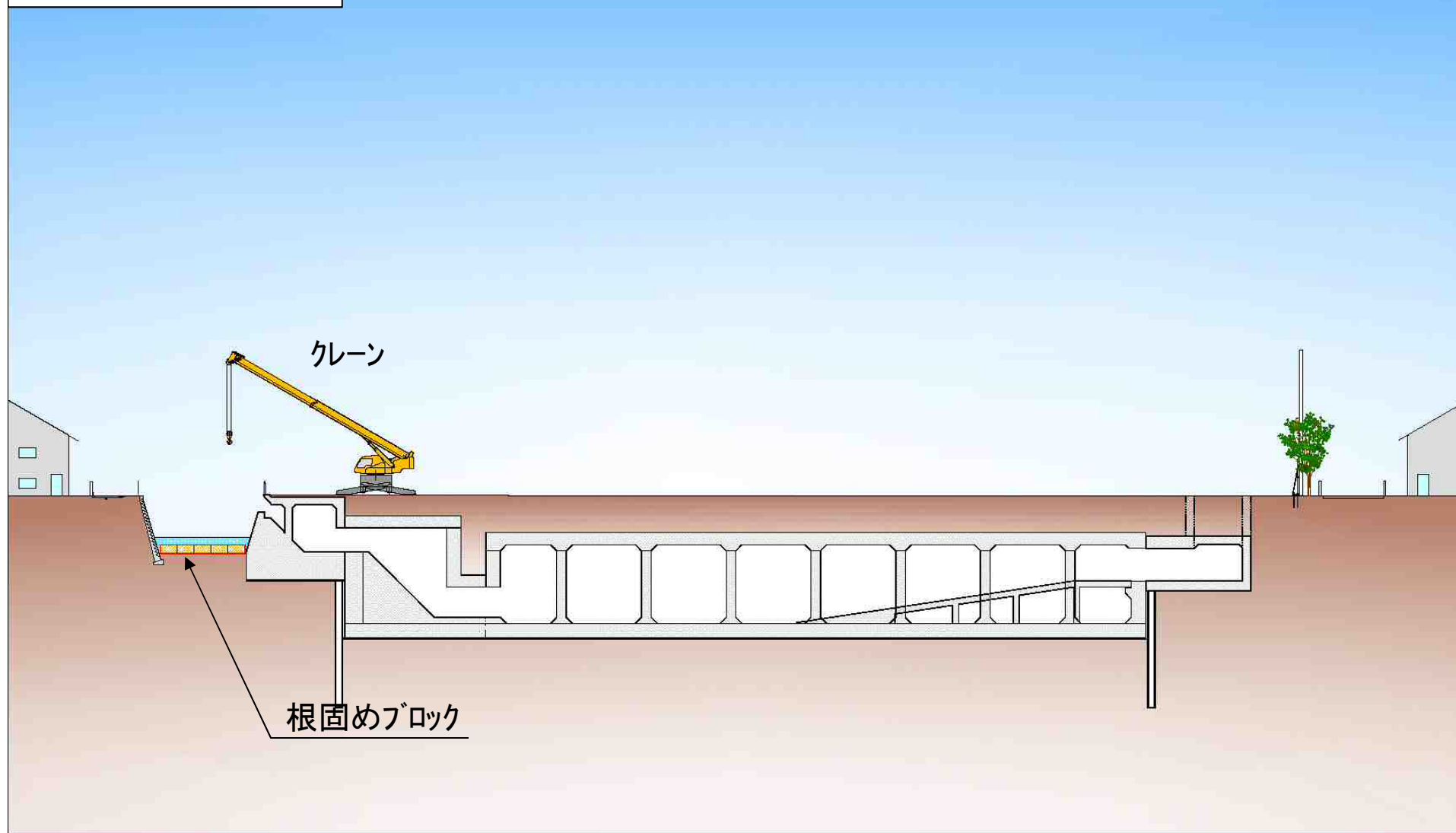
工事の流れ

15.越流堤・坂路部 鋼矢板引抜き



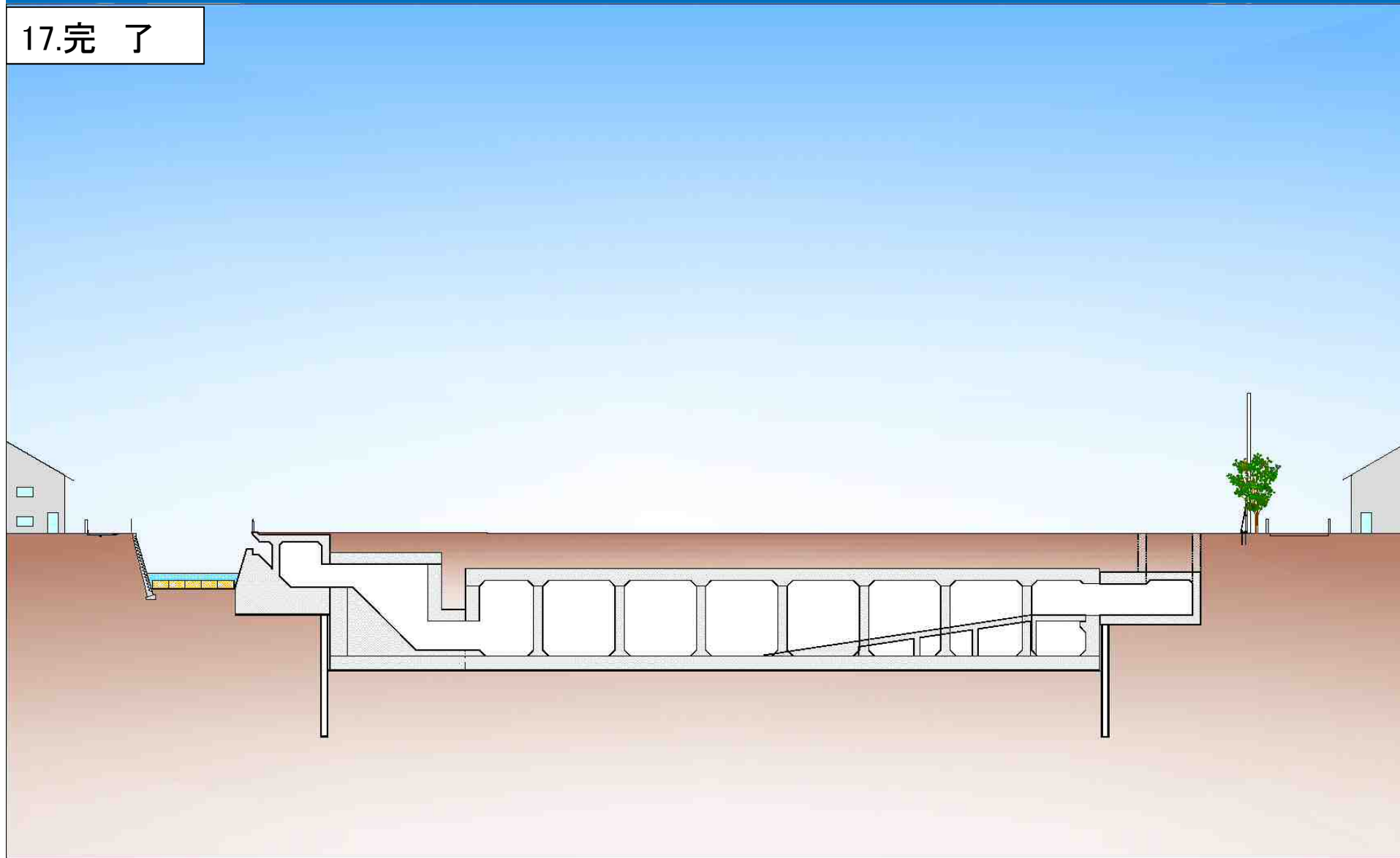
工事の流れ

16.護床工の施工



工事の流れ

17.完了



工事工程

現在の工程に基づく工程表

工 種	平成31年		平成32年				平成33年				平成34年				平成35年				平成36年			
	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12
準備工	家屋調査、野球場・テニスコート撤去、樹木撤去・移植他																					
地下調節池 導水路 ポンプ槽		土留杭	掘削工				構築工								埋戻し							
越流堤・排水樋管			栈橋工												鋼矢板	構築工	護床工					
坂路工															鋼矢板工	構築工	掘削工	埋戻し				
片付工																					片付工	

※この工程表は現時点での計画であり、今後変更となることがあります。

作業時間等について

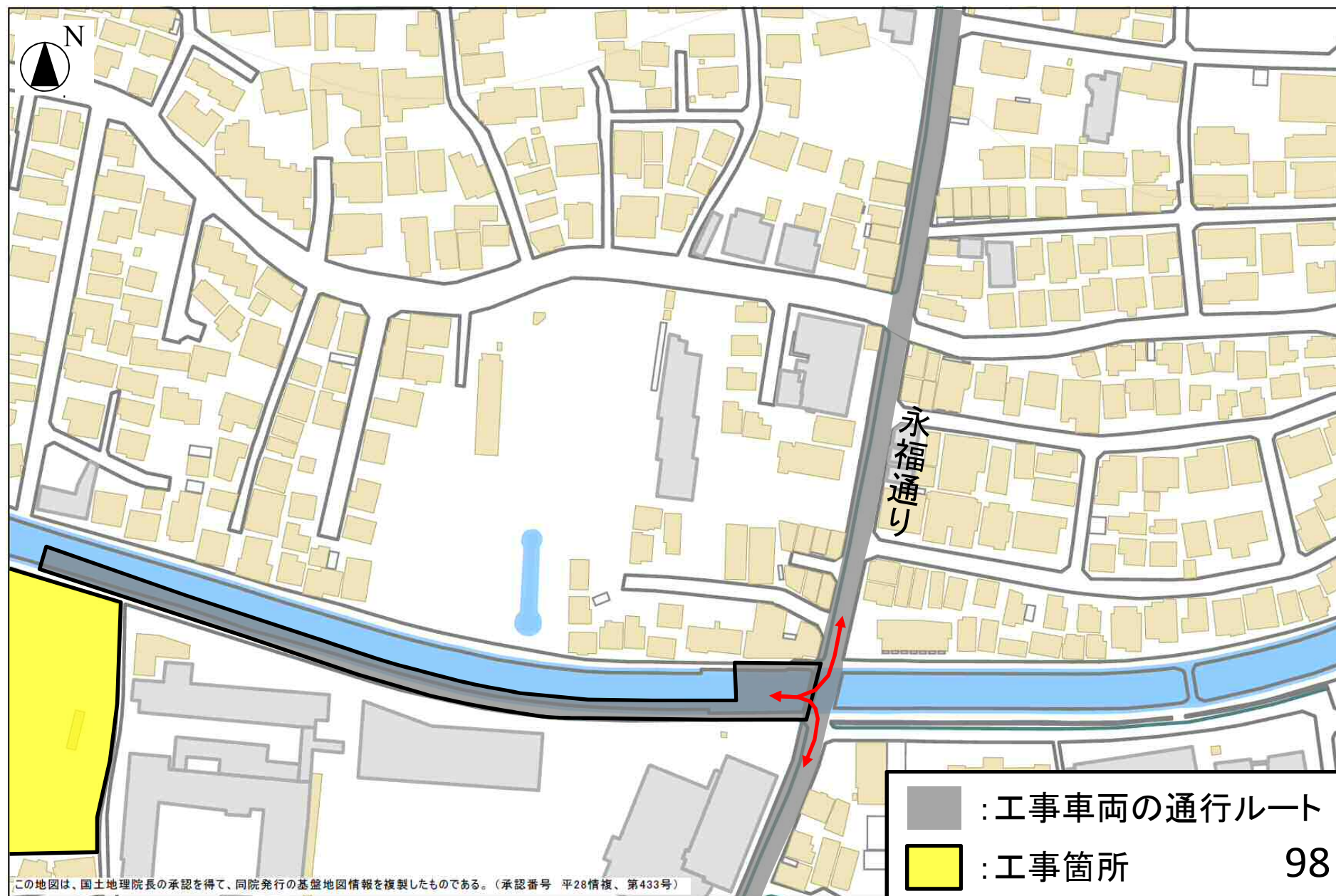
現場の作業時間については、原則 8:00～18:00 で作業を行います。

原則 日曜日は作業を行いません。

土砂搬出車両(ダンプトラック)の入退場は、原則午前8:30からとします。

※工事状況に応じて変更させていただく場合がございます。

工事車両の通行ルート（調節池工事中）



通行予定車両（本体工事 仮設工）

【施工予定時期】

平成31年10月～平成32年3月
（約6ヶ月間）



※延べ台数は施工期間中の総台数です。
※運搬車両台数は片道の台数です。
※施工に必要な最低限の車両数を示したもので、工事に使う車両数を確約するものではありません。
※材料の調達状況、運搬効率（道路混雑状況など）は日々変化し、それに伴う台数の増減が生じます。

【運搬車両及び施工機械のイメージ】

主要な運搬車両	トレーラ（25t, 32t） 全長約16m 全幅約2.5m 延べ250台 （施工機械、鋼材等を運搬） 	10tダンプトラック 全長約8m 全幅約2.5m 延べ640台 （掘削土砂の搬出等） 	セメントローリー 全長約10m 全幅約2.5m 延べ110台 （土留め壁構築用のセメント搬入） 
主要な施工機械	100tクレーン 延べ2台 （車両運搬） 	杭打ち機 延べ3台 （車両運搬） 	バックホウ 延べ4台（車両運搬） 

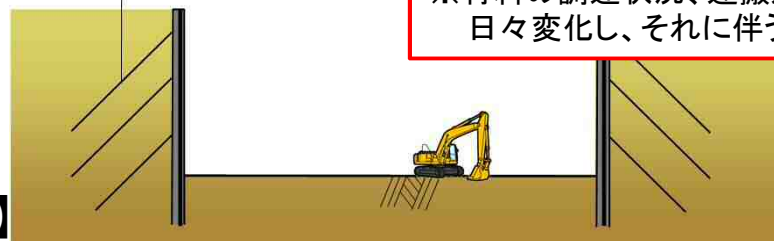
通行予定車両（本体工事 掘削工）

【施工予定時期】

平成32年3月～平成33年2月
（約12ヶ月間）

※延べ台数は施工期間中の総台数です。
※運搬車両台数は片道の台数です。
※施工に必要な最低限の車両数を示したもので、工事に使う車両数を確約するものではありません。
※材料の調達状況、運搬効率（道路混雑状況など）は日々変化し、それに伴う台数の増減が生じます。

土留め壁が動かないように
アンカーで固定



【運搬車両及び施工機械のイメージ】

主要な運搬車両	トレーラ（25t, 32t） 全長約16m 全幅約2.5m 延べ50台 （施工機械、鋼材等を運搬） 	10tダンプトラック 全長約8m 全幅約2.5m 延べ13,570台 （掘削土砂の搬出等） 	
主要な施工機械	25tクレーン 1台／日（自走） 	テレスコラム 延べ2台（車両運搬） 	バックホウ 延べ4台 （車両運搬）  100

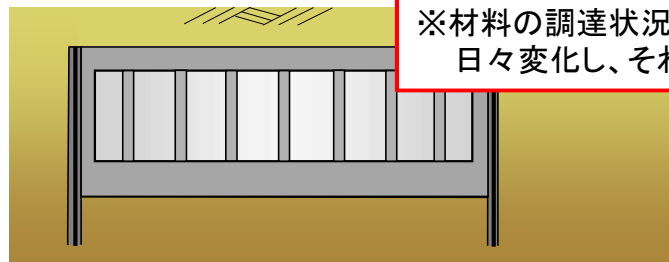
※本図は検討中のものであり、今後変更となることがあります

通行予定車両（本体工事 躯体工）

【施工予定時期】

平成33年3月～平成36年9月
（約43カ月間）

※延べ台数は施工期間中の総台数です。
※運搬車両台数は片道の台数です。
※施工に必要な最低限の車両数を示したもので、工事に使う車両数を確約するものではありません。
※材料の調達状況、運搬効率（道路混雑状況など）は日々変化し、それに伴う台数の増減が生じます。



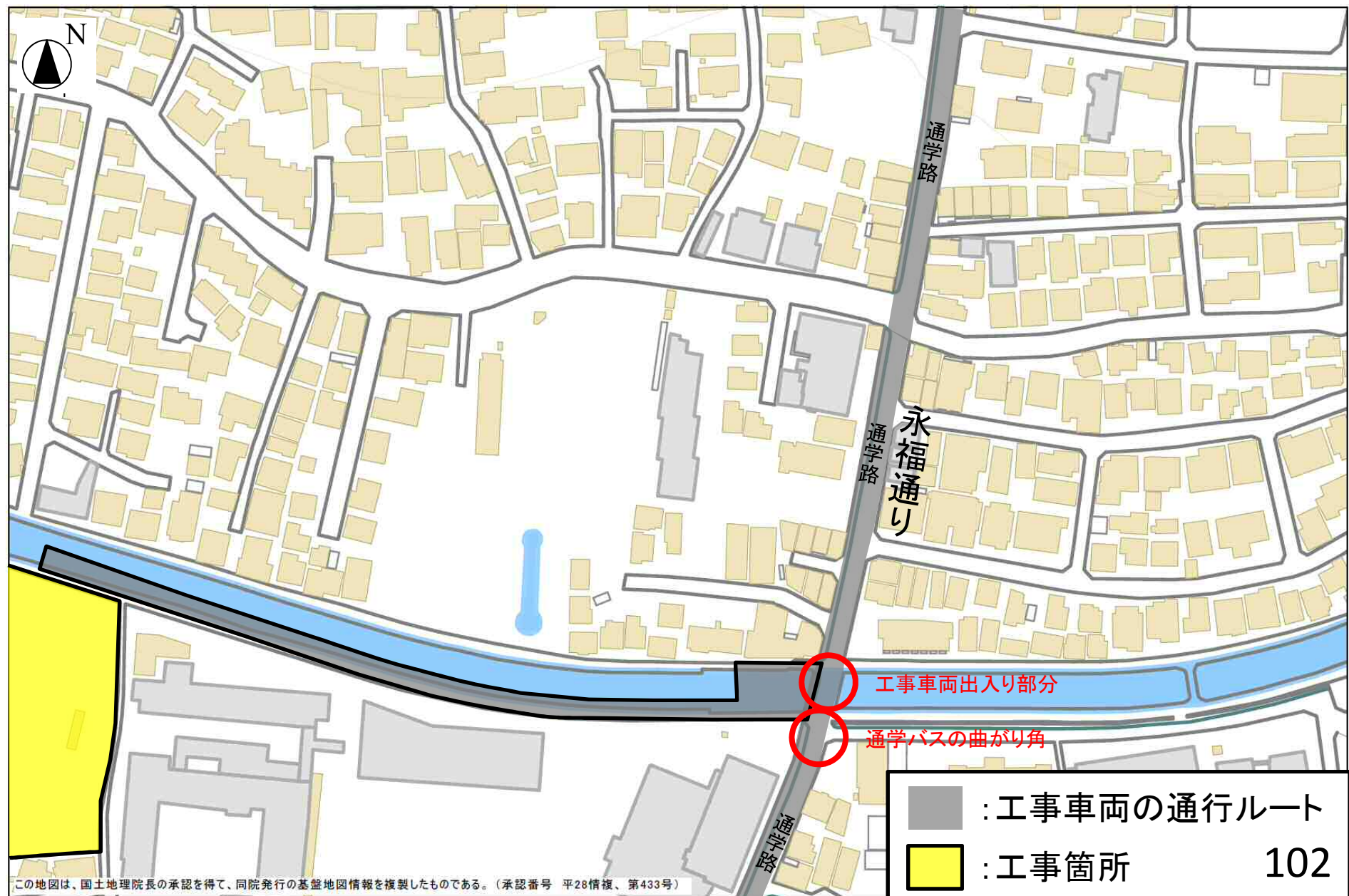
【運搬車両及び施工機械のイメージ】

主要な運搬車両	トレーラ（25t, 32t） 全長約16m 全幅約2.5m 延べ530台 （施工機械、鋼材等を運搬） 	10tダンプトラック 全長約8m 全幅約2.5m 延べ6,240台 （掘削土砂の搬出、埋戻し土の搬入等） 	ミキサー車 全長約8m 全幅約2.5m 延べ6,330台 （コンクリートの搬入） 
主要な施工機械	25～50tクレーン 1～2台/日（自走） 	コンクリートポンプ車 2～4台/回 （5回/月程度） （自走） 	ブルドーザー 延べ2台（車両運搬） 

101

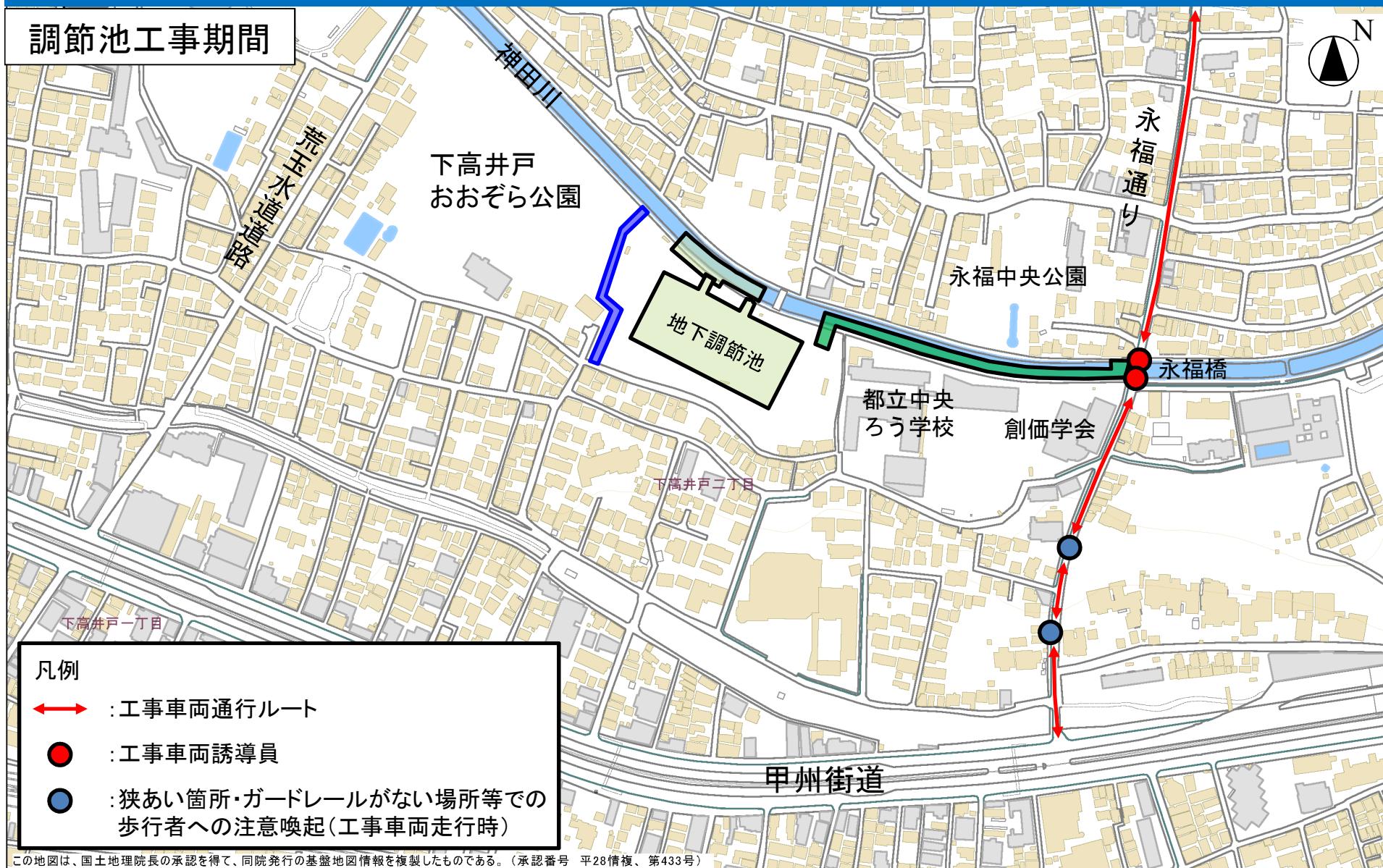
※本図は検討中のものであり、今後変更となることがあります

工事車両の通行ルートの要注意箇所



誘導員等の配置について

調節池工事期間

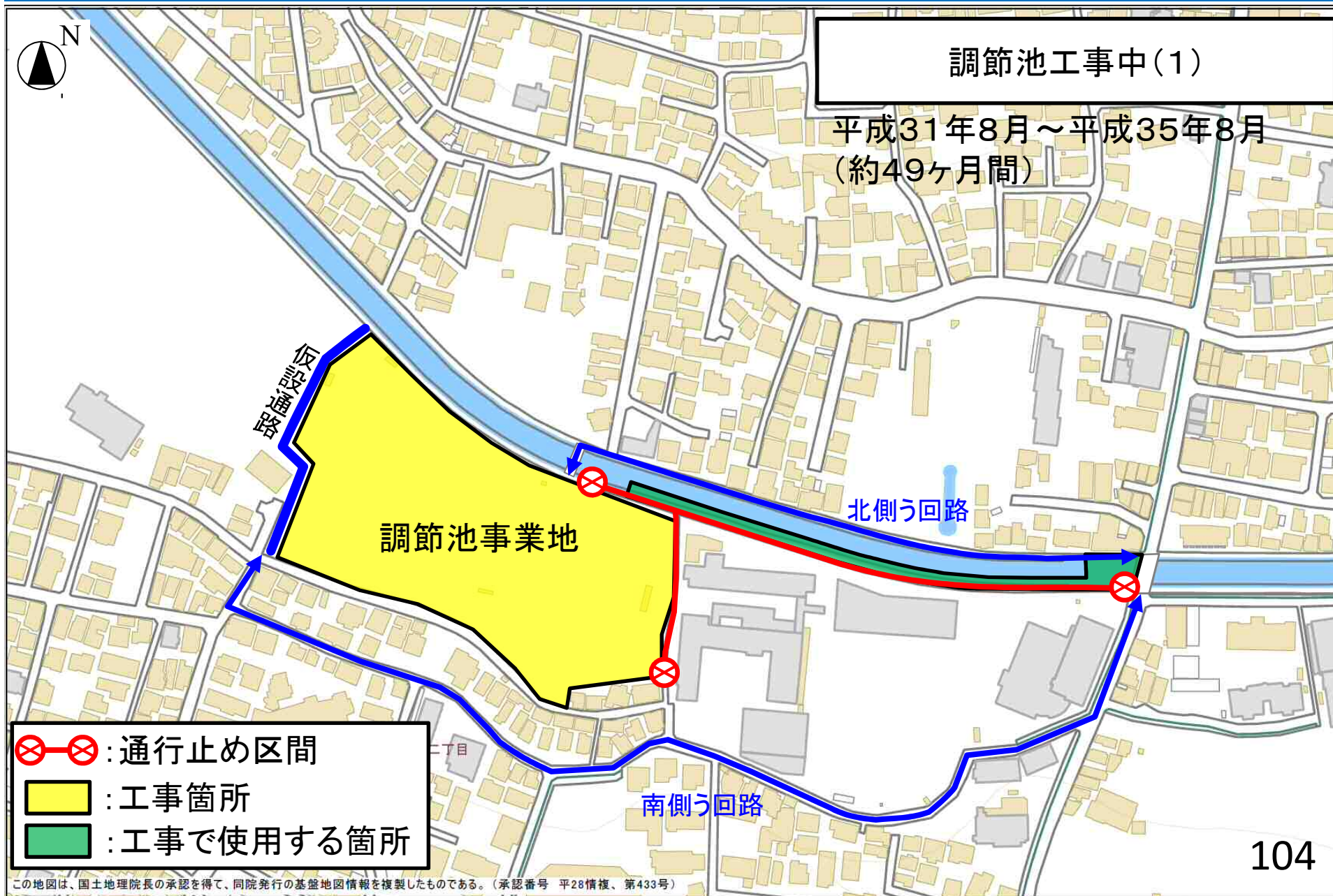


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を複製したものである。(承認番号 平28情複、第433号)

通行止め区間とう回路

調節池工事中(1)

平成31年8月～平成35年8月
(約49ヶ月間)



通行止め区間とう回路



工事期間中の安全対策等について

1. 工事中は工事車両出入口部及び歩道が狭い場所に誘導員を配置致します。
2. 工事車両が栈橋上通路を走行するときは10km/h以下で走行致します。
一般道を走行する際は法定速度等の交通法規を遵守してまいります。
3. 低騒音・低振動の機械を使用して騒音振動の低減に努めてまいります。
4. 待機中等の場合はアイドリングストップを励行して工事を行ってまいります。

工事に伴う家屋調査について

家屋調査とは

工事による近隣家屋への影響の有無について、
正確に判断する資料を得るため、
工事の着手前と完了後に家屋及び屋外の工作物を
調査するものです。

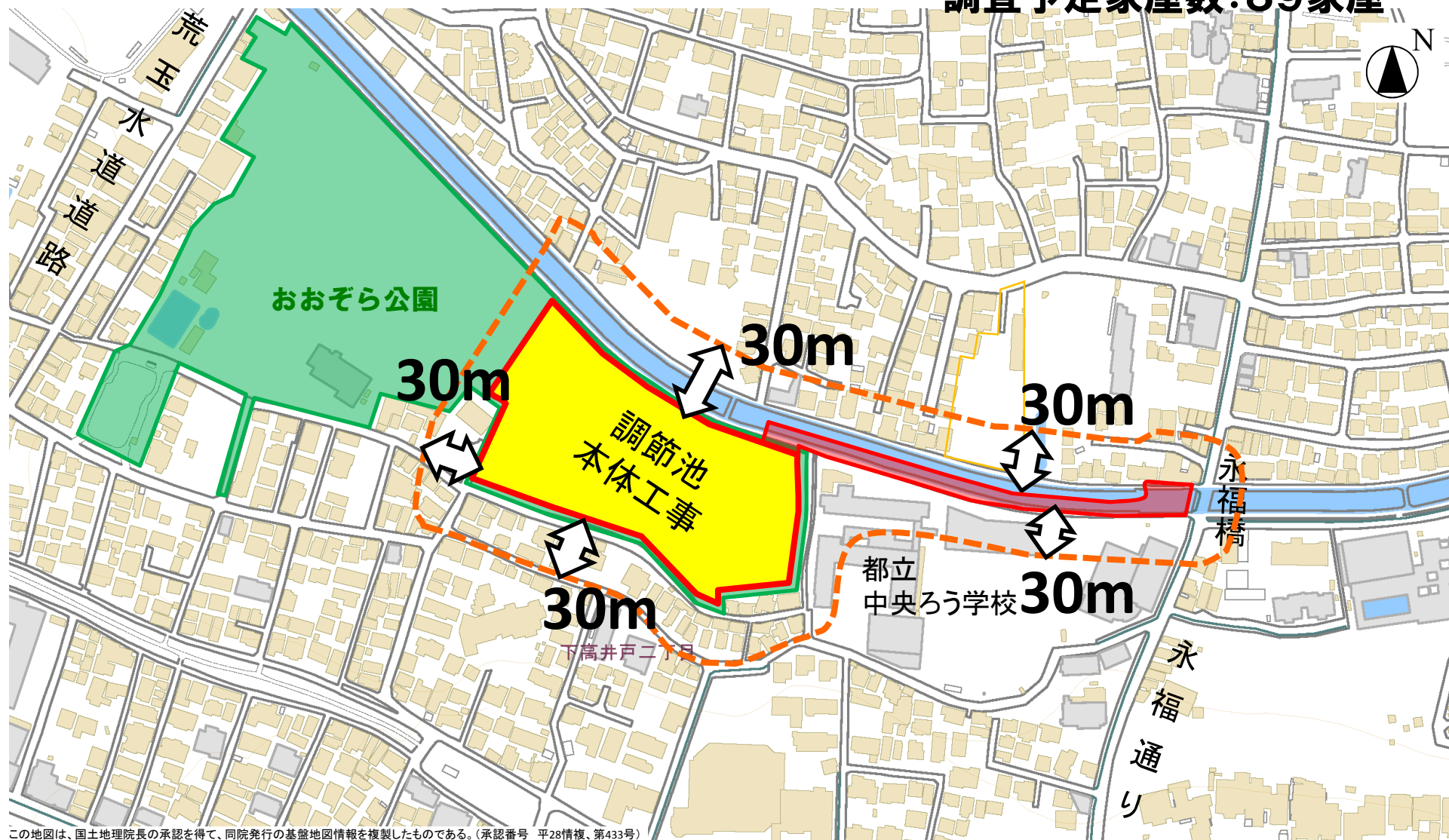
→着手前と完了後の家屋内外の状態を比較し、工事が原因で被害が生じたことが確認された場合、家屋復旧調査を行った後、金銭にて賠償します。

○家屋への影響が想定される工事内容（例）

- ・掘削、支持杭打ち込み時の振動など

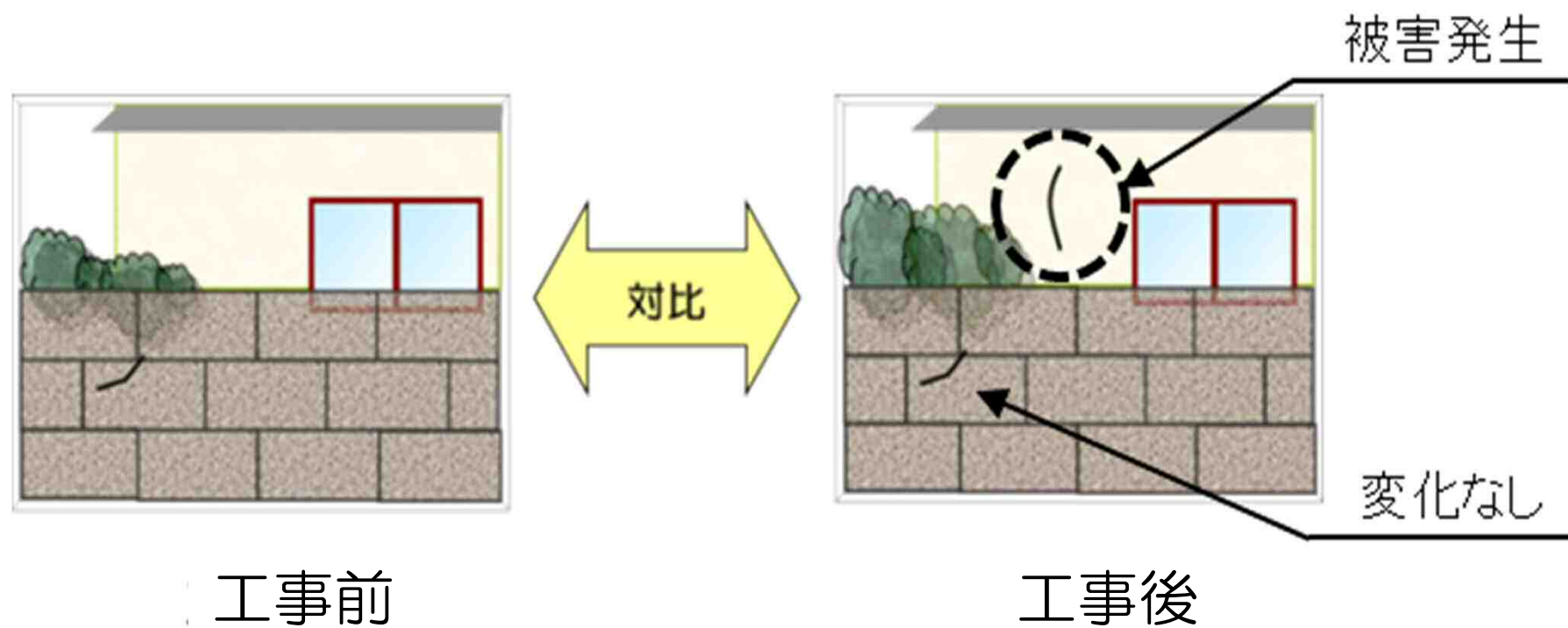
家屋調査対象範囲

調査予定家屋数:89家屋



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を複製したものである。(承認番号 平28情複、第433号)

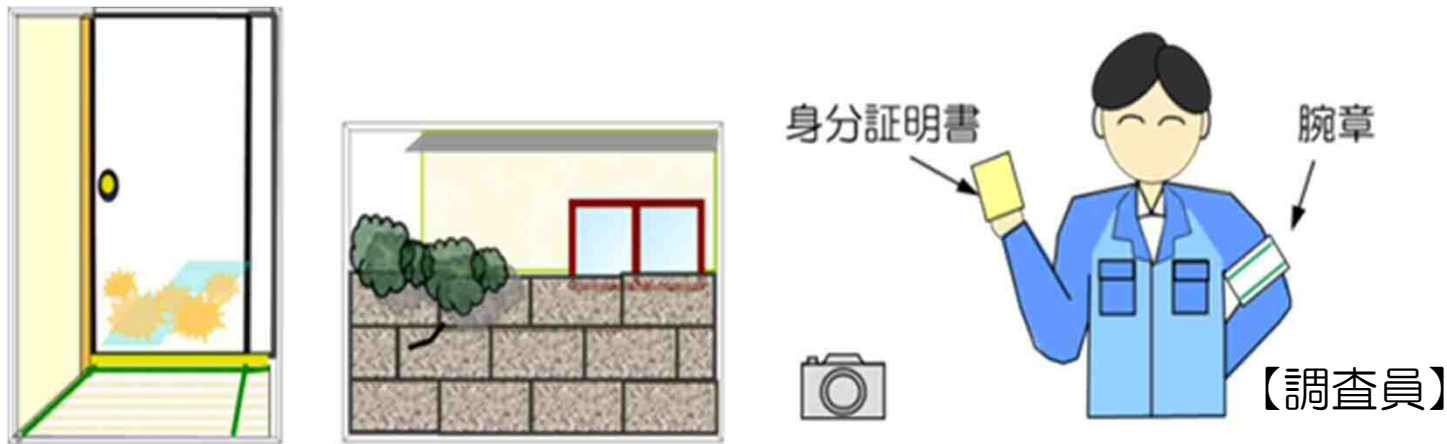
家屋損害の補償について



家屋調査の内容等

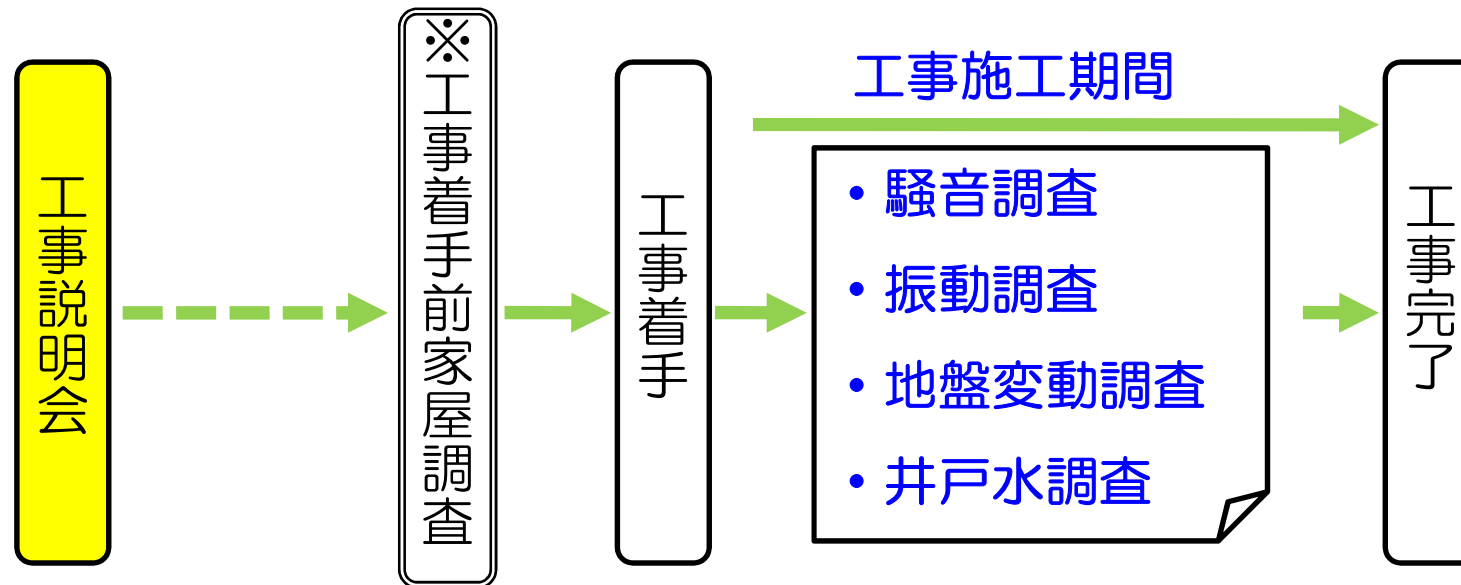
調査会社 中央クリエイト 株式会社

調査内容 屋内：柱や床の傾斜測定
壁や建具等の状態把握（写真撮影含む）
屋外：壁や塀等の傾斜測定
土間や扉等の状態把握（写真撮影含む）



※調査の際には、皆様方のお立会いをお願いいたします。
※調査期間は未定です。
※撮影した写真を含む個人情報 は 厳重に管理いたします。

家屋調査手順等



家屋調査員身分証明書

24〇建〇〇身第号

身分証明書

氏名

昭和 年 月 日生

勤務先

住所

上記の者は東京都施行の下記委託に従事する者であることを証明する。

記

1. 件 名

2. 委託場所

3. 委託期間 自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日

東京都〇〇建設事務所長

顔写真

公印

注 意

1. この証明書は、標記 委託 に従事する場合には、必ず携帯し、関係人に請求があったときは、いつでも提示しなければならない。
2. この証明書の記載事項は訂正しない訂正したものは無効とする。
3. この証明書は、他人に貸与し、又は譲渡してはならない。
4. この証明書を紛失したときは、すみやかに東京都〇〇建設事務所長へ届け出なければならない。
5. この証明書の有効期間は、委託期間とし、有効期間を経過したときは、すみやかに東京都〇〇建設事務所長へ返還しなければならない。

腕章



家屋損害賠償の手順について

工事後家屋調査 実施（外部への委託）

工事後家屋調査 取りまとめ



工事による家屋被害の認定



家屋復旧調査



賠償額提示



交渉・賠償額のお支払い（金銭による賠償）

はじめに

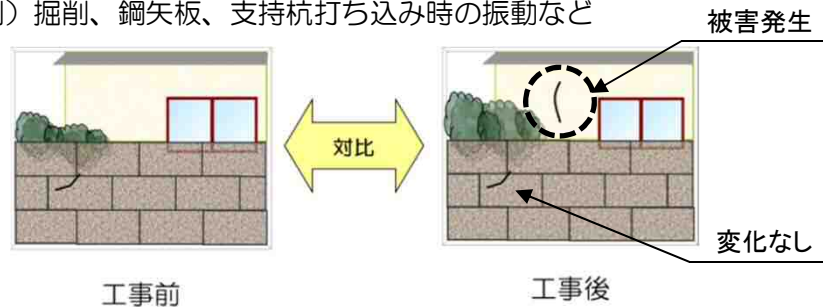
日頃より神田川整備事業にご理解、ご協力いただきありがとうございます。工事は、近隣家屋へ影響を及ぼさないように十分留意して進めて参ります。ここでは、工事に伴う家屋調査と損傷があった場合の損害賠償についてご案内させていただきます。

家屋調査とは

工事による近隣家屋への影響の有無について、正確に判断する資料を得るため、工事の着手前と完了後に家屋及び屋外の工作物を調査するものです。着手前と完了後の家屋内外の状態を比較し、工事が原因で被害が生じたことが確認された場合、家屋復旧調査を行った後、金銭にて賠償いたします。

【家屋への影響が想定される工事内容】

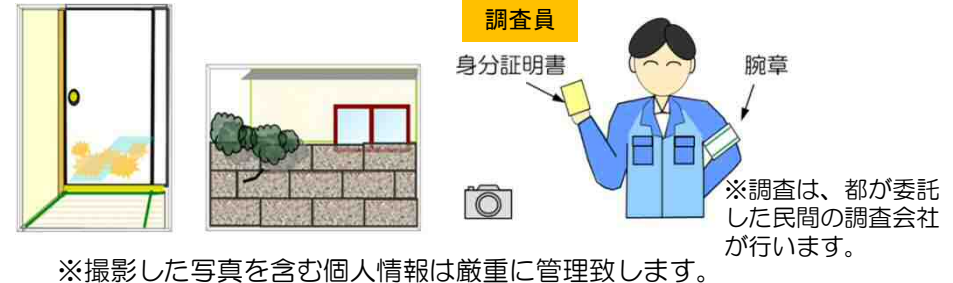
(例) 掘削、鋼矢板、支持杭打ち込み時の振動など



家屋調査の内容

屋内：柱や床の傾斜測定、壁や建具等の状態把握（写真撮影含む）

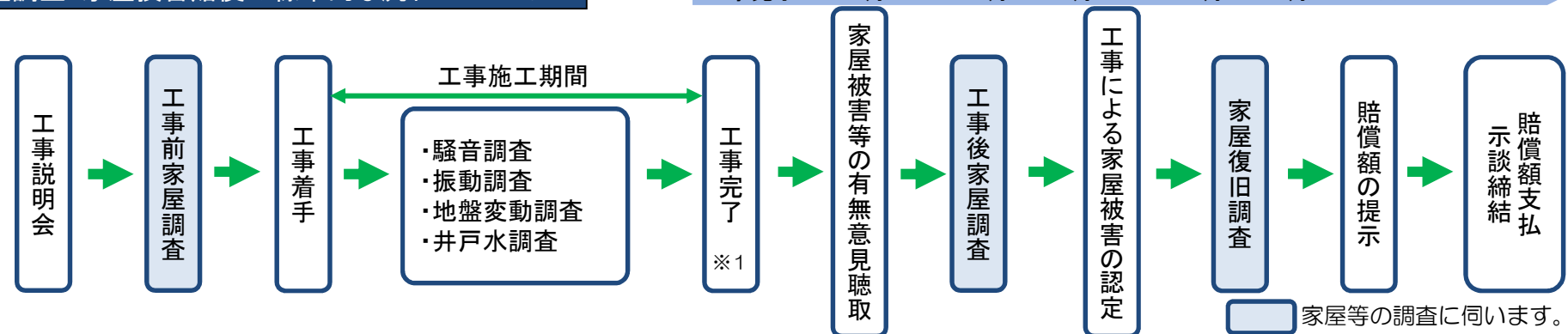
屋外：壁や塀等の傾斜測定、土間や扉等の状態把握（写真撮影含む）



注意事項

- ① 調査を辞退された箇所は、損傷と工事の因果関係を立証することが出来なくなるため、ご自身で因果関係を証明して頂かない限り、賠償することができません。
- ② 工事前家屋調査～家屋復旧調査の間に家屋等の補修・外壁の塗装などを行う際には、事前にご連絡ください。確認が出来ないまま家屋の補修等が実施され、損傷と工事の因果関係を立証できなくなった場合には、賠償することができません。
- ③ 家屋損害賠償は、金銭による賠償となります。また、損害賠償額は、被害を認定した時点の単価を用いて統一した基準により算定します。

家屋調査・家屋損害賠償の標準的な流れについて



※1 工事の影響が複数の工事にまたがる場合には、影響する全ての工事が完了した時点となります。

※2 記載の期間はおよその目安です。対象件数、内容、規模によって変更となることがあります。

(問合せ先) 東京都第三事務所工事第二課

工事担当 (03) 3387-2103 渉外担当 (03) 3387-2104

工事についての連絡先

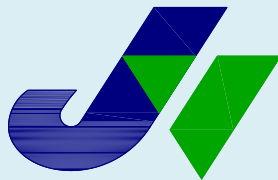
○発注者

東京都第三建設事務所 工事第二課
工事担当 青木、芦田 電話番号 03-3387-2103
設計担当 岡田、中井 電話番号 03-3387-6250

○施工者1（自転車集積所内整備工事、施工用栈橋設置工事）

松井建設株式会社
現場代理人兼監理技術者 石原
電話番号 070-6997-5387（携帯）

○施工者2（仮設栈橋工事、調節池工事）



JOINT VENTURE

大成・徳倉建設共同企業体
下高井戸調節池工事作業所
現場代理人 大塚
監理技術者 木村
連絡先: 070-4475-0980（木村携帯）
※現在事務所を設営しておりません。
工事着手前に設置する予定です。